

志津里遺跡発掘調査報告書

－県道玖珠山国線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)－

2012

大分県教育庁埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本報告書は、大分県教育委員会が平成22年度に実施した、県道玖珠山国線道路改良工事に伴う志津里遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、大分県土木建築部玖珠土木事務所の依頼を受けて、大分県教育委員会が実施した。
- 3 遺物や記録類の整理作業は、大分県教育庁埋蔵文化財センター(以下、センターという。)で実施した。
- 4 出土遺物及び関係資料は、センターで保管している。
- 5 本書で使用した地形図(1/25,000)は国土地理院作成のものを利用した。
- 6 本書の執筆・編集は、センター一般事業班 友岡信彦が担当した。
- 7 本書の作成にあたり、玖珠町教育委員会 佐藤祐二 野口良典 氏には協力及び助言を得た。

序 文

本書は、大分県教育委員会が、県土木建築部玖珠土木事務所の依頼を受けて実施した県道玖珠山国線道路改良工事に伴う志津里遺跡の発掘調査報告書です。

遺跡の所在する玖珠町は、大分県の中西部に位置しており、耶馬日田英彦山国定公園に囲まれた玖珠盆地を中心にした緑豊かな地域です。

志津里遺跡の発掘調査では、弥生時代から古墳時代にかけての溝跡が確認されました。溝からは多量の土器とともに、鍬などの木製品や石製品が出土しました。

また、南側の低丘陵上には、古墳時代前期の石棺墓8基が確認された志津里遺跡B地区が位置します。

この太田地区周辺は、他に志津里横穴墓、原口遺跡や八幡中学校遺跡など、多くの古墳時代の遺跡が存在しています。

本書が埋蔵文化財に対する保護・啓発、さらには学術研究資料として広く活用されれば幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまで、多大な御理解と御協力をいただきました関係各位に対し衷心から感謝申し上げます。

平成24年3月30日

大分県教育庁埋蔵文化財センター

所長 山口博文



玖珠郡玖珠町太田地区空中写真（1976年1月国土地理院撮影 C KU-76-1使用）

目 次

序文

例言

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経過	1
第2節 発掘調査の経過	1
第3節 整理作業等の経過	1
第4節 調査組織の構成	2

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要	5
第2節 志津里遺跡の調査	6

第4章 理化学的分析

志津里遺跡出土植物遺体の放射性炭素年代測定	41
-----------------------------	----

第5章 まとめ	44
---------------	----

挿 図 目 次

第1図	志津里遺跡周辺の遺跡分布図 ……	4	第19図	溝状遺構出土遺物実測図15 ……	23
第2図	志津里遺跡調査区位置図 ……	5	第20図	溝状遺構出土遺物実測図16 ……	24
第3図	志津里遺跡溝状遺構実測図 ……	7	第21図	溝状遺構出土遺物実測図17 ……	25
第4図	志津里遺跡溝状遺構土層実測図 ……	8	第22図	溝状遺構出土遺物実測図18 ……	26
第5図	溝状遺構出土遺物実測図1 ……	9	第23図	溝状遺構出土遺物実測図19 ……	27
第6図	溝状遺構出土遺物実測図2 ……	10	第24図	溝状遺構出土遺物実測図20 ……	28
第7図	溝状遺構出土遺物実測図3 ……	11	第25図	溝状遺構出土遺物実測図21 ……	29
第8図	溝状遺構出土遺物実測図4 ……	12	第26図	溝状遺構出土遺物実測図22 ……	30
第9図	溝状遺構出土遺物実測図5 ……	13	第27図	溝状遺構出土遺物実測図23 ……	31
第10図	溝状遺構出土遺物実測図6 ……	14	第28図	溝状遺構出土遺物実測図24 ……	32
第11図	溝状遺構出土遺物実測図7 ……	15	第29図	溝状遺構出土遺物実測図25 ……	33
第12図	溝状遺構出土遺物実測図8 ……	16	第30図	溝状遺構出土遺物実測図26 ……	34
第13図	溝状遺構出土遺物実測図9 ……	17	第31図	溝状遺構出土遺物実測図27 ……	35
第14図	溝状遺構出土遺物実測図10 ……	18	第32図	溝状遺構出土遺物実測図28 ……	36
第15図	溝状遺構出土遺物実測図11 ……	19	第33図	溝状遺構出土遺物実測図29 ……	37
第16図	溝状遺構出土遺物実測図12 ……	20	第34図	溝状遺構出土遺物実測図30 ……	38
第17図	溝状遺構出土遺物実測図13 ……	21	第35図	溝状遺構出土遺物実測図31 ……	39
第18図	溝状遺構出土遺物実測図14 ……	22			

表 目 次

表1	遺物観察表(1) ……	47	表10	遺物観察表(10) ……	56
表2	遺物観察表(2) ……	48	表11	遺物観察表(11) ……	57
表3	遺物観察表(3) ……	49	表12	遺物観察表(12) ……	58
表4	遺物観察表(4) ……	50	表13	遺物観察表(13) ……	59
表5	遺物観察表(5) ……	51	表14	遺物観察表(14) ……	60
表6	遺物観察表(6) ……	52	表15	遺物観察表(15) ……	61
表7	遺物観察表(7) ……	53	表16	木製品計測表 ……	61
表8	遺物観察表(8) ……	54	表17	石製品計測表 ……	62
表9	遺物観察表(9) ……	55	表18	土製品・玉類計測表 ……	62

写 真 図 版 目 次

図版1	遺構検出状況・遺物出土状況	図版9	出土遺物
図版2	完掘状況・溝状遺構土層堆積状況	図版10	出土遺物
図版3	遺物出土状況1・2	図版11	出土遺物
図版4	遺物出土状況3・4	図版12	出土遺物
図版5	遺物出土状況5・6	図版13	出土遺物
図版6	遺物出土状況7・発掘調査体験	図版14	出土遺物
図版7	出土遺物	図版15	出土遺物
図版8	出土遺物	図版16	出土遺物

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経過

調査の起因

県道玖珠山国線は玖珠町と中津市山国町を結ぶ全長21kmの主要地方道である。調査の起因となった玖珠山国線(太田工区)道路改良工事は、玖珠町太田地区の道路改良事業である。この事業区間内には、小学校・中学校が位置し、地域の文教の中心であるにも関わらず、幅員が狭く通勤通学等、交通の隘路となっている。

このため、当地区の中心部を迂回するバイパス工事を行うことによって、交通路の確保と沿線の小中学校児童・生徒のより安全な通行確保を目的としている。

調査の経過

県道玖珠山国線道路改良工事に先立ち、平成22年6月に土木建築部玖珠土木事務所から分布調査依頼を受け、平成22年7月に分布調査を実施した。その結果、路線内の一部地域で立会調査が必要となったため、平成22年10月に対象地約1,600㎡に幅1.5m、長さ3～20mのトレンチ4本を設定し、遺構の有無を確認した。

調査の結果、約350㎡の範囲内で竪穴住居跡と思われる遺構を確認したため、本調査が必要となった。また、当地区は、今まで遺跡として登録されていなかったため、新発見の遺跡として所在地の字名から『志津里遺跡』とし、大分県遺跡台帳に登録を行った。

その後、志津里遺跡本調査中の平成22年11月に、同路線内で当調査区から約300m南の丘陵上の確認調査依頼を受け、調査を行ったところ、石棺墓2基を確認した。このため、当地区も本調査の対象となった。なお、この遺跡も新発見の遺跡として『志津里遺跡B地区』とし、大分県遺跡台帳に登録を行った。

志津里遺跡と志津里遺跡B地区の本調査は、平成22年11月8日～平成22年12月14日の間実施した。調査面積は2地区合計で515㎡であった。

志津里遺跡B地区の調査中、石棺墓内から古墳時代の人骨が確認されたため、平成22年12月7～9日に九州大学大学院比較社会文化研究院の田中良之教授に人骨の実測・取り上げ等現地指導をお願いした。

また、今年度(平成23年度)志津里遺跡B地区では、昨年度調査区の北側でさらに6基の石棺墓が確認され、平成24年3月まで調査を行ったため、今年度予定していた志津里遺跡B地区の報告書作成は次年度とした。

志津里遺跡の整理作業は、平成23年4月～9月に実施し、平成23年度に報告書を刊行した。

第2節 発掘作業の経過

発掘調査は、埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)が調査主体となって実施した。重機や労務管理など支援業務については、民間へ一括委託する体制をとった。委託内容は、①重機による表土除去、②人力による遺構検出、③人力による遺構掘削、④遺構実測、⑤遺構写真、⑥空撮、現場管理などであった。一方、センターでは担当者が調査区の設定、遺構面の確認、遺構の平面形、規模・配置・相互関係の確認、埋土の分層を行い、遺物出土状態、付属施設を確認するなど個別遺構の性格、また遺跡全体の把握を行ったうえで、受注業者の調査技師に作業段階に応じた指示等を行うなど調査精度を確保する体制で臨んだ。

第3節 整理作業等の経過

整理作業は、基本作業と資料作成業務を一括して委託し、作業場所をセンターとして実施した。具体的な内容は、①遺物水洗、②遺物注記、③遺物接合、④遺物復元の4工程を前半工程とし、⑤遺物実測、⑥遺物拓本、⑦遺物観察基礎データ作成、⑧遺物実測図トレース、⑨遺構図トレースの4工程を後半工程とした。諸作業として、遺物取り出し、遺物区分け・整理、遺物収納、整理作業施設の清掃等の4作業を加えて整理作業を委託した。

報告書作成作業のうち、遺物図版・遺構図版の作成、遺物写真撮影、遺物及遺構写真図版の作成、原稿執

筆、編集作業については担当職員が行った。

整理作業の経過

志津里遺跡の出土遺物の量は、コンテナケースで180箱であった。

平成23年5月1日から平成23年9月30日に遺物水洗から遺物実測図トレースを実施した。

遺物写真撮影は、平成24年1月に行った。

原稿執筆は10月から開始し、遺物整理作業の進捗に応じて随時進め、1月に終了した。

入稿は平成24年1月に行い、初稿を平成24年2月に受け取り、随時校正を行った。3校を3月に終え、校了とした。

第4節 調査組織の構成

調査時の調査体制については下記のとおりである。

平成22年度

山口博文	埋蔵文化財センター	所長
坂本嘉弘	埋蔵文化財センター	次長
宮内克己	埋蔵文化財センター	次長
春山義光	埋蔵文化財センター	管理予算班課長補佐（総括）
高橋信武（調査担当）	埋蔵文化財センター	資料管理班主幹
友岡信彦（調査担当）	埋蔵文化財センター	一般事業班主幹

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

玖珠町は大分県の中西部に位置し、九州最大の河川である筑後川上流、玖珠川の周囲に開けた盆地を中心としている。

盆地周辺は、第4紀の万年山溶岩や耶馬溪溶結岩により形成された万年山をはじめとする、大岩扇山、小岩扇山、伐株山、角埋山などメサ(卓上台地)と呼ばれる独特な地形を持つ山々に囲まれている。特に大岩扇山はメサ地形として天然記念物に指定されている。また、万年山はペディオニーテ型メサと呼ばれ上下二段となっている。

玖珠盆地はこれらの山々に囲まれた東西に長い三日月型を呈しており、中央には、九重連山を源とする玖珠川が東西に流れている。盆地内の標高は340~370mで、春から秋にかけては比較的過ごしやすいが、冬場に入ると県内でも屈指の低気温地域となっている。

今回調査を行った志津里遺跡は玖珠町中心部より4kmほど北寄りの大字太田字志津里に存在する。太田地区は、集落の中央を太田川が南流し、四日市で玖珠川と合流する。

志津里遺跡はこの太田川沿いの沖積地上に位置し、周囲を低丘陵が取り巻いている。

志津里遺跡の周辺は、南側に八幡中学校遺跡、志津里遺跡B地区、北側に原口遺跡・平井台古墳など多くの古墳時代の遺跡が所在している。この一角に志津里遺跡も位置する。

第2節 歴史的環境

玖珠地域は、筑後川上流域に位置し、日田地域とともに先史時代より北部九州と東九州を結ぶ、文化・交通の要衝地として重要な位置を占めている。さらに当地域には遺跡の立地として良好な低丘陵や河岸段丘が発達していて、旧石器時代から近世に至るまで数多くの遺跡が存在している。

志津里遺跡周辺の旧石器時代の遺跡としては、太田巨石遺跡や、太田本村遺跡が確認されている。

縄文時代の遺跡は、平成6・15年度に調査を行った八幡中学校遺跡から、縄文時代後期後葉頃の土器や石器が確認されている。

弥生時代になると盆地周辺の低丘陵や河岸段丘上に多くの遺跡が確認されるようになる。志津里遺跡周辺では元畑遺跡や太田遺跡などが確認されている。

古墳時代には、志津里遺跡を取り巻く周辺の丘陵上に数多くの古墳や石棺墓、横穴墓などが築かれていく。遺跡の北側低丘陵上には、原口遺跡や岩崎台遺跡、平井台古墳が位置する。南側には志津里横穴墓や太田本村横穴群が所在する。

また、志津里遺跡と同時進行で調査を行った志津里遺跡B地区では、今年度も継続して調査が行われ、合計8基の石棺墓を確認・調査を行った。また、志津里遺跡B地区の東側には八幡中学校遺跡が所在する。平成15年の調査では23基の箱式石棺・土坑墓が調査されている。これらの遺跡の多くは低丘陵上や沖積地上に位置している。

古代に入ると、正確な成立年代は不詳であるが、天平五年(733年)頃までに成立したと見られる『豊後国風土記』に「球珠郡」という記述が見られるように(「玖」ではなく「球」)、この頃には既に大和政権の律令国家体制に組み込まれていたものと考えられる。この球珠郡内には3つの郷が置かれた[球珠の郡 郷は三所里は九、駅は一所なり。]と記されているが、具体的な地名は記されていない。この三郷については、平安時代に編集された『和名類聚抄』によると今巳・小田・永野の三郷があげられている。

中世になると豊後清原氏の勢力範囲に含まれるようになり、『豊後国凶田帳』によると長野荘・山田郷・古後郷・帆足郷などが成立していくことになる。この清原氏につながる武士団が球珠郡内に広く勢力を伸ばし、小田氏、中島氏、魚返氏、古後氏、永野氏、森氏などといった球珠郡衆と称される武士団によって支配されるようになっていった。このことから、球珠盆地内には多くの中世城館が知られている。この大半が、玖珠川北岸の太田川や森川周辺に立地している。

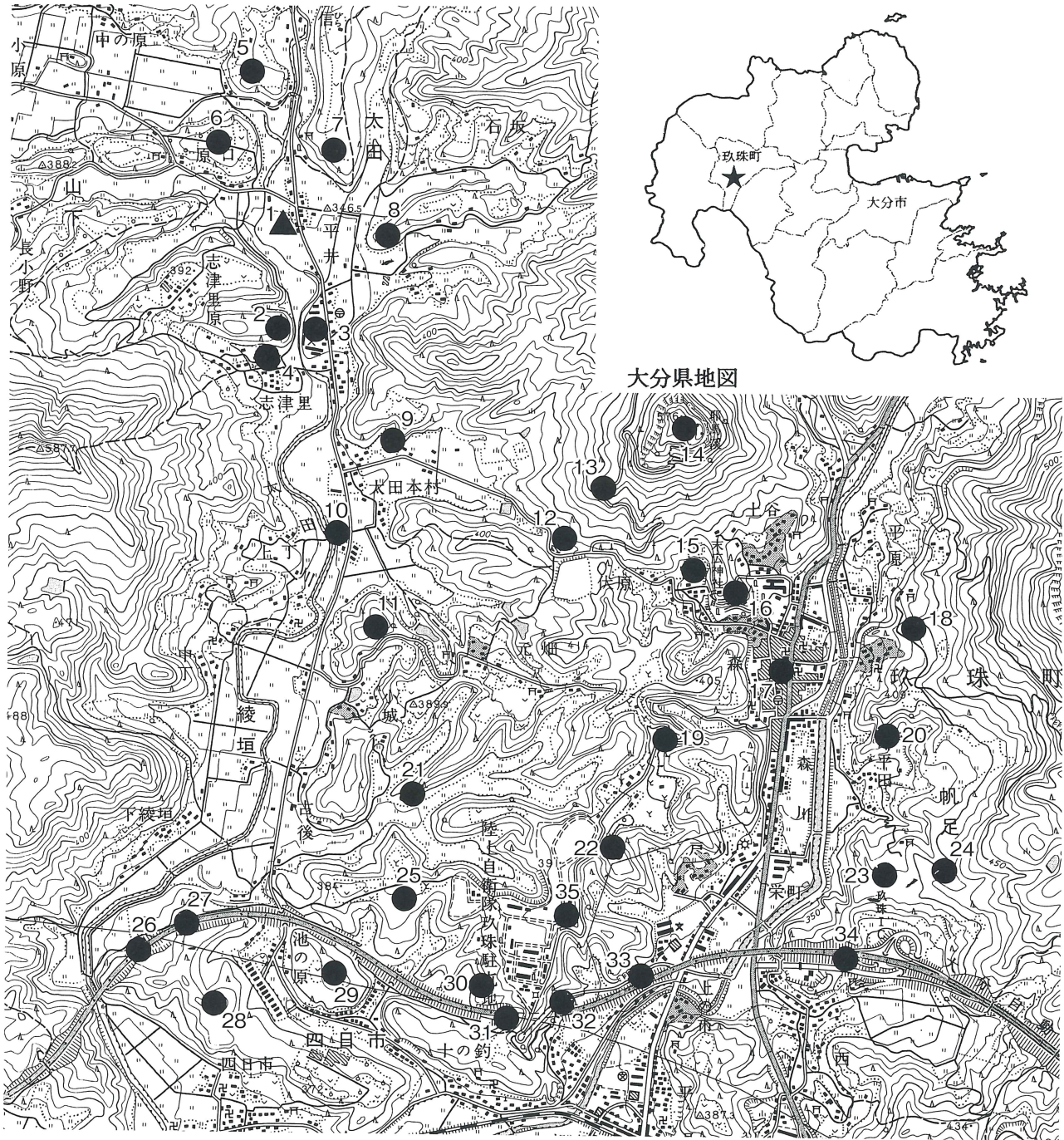
盆地南部には、伐株山城跡が位置し、南北朝争乱期や薩摩島津軍の豊後侵攻時には戦いの場となったことは広く知られている。

その他に、球珠郡から豊前に抜ける要衝地に位置する角牟礼城跡が、角埋山頂上部に築かれている。

文禄二年(1593)に豊後大友氏が改易されて以降、太閤蔵入地となり、慶長元年(1596)に毛利高政が球珠・

日田の代官として入封する。

慶長六年(1601)に来島(久留島)康親が玖珠郡・日田郡・速見郡内の1万4千石を得て入封し、角埋山の麓に陣屋を置き、以降幕末まで森藩として幕末を迎える。



第1図 志津里遺跡周辺の遺跡分布図

- | | | | | |
|---------------|-------------|-----------|------------|-----------|
| 1 志津里遺跡 | 2 志津里遺跡 B地区 | 3 八幡中学校遺跡 | 4 志津里横穴墓 | 5 岩崎台遺跡 |
| 6 原口遺跡 | 7 平井台古墳 | 8 元畑遺跡 | 9 太田本村横穴墓群 | 10 太田遺跡 |
| 11 古後城跡 | 12 太田本村遺跡 | 13 太田巨石遺跡 | 14 角牟礼城跡 | 15 伏原立石遺跡 |
| 16 久留島陣屋跡 | 17 森城下町跡 | 18 平原遺跡 | 19 上ノ原遺跡 | 20 平原横穴墓 |
| 21 中原古墳 | 22 千人塚古墳 | 23 平田山土塁跡 | 24 鬼ヶ城古墳 | 25 池ノ原遺跡 |
| 26 下綾垣横穴墓群 | 27 下綾垣遺跡 | 28 西の原遺跡 | 29 池ノ原B遺跡 | 30 井ノ尻古墳 |
| 31 四日市上ノ原横穴墓群 | 32 鷹巣横穴群 | 33 治別当遺跡 | 34 瀬戸遺跡 | 35 名草台遺跡 |

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

志津里遺跡は、玖珠郡玖珠町大字太田字志津里に所在する。遺跡は太田川上流域の標高345m前後の東・西・北を低丘陵に囲まれた小規模な沖積地上に立地する。

遺跡周辺は原口遺跡や岩崎台遺跡、平井台古墳、志津里横穴墓など古墳時代の遺跡が多数存在する地域である。しかし、その他の時代の遺跡は、角牟礼城跡や、弥生時代の元畑遺跡が確認されている程度である。

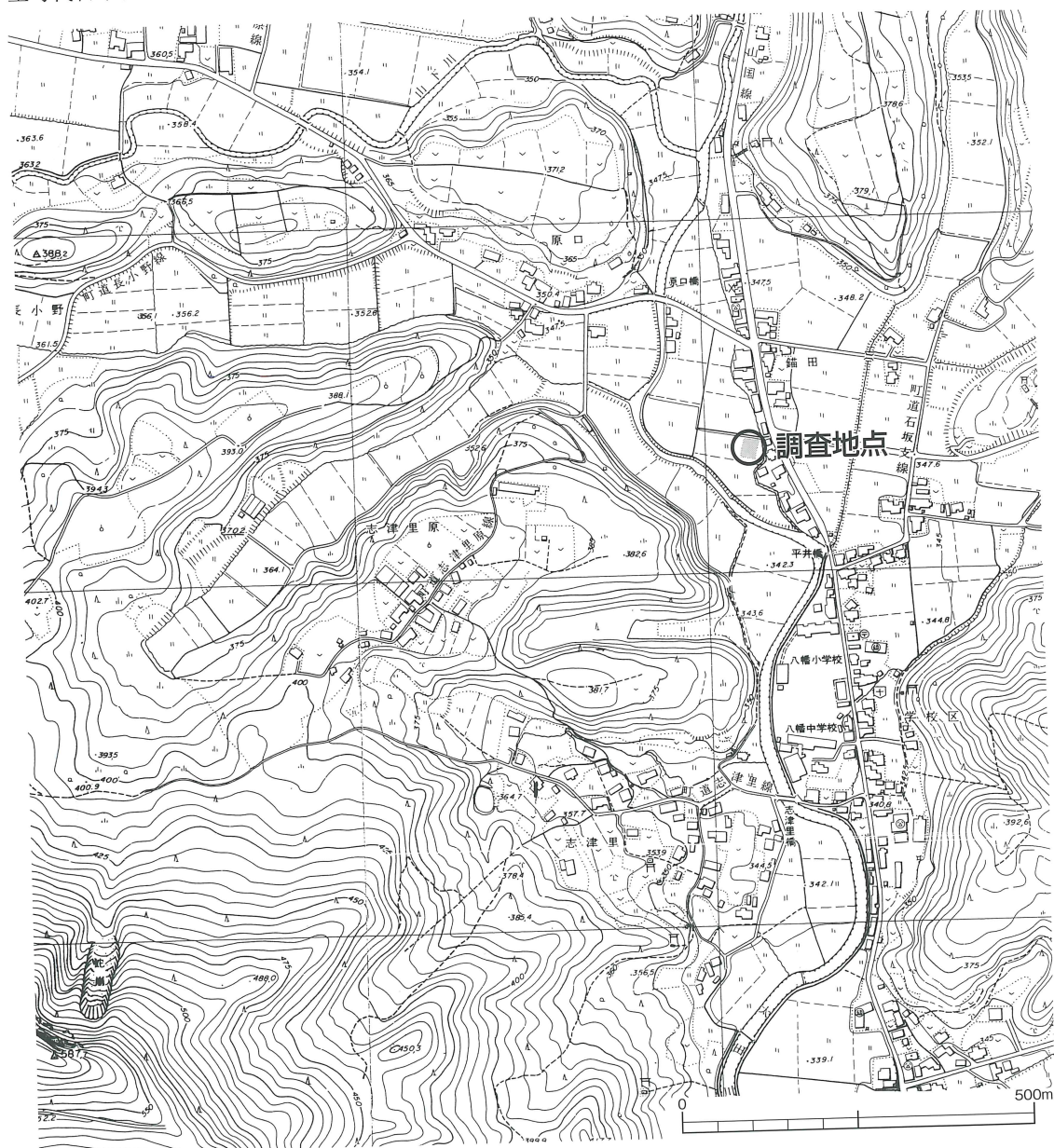
遺跡の現況は水田で、周辺は既に圃場整備を終えていて調査区外の北側の水田より1m程度低地に位置する。

試掘調査では、古墳時代の土師器が多量に出土し、住居跡と思われる掘り込みラインが確認された。

本調査では表土剥ぎの段階で、溝状の遺構を検出し、集落を囲む環濠と想定したが、調査の結果、この遺構は床面が比較的平坦で、水の流れた跡が確認できた。環濠等の堀の形態ではなく、このことからこの遺構は、溝とした。

調査区内からは、この溝状遺構1条以外には、圃場整備前の新しい溝3条を検出した。

出土遺物は、弥生時代終末～古墳時代注記前半頃までの土器が多量に出土している。土器以外には、弥生時代終末頃と考えられる木製品や、石器等が出土している。



第2図 志津里遺跡調査区位置図 (1/10,000)

第2節 志津里遺跡の調査

志津里遺跡の調査は、平成22年11月5日から12月5日まで行った。調査面積は約362㎡である。確認した遺構は、弥生時代終末～古墳時代中期頃の溝状遺構1条と、近代の溝3条であった。

溝状遺構(第3図)

溝状遺構は、ほぼ南北に長い調査区を北西から南東方向に斜めに横切っている。調査区外へと延びる溝状遺構の北西部分は、北側の水田下へと延びている。この水田は調査区より1m程度高く、残りは良いものと考えられる。南東部分は一部水路に切られ、住宅地へと延びている。

溝状遺構は幅5～7m、長さは調査区内で約18m、深さは1.0～1.2mである。この溝だけで調査区のほぼ30%の面積を占めている。

溝状遺構からは多量の遺物が出土している。土層の堆積状況などからみて、この溝は一度堀直しを行っており、2時期にわたって使用されていたと考えられる。

埋土堆積状況(第4図)

上層(1～11)は黒色系の粘質土が堆積している。出土遺物の大半はこの層からの出土で、土器を多量に含んでいる。旧河川の流れが滞り、水が流れていない状況での遺物の廃棄と考えられる。出土遺物から見た時期は古墳時代前期～中期頃と思われる。中層(12～18)は砂礫と粘質土が交互に堆積している。12層は灰色砂礫層で上層より古い時期の堆積と考えられる。13・14層は粘質土で15・18層は砂礫層である。旧河川で水の流れが合ったと考えられる。遺物は土器も多く出土するが、木製品や、桃・トチ等の種子も多く出土している。下層(19～23)は、砂礫層中心の層で、旧河川の跡と考えられる。土器等も出土しているが、僅かでありローリングを受けているものが多い。

出土遺物(第5～35図)

出土遺物は溝状遺構内の全域から出土していて、総数はコンテナ箱で180箱であった。遺物は多量の土師器や、木製品などであった。

出土遺物の年代は、弥生時代終末～古墳時代初頭の遺物と、古墳時代前期中頃～中期前半頃の時代が主に出土している。以下に遺物の時期別分類を行う。

弥生時代終末～古墳時代初頭(第5～12図)

甕(第5～7図) この時代の甕の器形はほぼ同じであるが、器面調整により大きく3器種に分類される。

1類は1～19である。口縁部は緩く反転しながら外方向へ開く。反転はやや弱いものが多い。胴部は口径よりやや外に張り出す。底部は平底から丸底で小さい。器面は外面が縦方向のハケ目調整、内面が斜めか横方向のハケ目調整が多い。口径は11.5～23.0cmである。ほぼ完形の甕は1で、口径23.0cm、器高27.6cm、底部は小さい平底で径は2.6cmである。

2類は20～29である。器形は1類とほぼ同様である。器面調整は外面がタタキによる整形を行い、その後ハケ目または削り調整を行っている。内面は削り調整やナデ・ハケ目調整である。口径は14.1～24.4cmである。全体像が復元できるのは24で口径14.1cm、器高22.0cm、底部は丸底である。

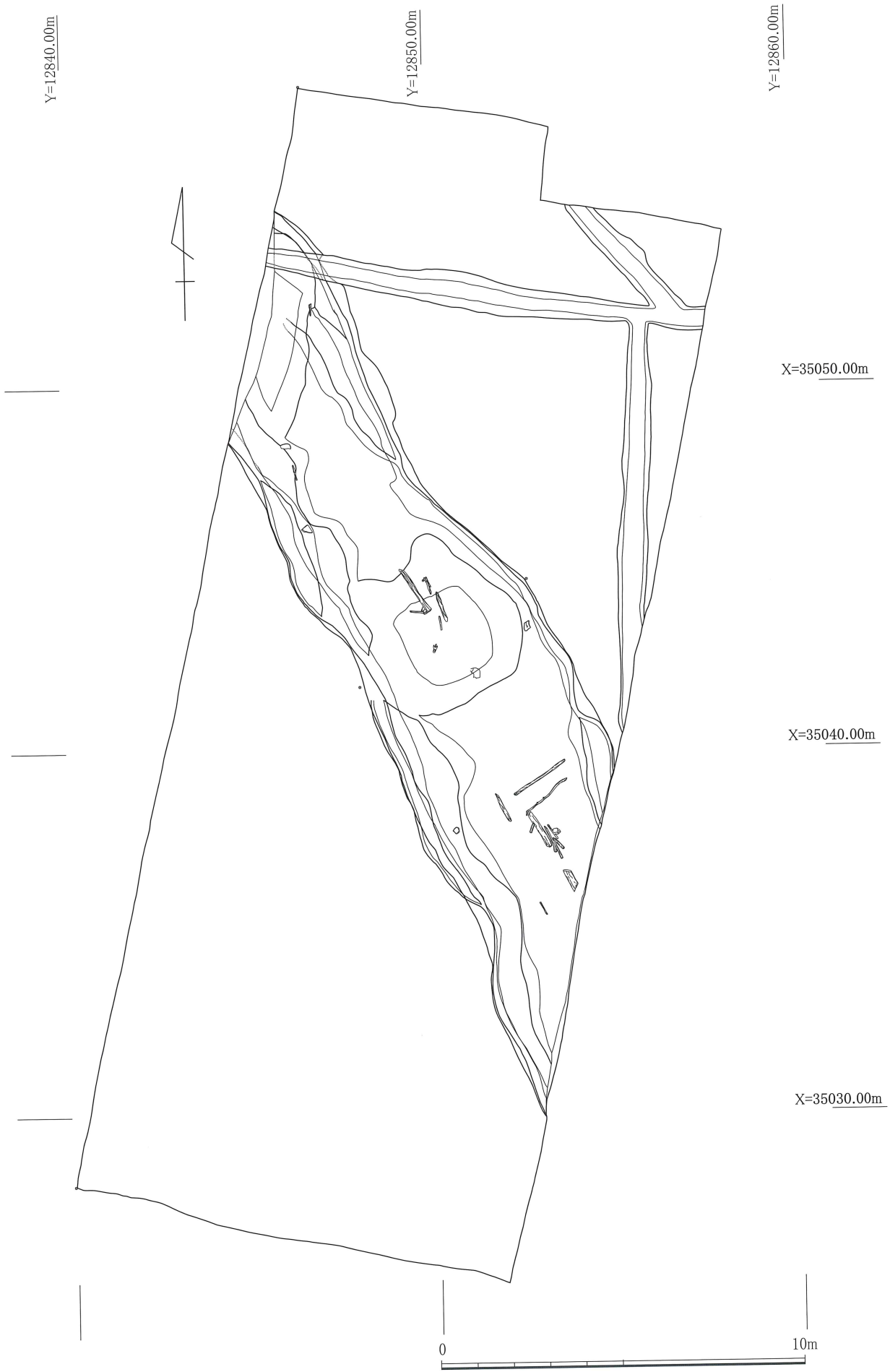
3類は30～32である。器形は1・2類とほぼ同様である。器面調整は外面が縦・斜め方向のハケ目調整、内面は削り調整を主としている。口径は13.6～20.2cmである。

33～36は胴部から底部にかけての破片である。

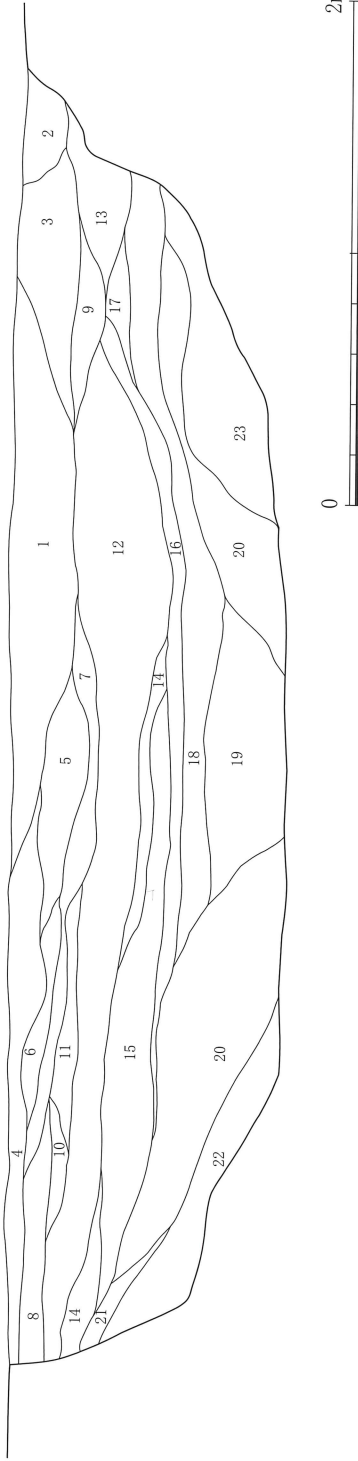
複合口縁壺(第8・9図) 大きく2器種に分類される。

1類は37で、口縁部が丸みを持ちながら内傾していく北部九州系の土器で、口径(復元)は14.0cmである。

2類は38～44で、口縁部が外反しながら直立する。胴部はやや大きく張り出し、底部は不安定な平底から丸底である。在地系の土器である。44は大型の壺で、口縁部は意図的に打ち欠いている。胴部最大径は74.5cm、頸部までの高さ79.1cm、頸部径28.5cm、底部は不安定な平底で径7.1cmである。

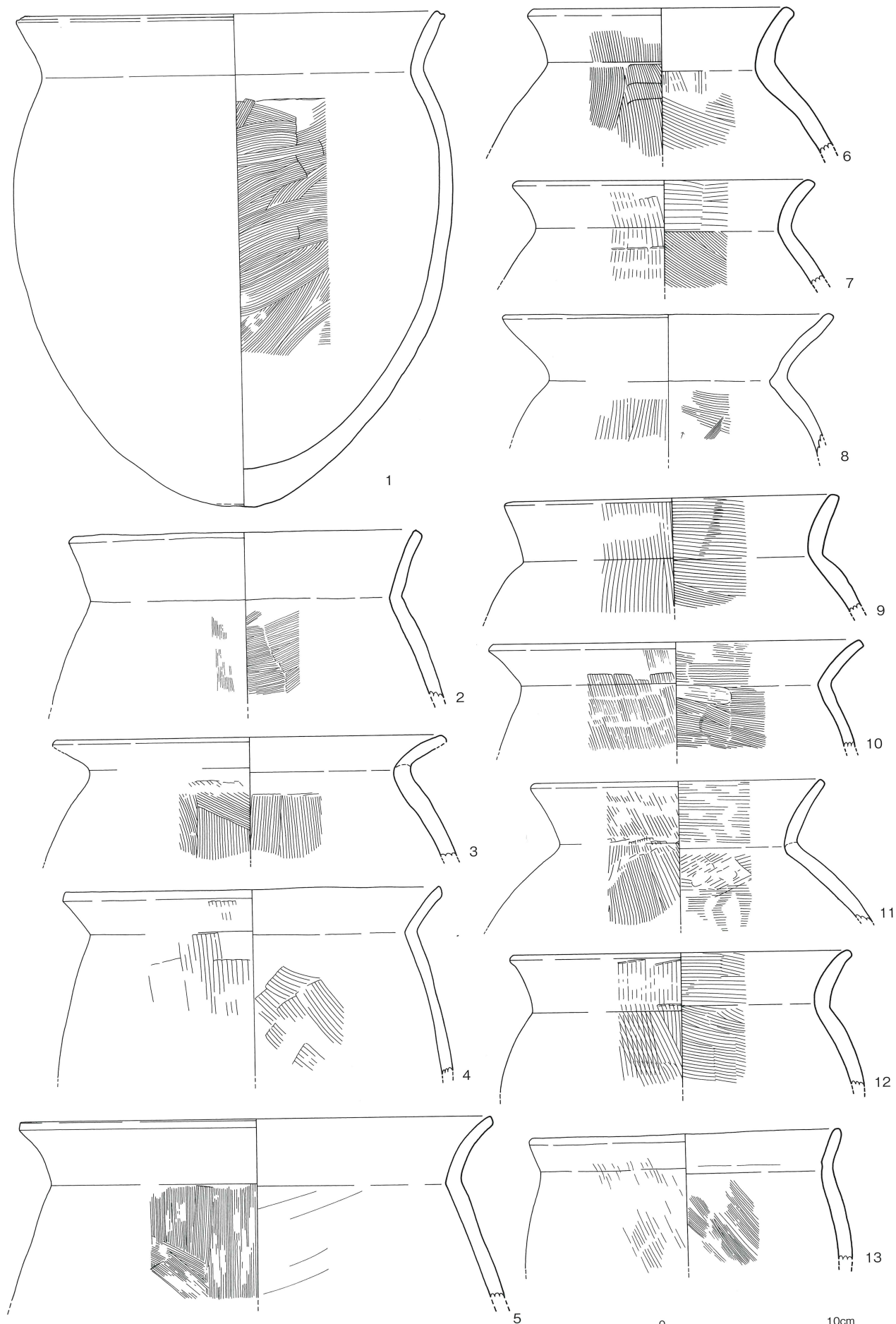


第3図 志津里遺跡溝状遺構実測図 (1/150)

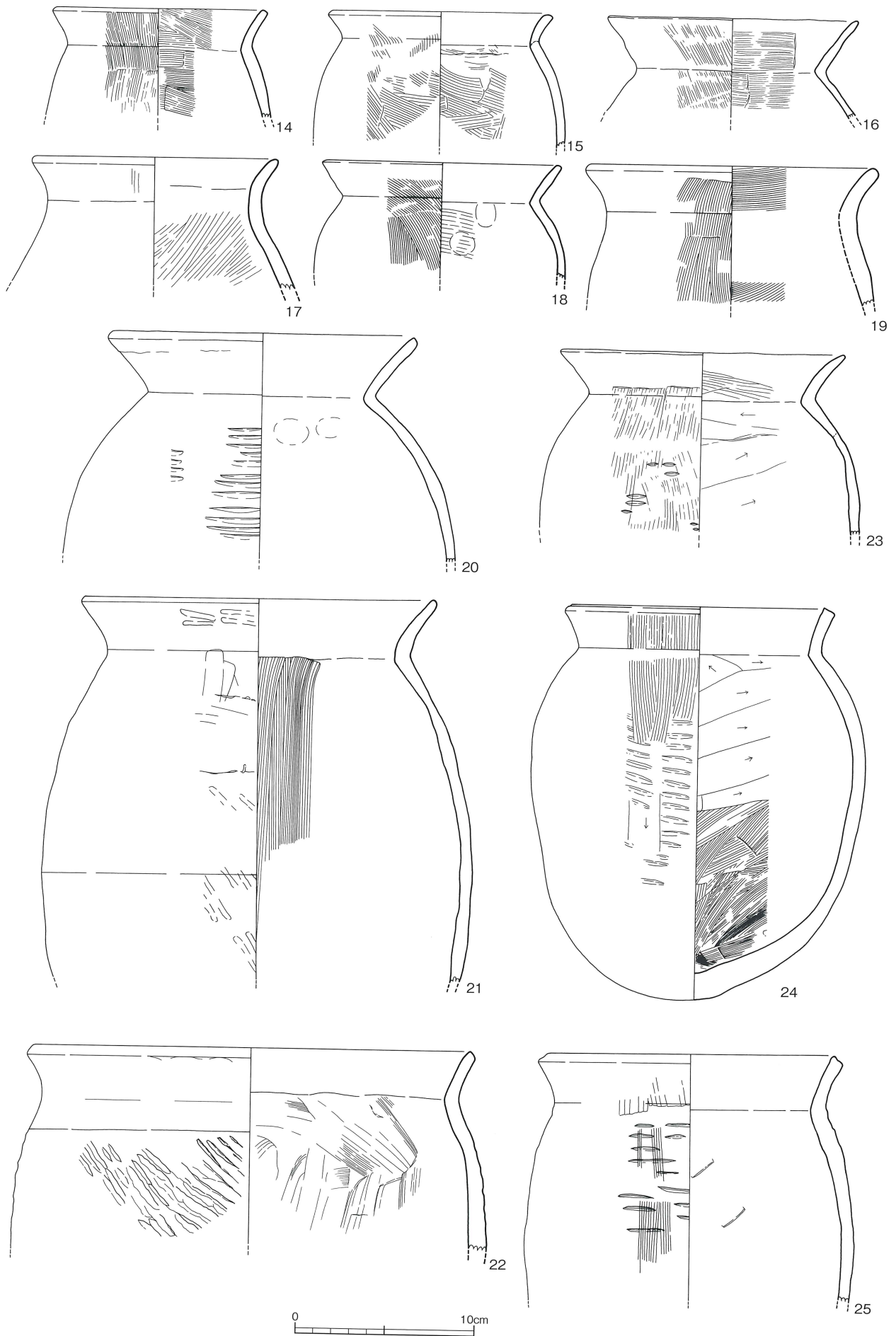


- | | | | |
|----|----------|----------|-------------------------------------|
| 1 | 7.5YR3/1 | 黒褐色粘質土 | 粘性あり。細砂混じり。土器片多量に含む。2～3mmの小礫混じり。 |
| 2 | 2.5Y6/2 | 灰黄色土 | 地山土の落込みか。1cm前後の礫混じり。 |
| 3 | 7.5Y2/1 | 黒色粘質土 | 粘性あり。細砂混じり。土器多量に含む。5～10mm前後の円礫多く含む。 |
| 4 | N2/ | 黒色粘質土 | 粘性あり。土器多量に含む。 |
| 5 | N2/ | 黒色粘質土 | 粘性あり。土器多量に含む。4層よりやや硬い。 |
| 6 | N/3 | 暗灰色粘質土 | 細砂多く含む。黄褐色地山土がブロック状に混じる。 |
| 7 | 7.5Y2/1 | 黒色粘質土 | 細砂ラミナ状に混じる。土器多量に含む。 |
| 8 | N1.5/ | 黒色粘質土 | 粘性あり。 |
| 9 | 10Y | 黒色粘質土 | 地山土 プロック(粘土塊)混じり。土器多量に含む。 |
| 10 | N3/ | 暗灰色粘質土 | 粘性あり。地山土混じり |
| 11 | 5Y5/1 | 灰色粘質土 | 細砂混じり。 |
| 12 | 5Y4/1 | 灰色砂礫層 | 5cm前後の礫と細砂で構成された層。やや古手の土器混じり。 |
| 13 | N3/ | 暗灰色粘質土 | 細砂多く混じる。有機物混じり。 |
| 14 | 2.5Y6/2 | 灰黄色礫まじり層 | 粘質土混じり。1～3cmの礫。 |
| 15 | 5Y4/1 | 灰色砂礫層 | 13層とはほぼ同層。 |
| 16 | N3/ | 暗灰色粘質土 | 細砂多く含む。有機物を多く含む。 |
| 17 | N6/ | 灰色砂層 | 細砂層。1cm以下の礫混じり。 |
| 18 | 7.5Y6/1 | 灰色砂層 | やや粗めの砂主体の層。1cm以下の礫混じり。 |
| 19 | 2.5YR4/8 | 赤褐色礫層 | 1～10cm大の円礫多く含む。鉄分が沈着している。 |
| 20 | N4/ | 灰色砂層 | 旧河川(流路跡)の堆積物。色調・粒子の異なる砂層の堆積。 |
| 21 | 5Y6/1 | 灰色砂礫層 | 3cm前後の礫混じり。 |
| 22 | 5Y4/1 | 灰色砂礫層 | 1cm前後の小礫多く含む。 |
| 23 | N7/ | 灰白色粘土 | 粘土層。土器片等の出土はない。地山土か。 |

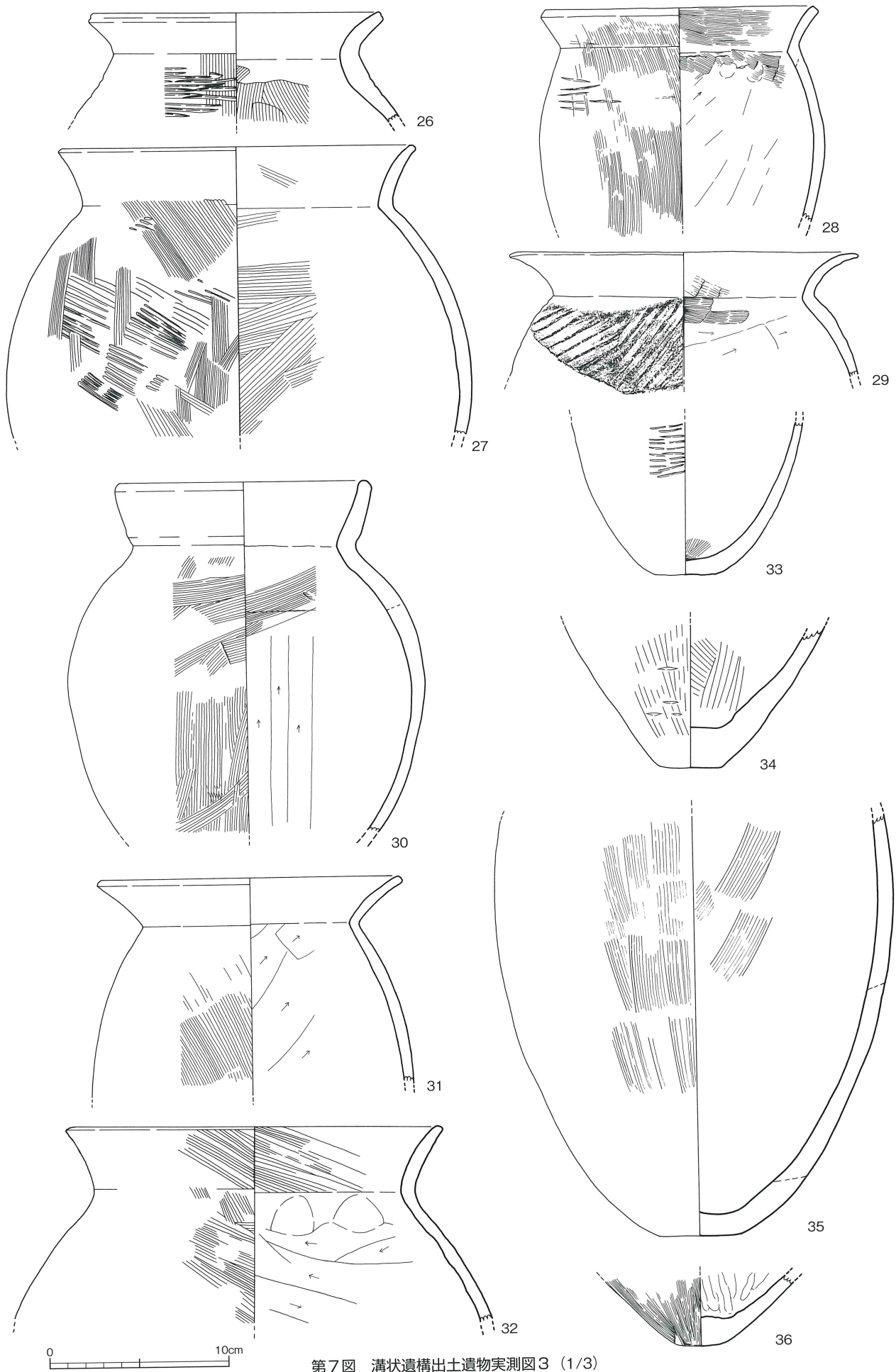
第4図 志津里遺跡溝状遺構 土層実測図 (1/30)



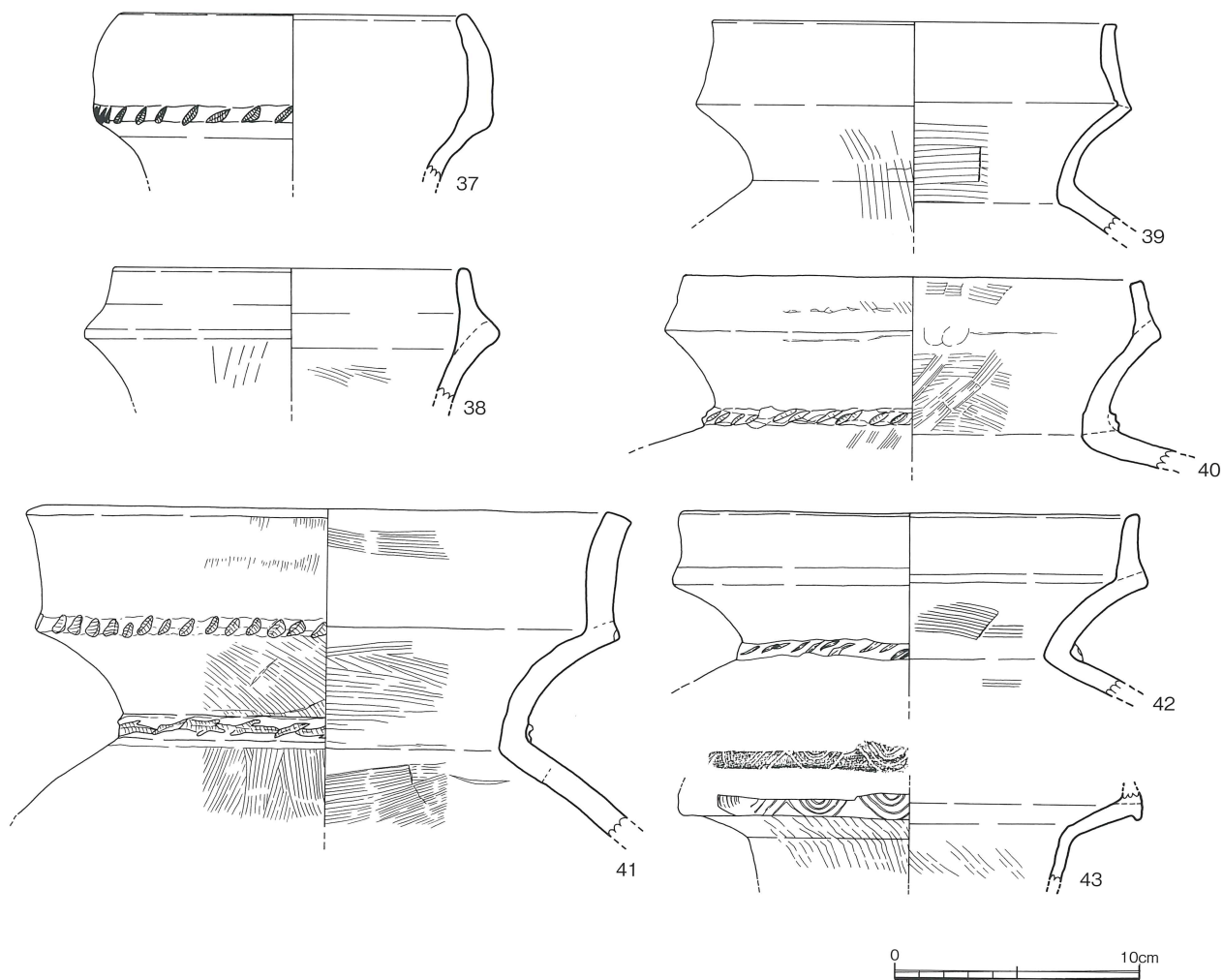
第5図 溝状遺構出土遺物実測図1 (1/3)



第6図 溝状遺構出土遺物実測図2 (1/3)



第7图 溝状遺構出土遺物実測図3 (1/3)



第8図 溝状遺構出土遺物実測図4 (1/3)

短頸壺(第10図) 45~54でやや短い口縁部は直立、あるいはわずかに外に開く。胴部は卵球形で丸底である。外面はタタキによる整形後、ハケ目調整。内面はハケ目あるいは削りによる調整である。

高坏(第11図) 志津里遺跡から出土したこの時代の高坏は、出土数が少ないが坏部で大きく2器種に分類される。

1類は55で、大きく外に開く口縁部からやや急に屈曲する坏部に至るものである。脚部は円筒状をなし、端部は反転しながら外へ開く。

2類は56で、やや内傾する口縁部の端部が短く屈曲して開く。57~61は脚部である。

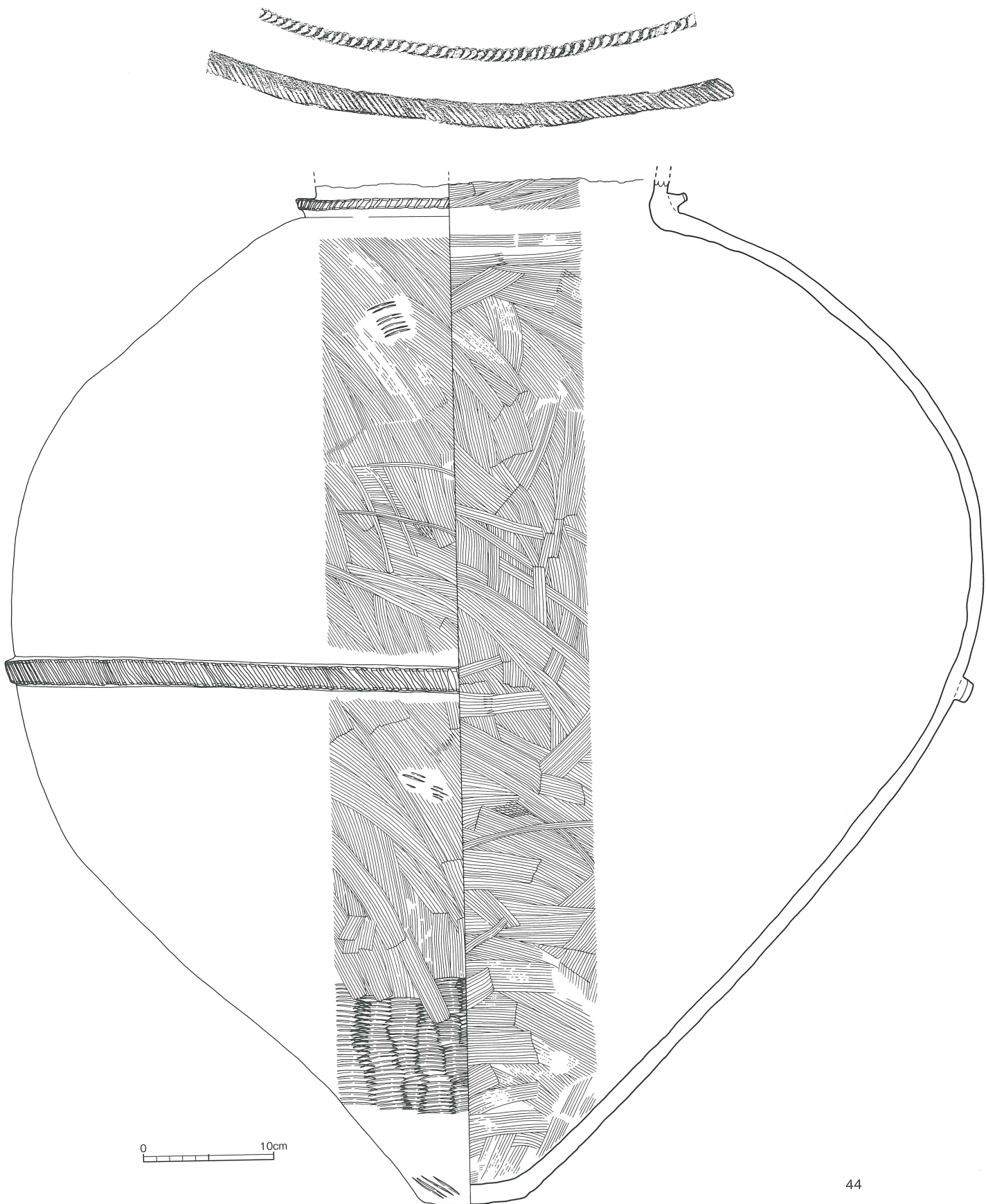
器台(第11図) この時代の器台は62の1点が出土している。筒状をなし、上端部は反転しながら外に開き、下端部はそのまま開いていく。

鉢(第11・12図) 鉢は完形或いはほぼ完形品が多く出土している。この鉢も器形によって2器種に分類できる。

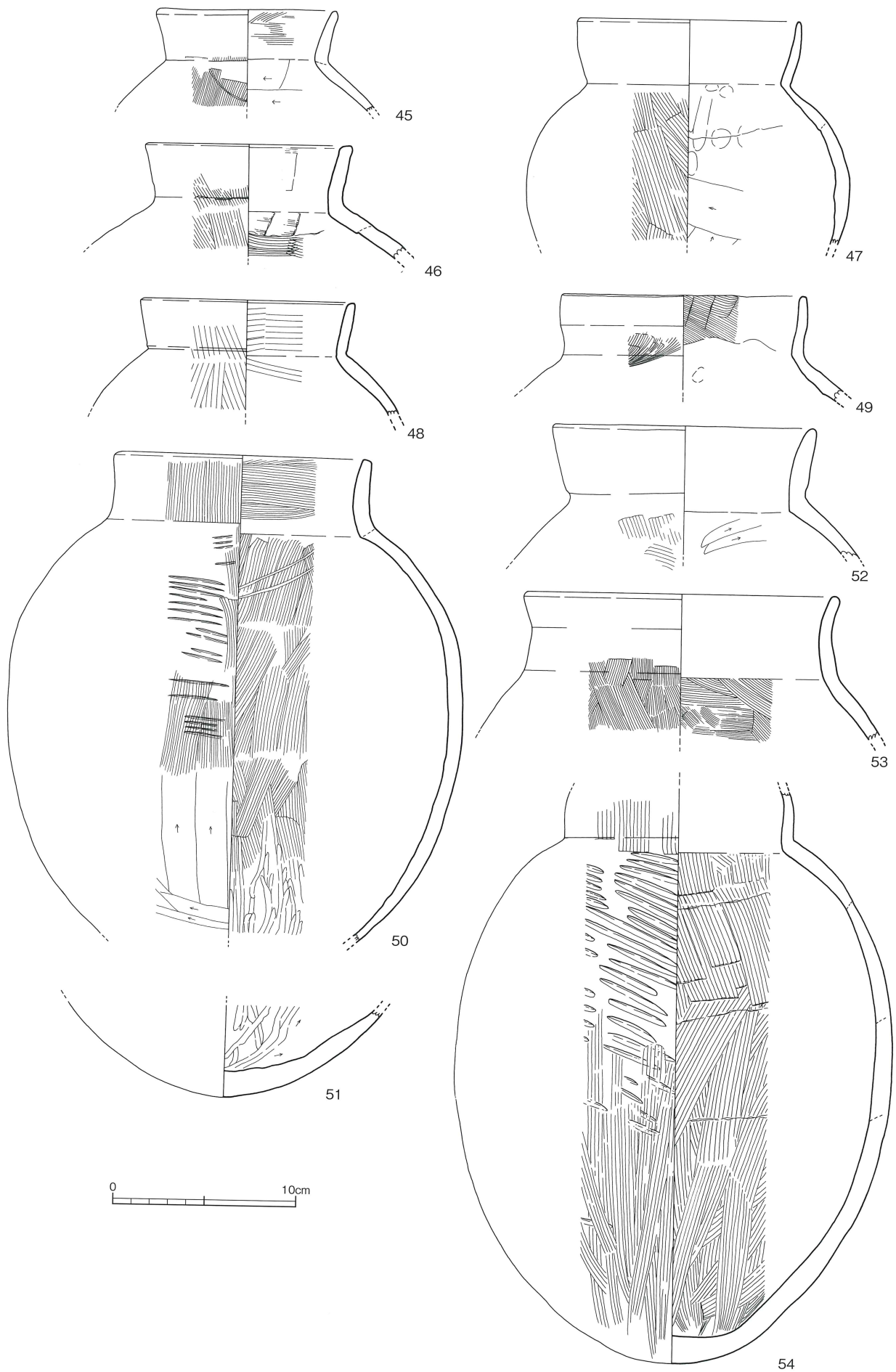
1類は63~68・78~83・85である。この器種はやや短く外に開く口縁部から屈曲し、丸底または不安定な平底となる。小形のもの(63~68・80)と、中~大形のもの(78・79・81~83)の各種がある。小型品は口径8.4~13.1cm、器高4.8~8.5cmである。中~大形品は口径14.4~24.6cm、器高15.8cmである。なお、85は脚が付く。(復元)口径14.2cm、器高11.6cmである。

2類は69~77・84である。やや外に開く口縁部からそのまま不安定な平底または丸底となる。口径9.7~15.8cm、器高5.1~13.1cmである。なお、84は脚が付く。口径12.3cm、器高8.5cmである。

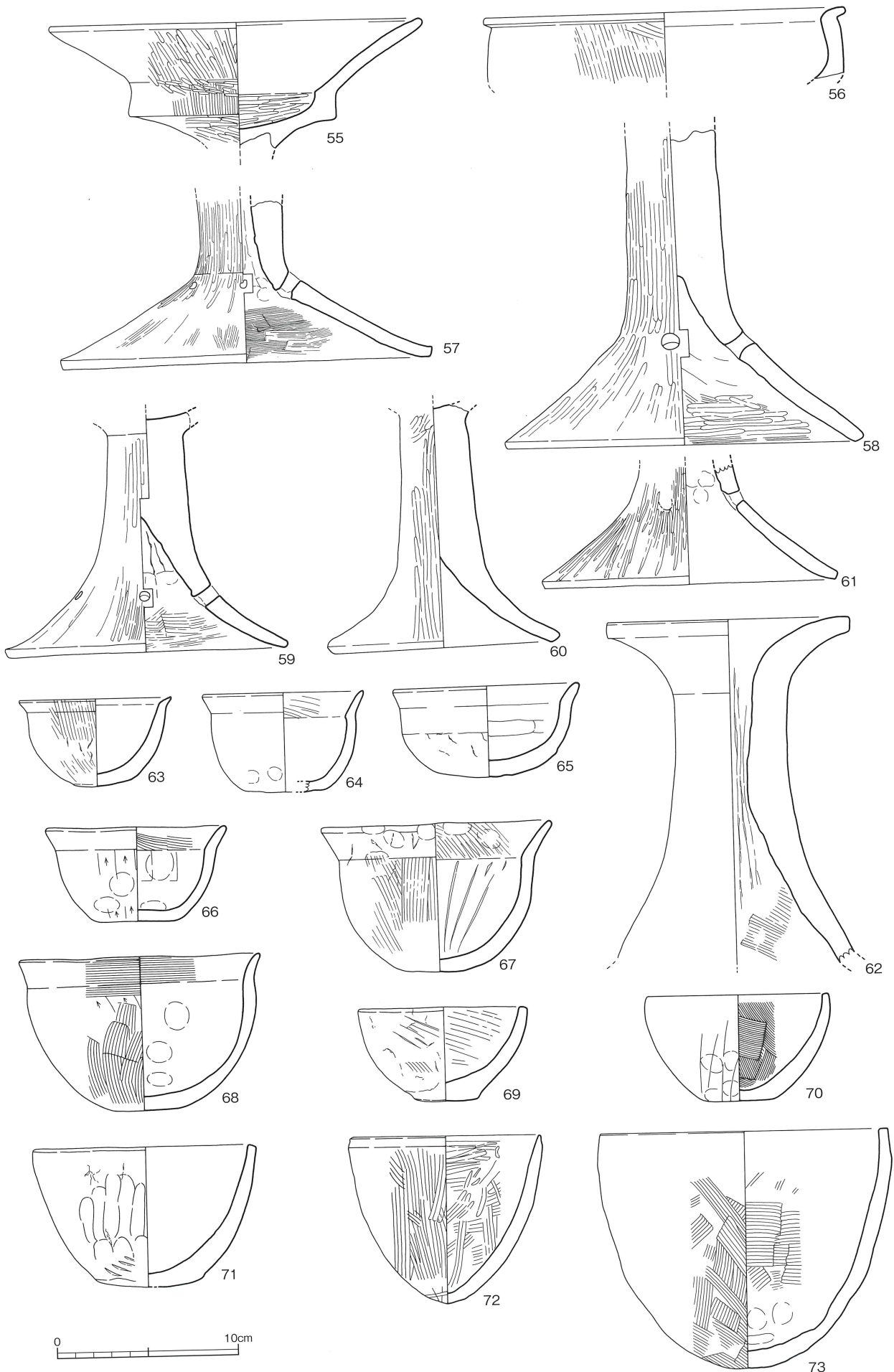
碗(第12図) 図示する個体は86~90である。器形は丸底の底部から緩く内反しながら外に開き口縁部に至る。87~89は内面にヘラミガキを施している。口径は11.6~20.4cm、器高は4.0~6.0cmである。



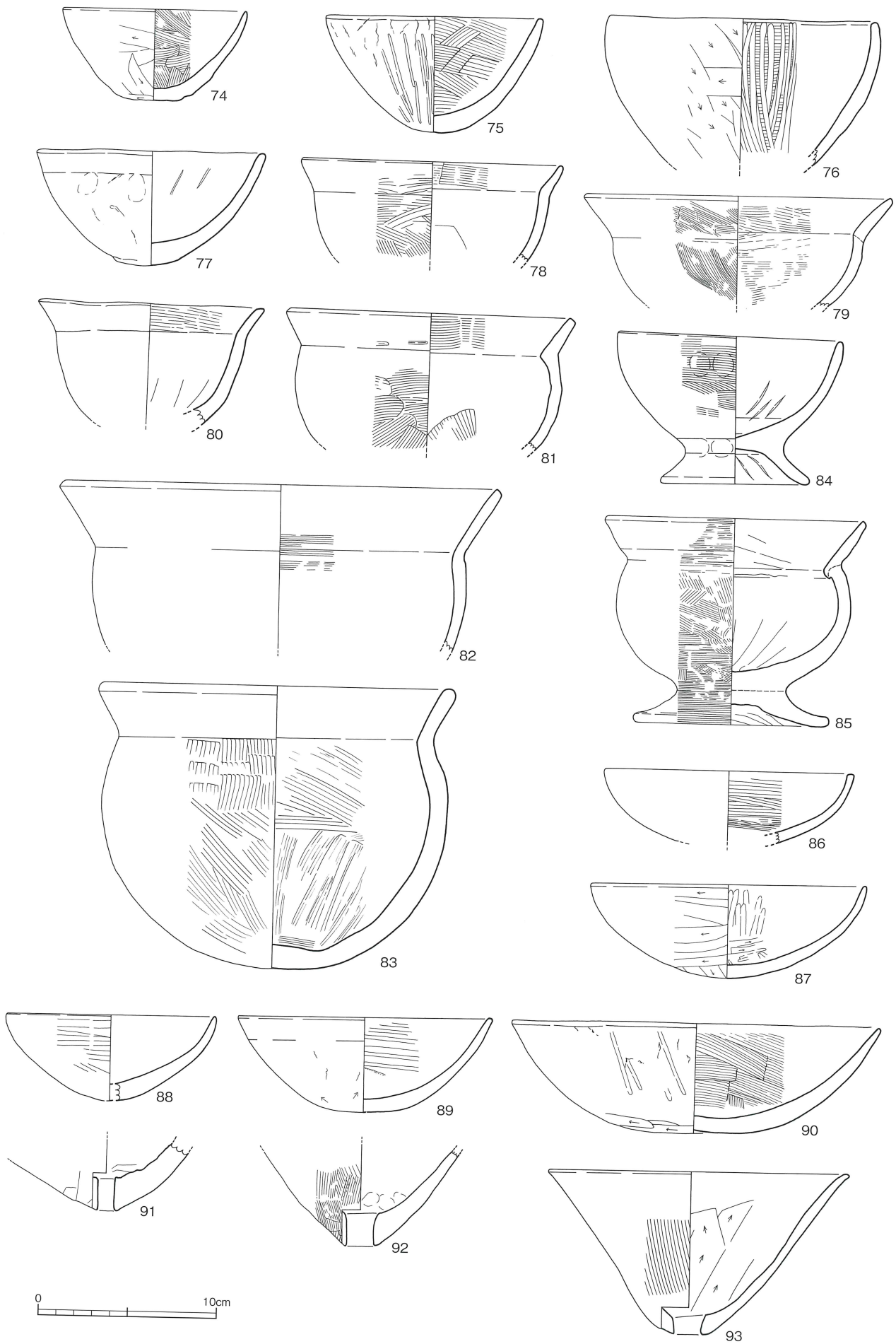
第9図 溝状遺構出土遺物実測図5 (1/4)



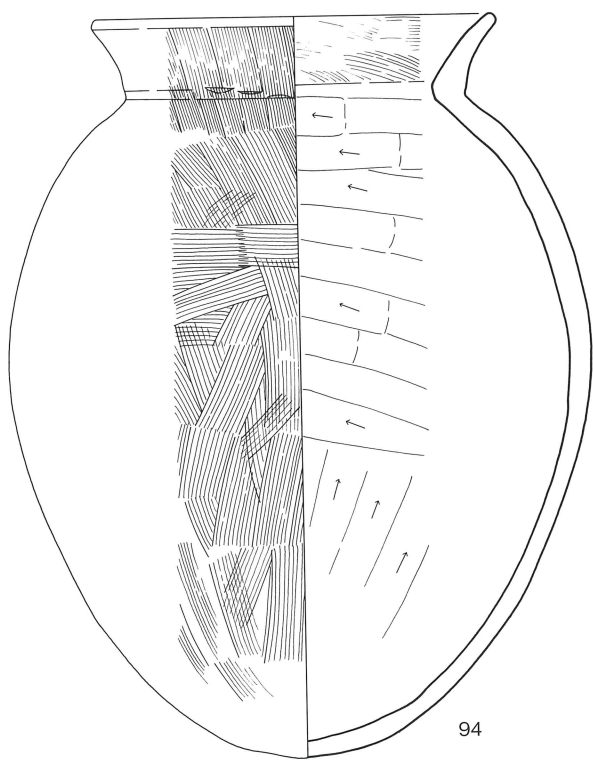
第10図 溝状遺構出土遺物実測図6 (1/3)



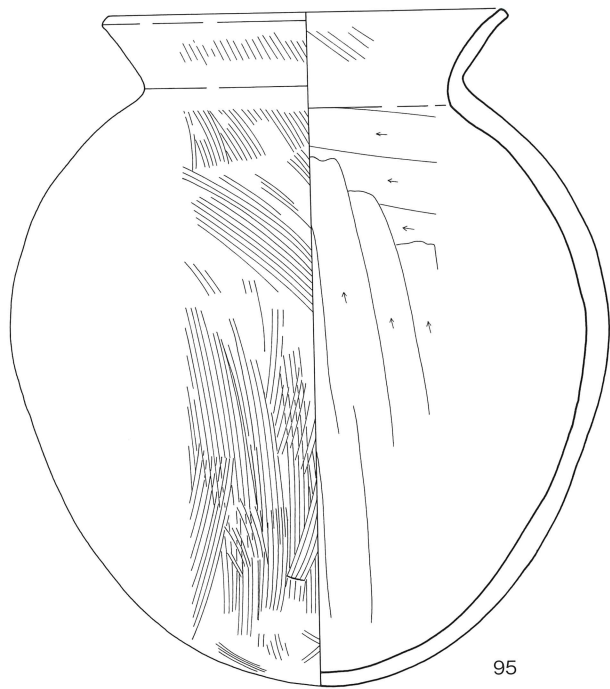
第11図 溝状遺構出土遺物実測図7 (1/3)



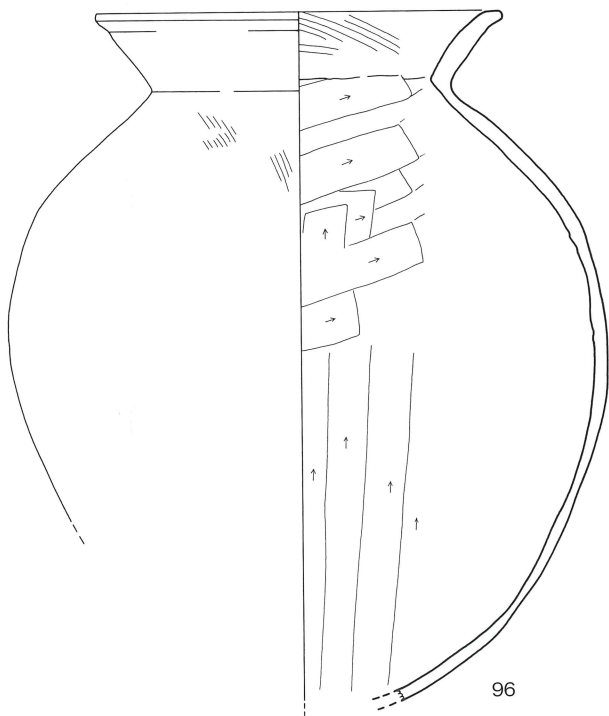
第12図 溝状遺構出土遺物実測図8 (1/3)



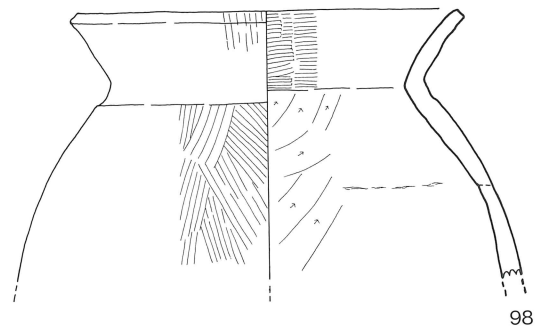
94



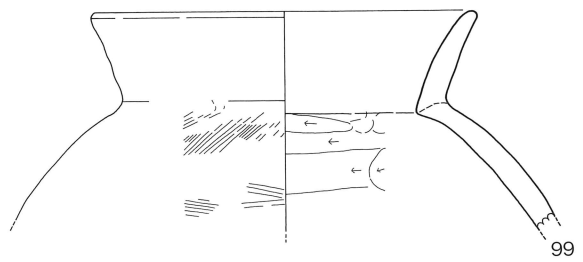
95



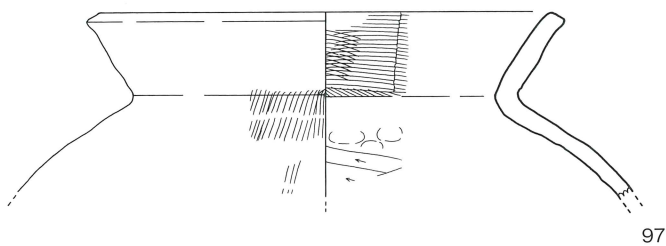
96



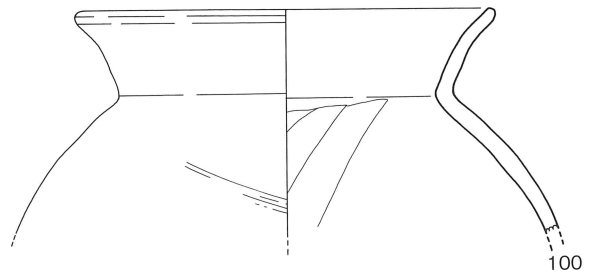
98



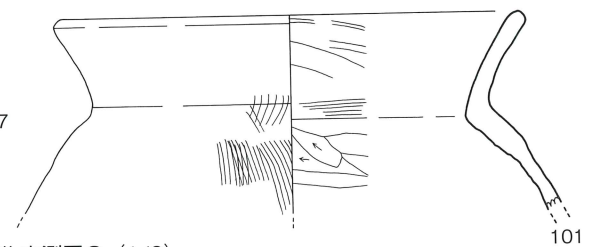
99



97



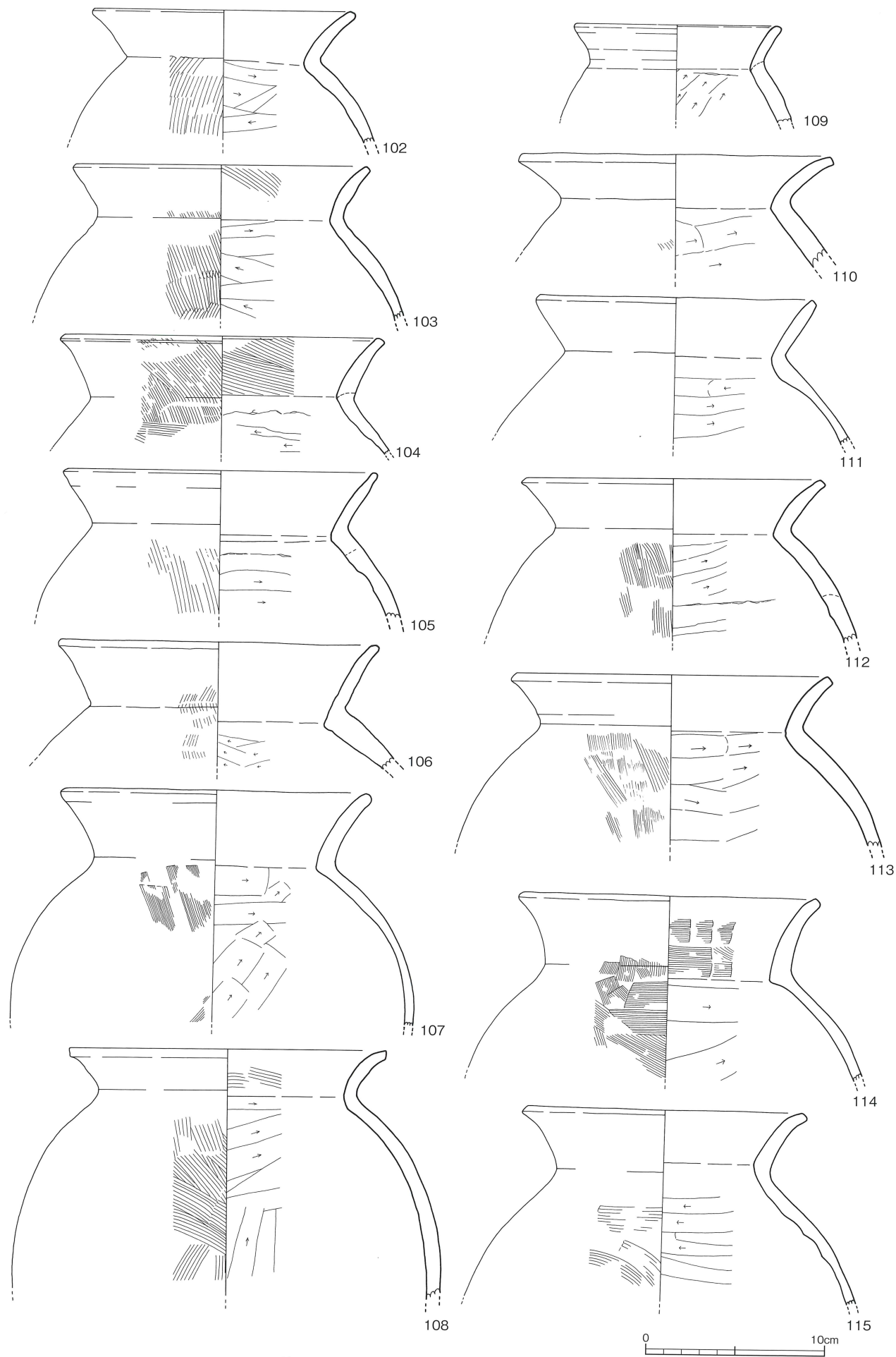
100



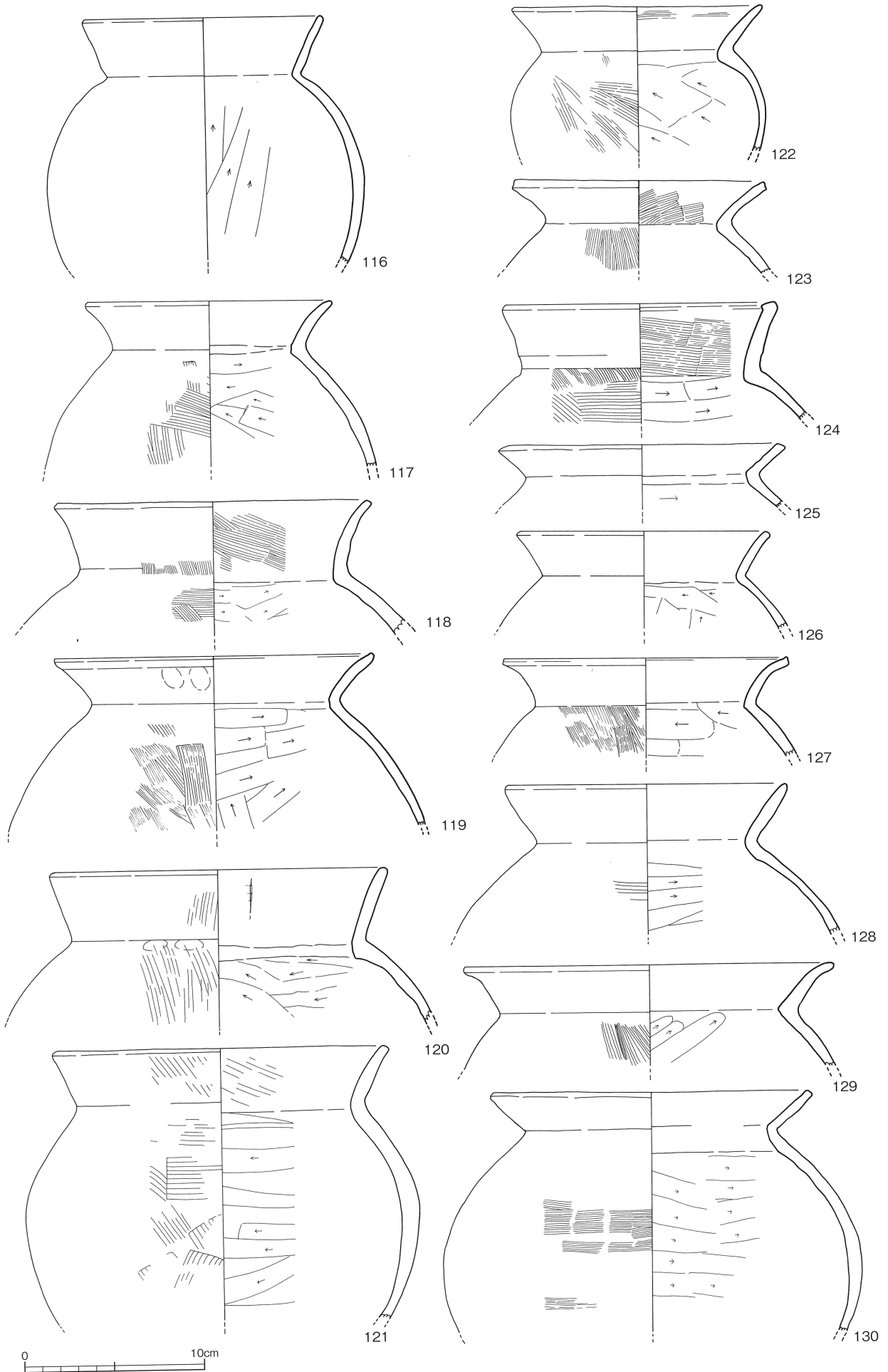
101



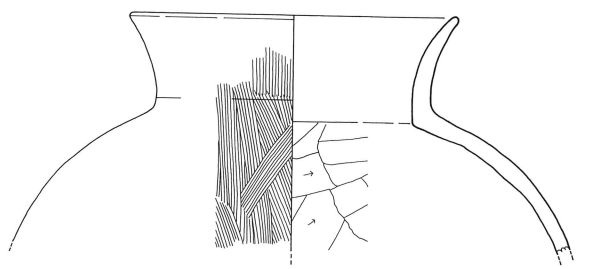
第13図 溝状遺構出土遺物実測図9 (1/3)



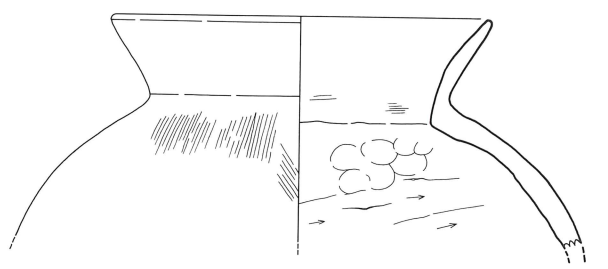
第14图 清状遺構出土遺物実測図10 (1/3)



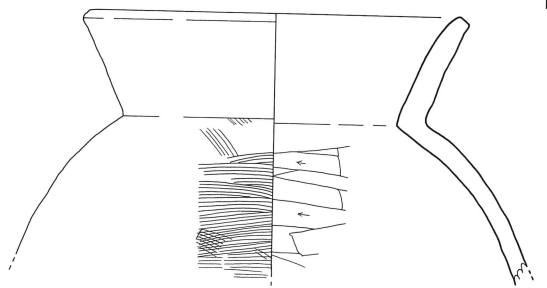
第15図 溝状遺構出土遺物実測図11 (1/3)



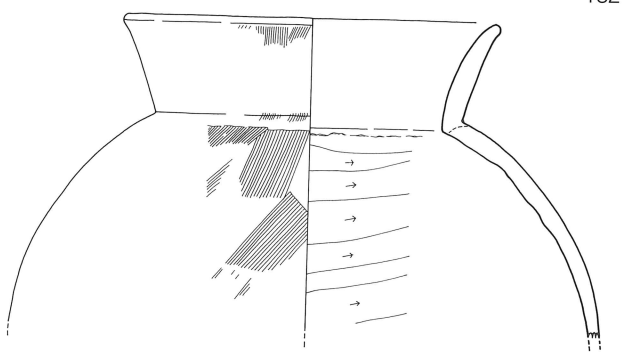
131



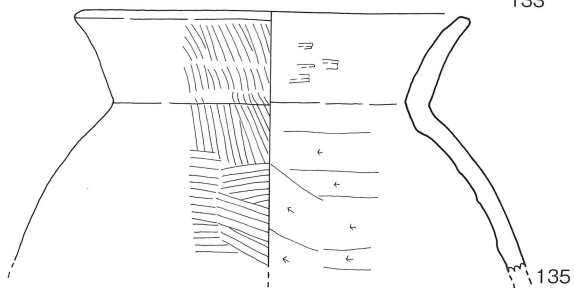
132



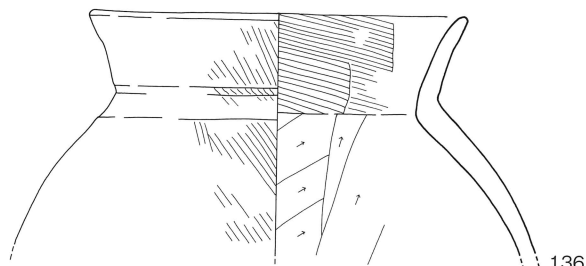
133



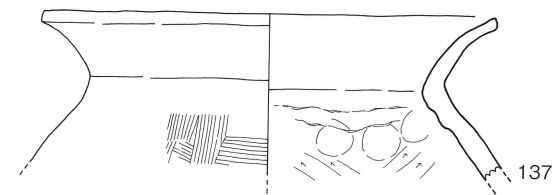
134



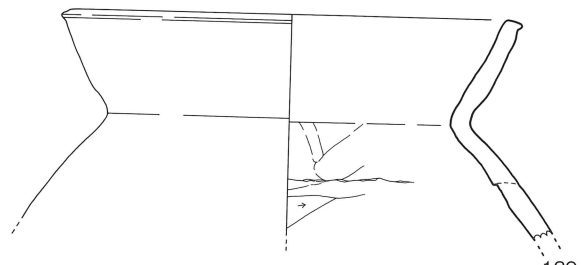
135



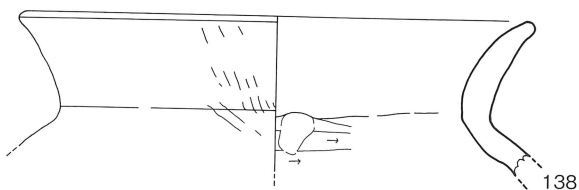
136



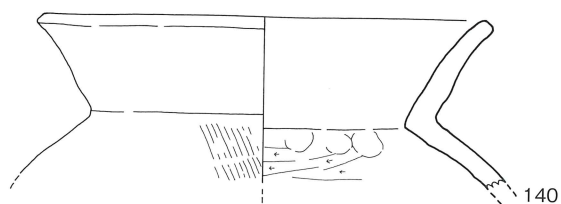
137



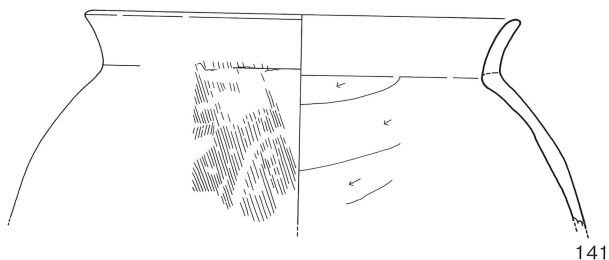
139



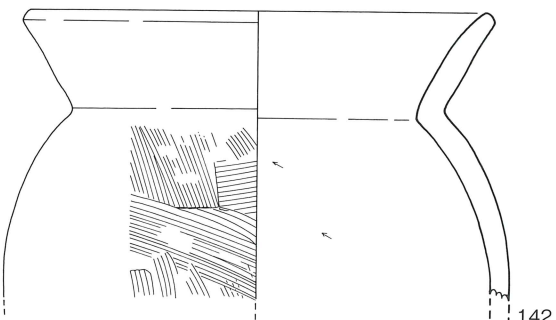
138



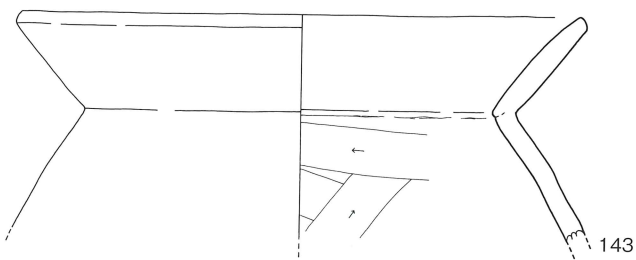
140



141



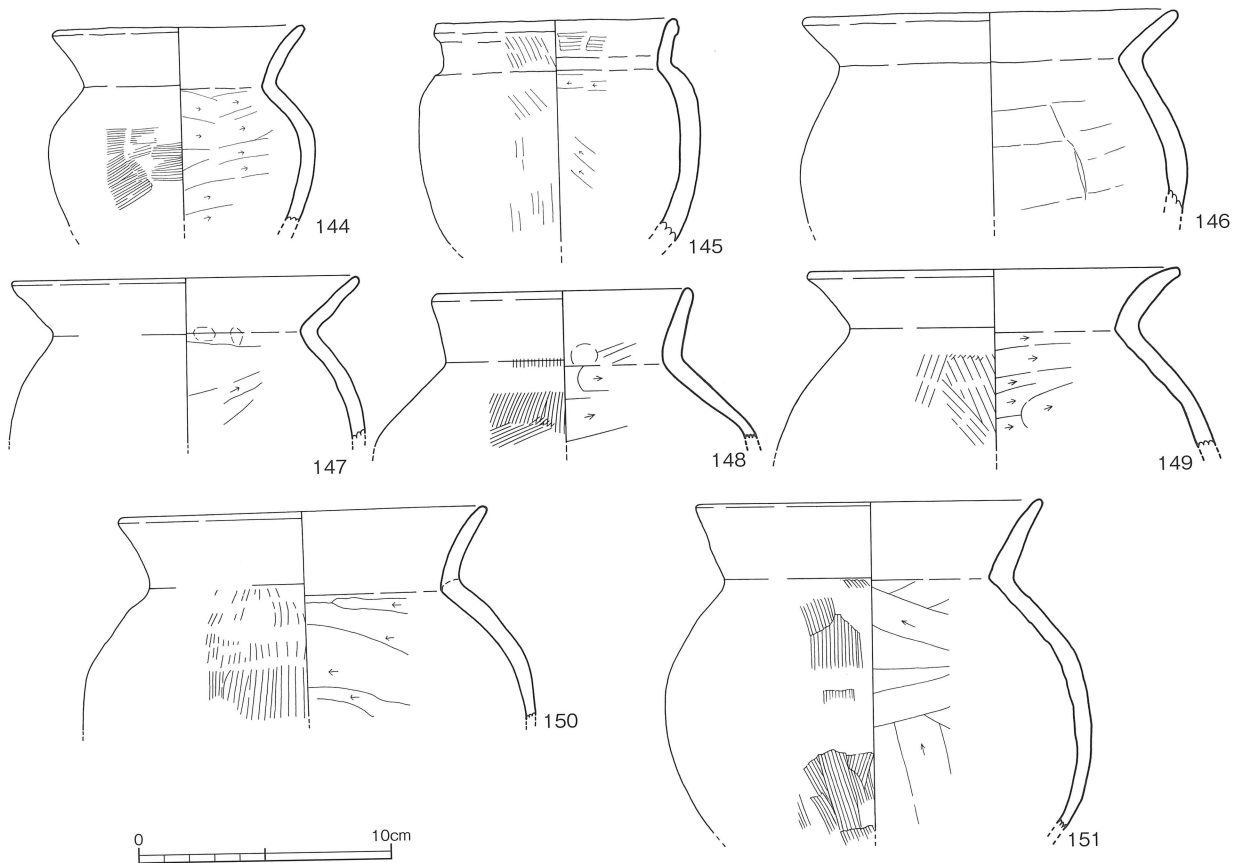
142



143



第16図 溝状遺構出土遺物実測図12 (1/3)



第17図 溝状遺構出土遺物実測図13 (1/3)

甗(第12図) 図示する個体は91~93である。いずれも尖底状の底部に焼成前の円孔を穿っている。91・92は底部破片で残りは良くない。93は(復元)口径16.6cm、器高9.1cmである。

古墳時代前期中頃~前期後半(第13~23図)

甗(第13~17図) 甗は多量に出土しているが、ほとんどの甗は打ち欠いた状況で廃棄されていた。

形態は、やや緩く外反しながら外に開く口縁部から卵球形の胴部に続き、底部は丸底である。口縁部の開きは前段階より強いものが多く、胴部の張り出しも大きくなる。144~151はやや小形の甗である。調整は外面縦・斜め方向のハケ目、胴部内面は削り調整を行っている個体が多い。中~大形の甗の口径は13.0~22.4cm、高さを測れる個体は94の29.4cm、95の26.6cmの2点である。小形の甗の口径は9.4~14.6cmである。

複合口縁壺(第18図) 152~156の5点である。155は胴部を残すが、他は口縁部の破片である。

形態は、直立又はわずかに外へ開く口縁部から屈曲して締まる頸部につづき、胴部は卵球形となり丸底の底部をなす。外面はヘラミガキあるいはナデ調整、胴部内面はヘラ削り、口縁内部はハケによる調整を行っている。

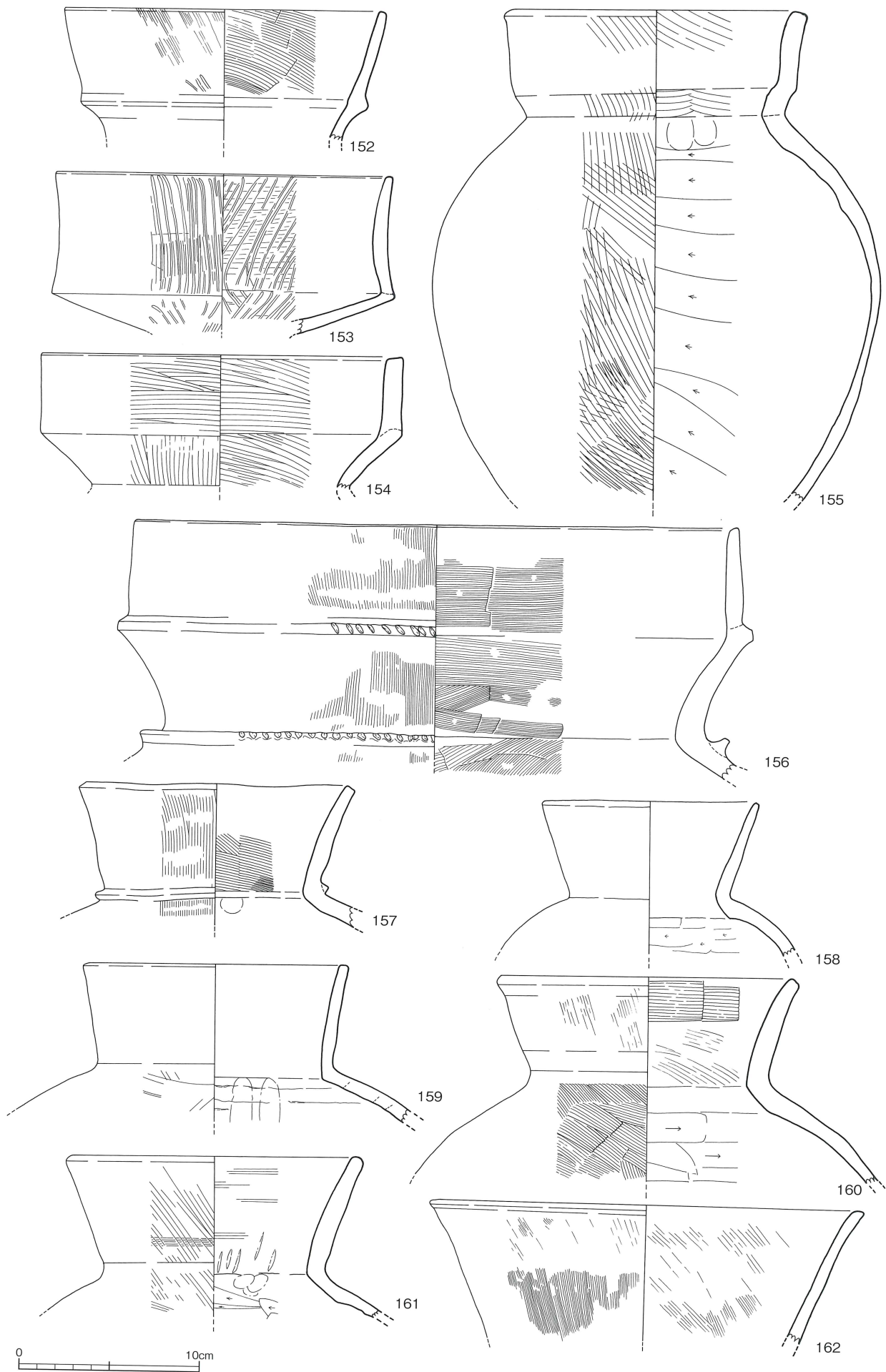
直口壺(第18図) 157~162の6個体で、これらの個体も口縁部或いは、口縁部と胴部の一部を残す破片である。

形態は、斜め上方向にほぼ直線的に開く口縁部から屈曲して大きく張り出す胴部に続く。器面調整は、口縁部と外面は斜め方向のハケ目調整、胴部内面はケズリを主に調整を行っている。(復元)口径は7.4~23.3cmである。

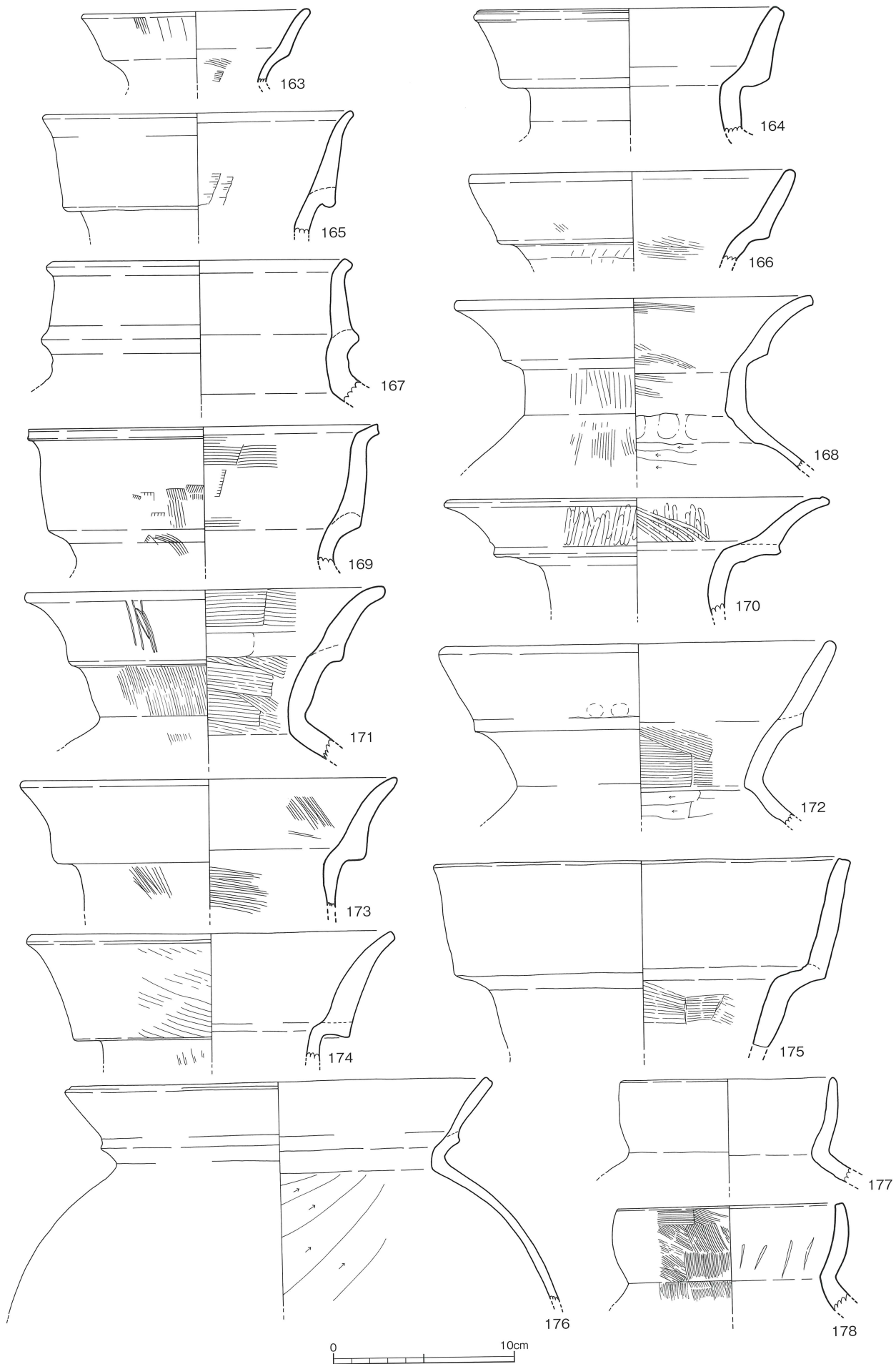
二重口縁壺(第19図) 163~176である。口縁部或いは、口縁部と胴部の一部を残す破片である。

口縁部が外反しながらやや大きく開く。頸部は斜めに締まるものと直立ぎみになるものの2タイプが存在する。また、口縁部を屈曲させる165・167・169の3個体は古墳時代中期に下がる可能性が高い。口径は、10.4~23.7cmである。

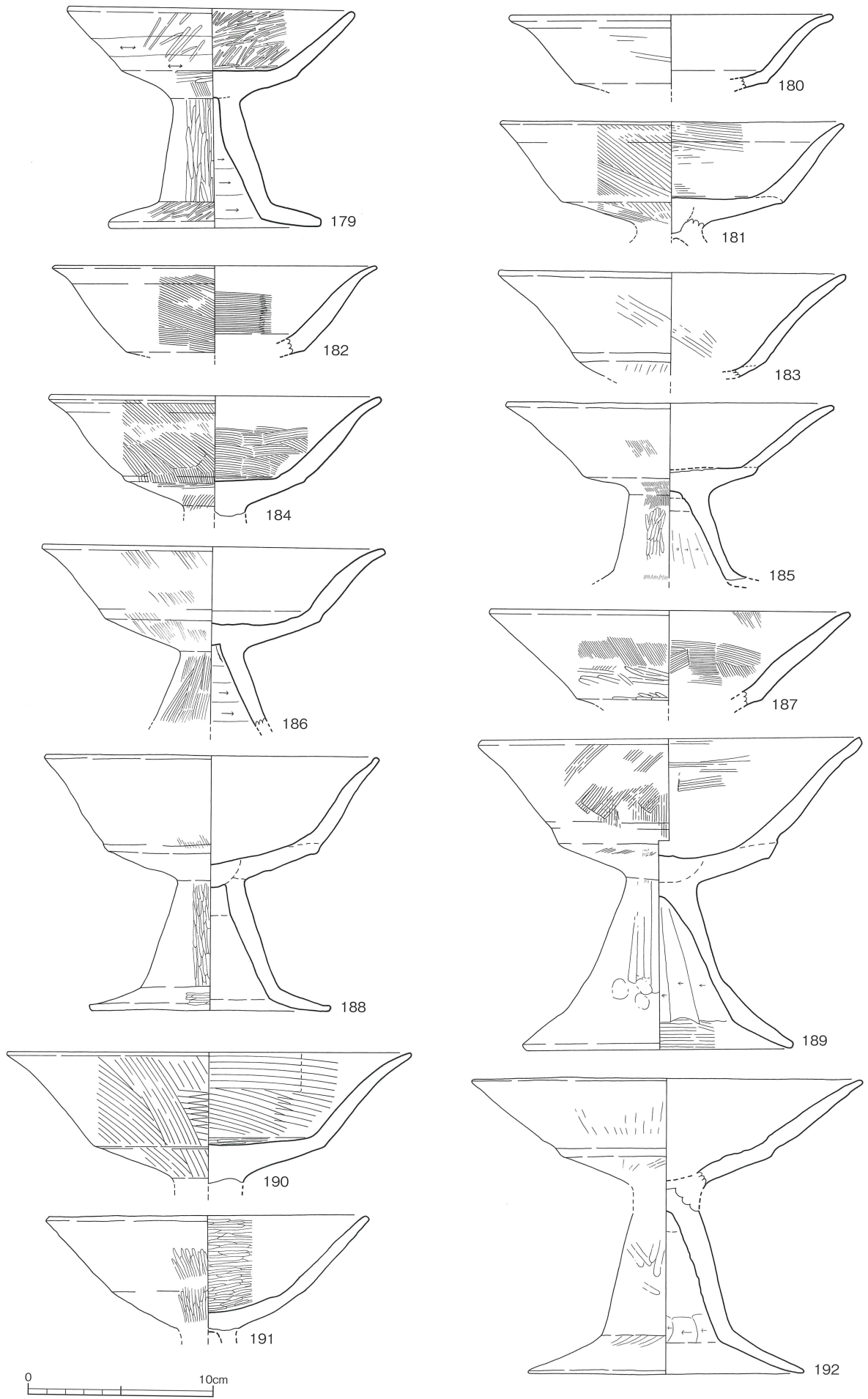
短頸壺(第19図) 177・178の2点である。口縁部はやや内傾しながら立ち上がり、胴部との境で屈曲し、やや大きく張り出す胴部へと続く。177は口径11.9cmで、内外面とも横方向のナデ調整。178は(復元)口径12.4cmで、外面は外面ハケ目後ナデ調整、内面はナデ調整でヘラ痕が残っている。



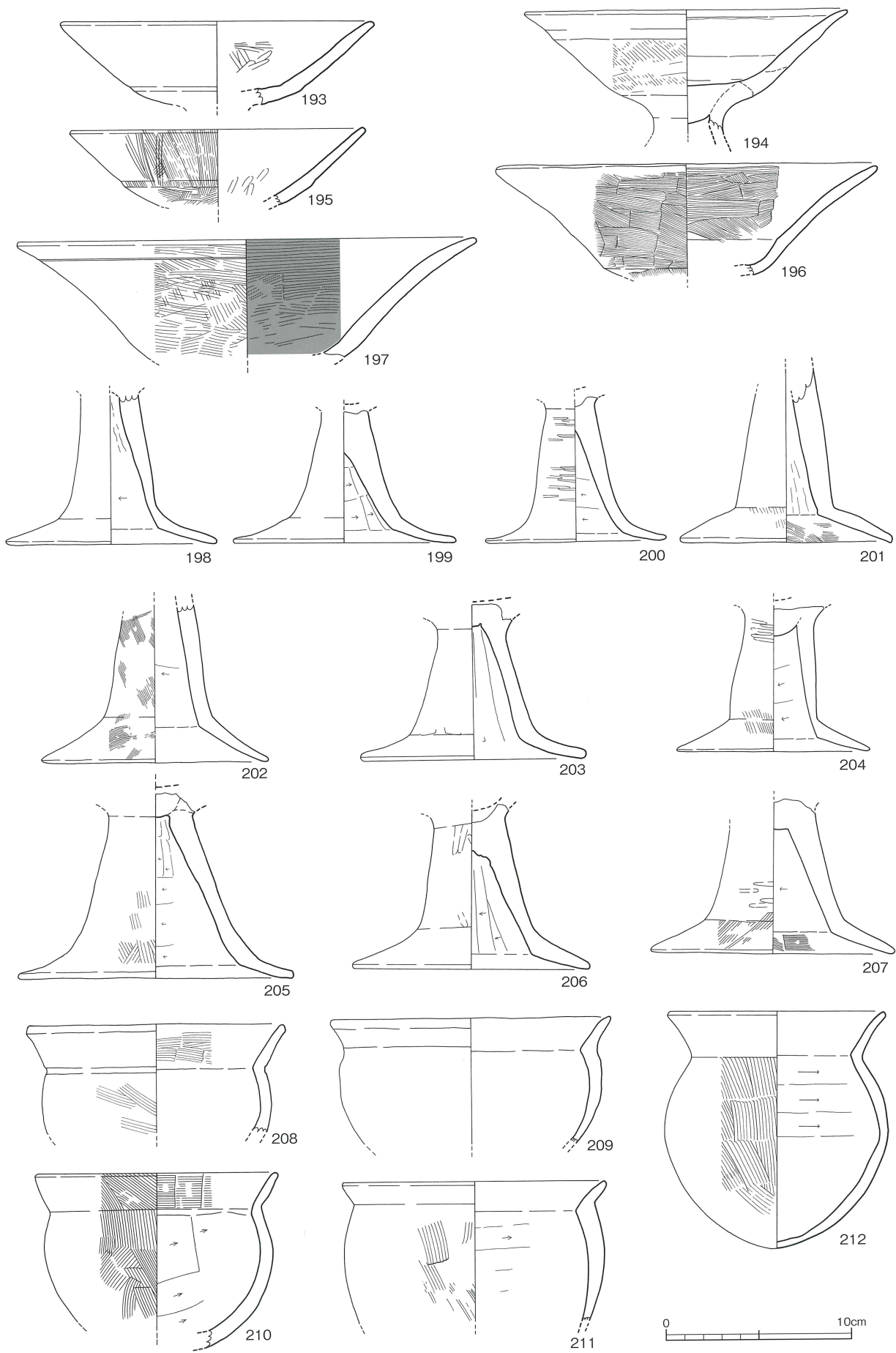
第18図 溝状遺構出土遺物実測図14 (1/3)



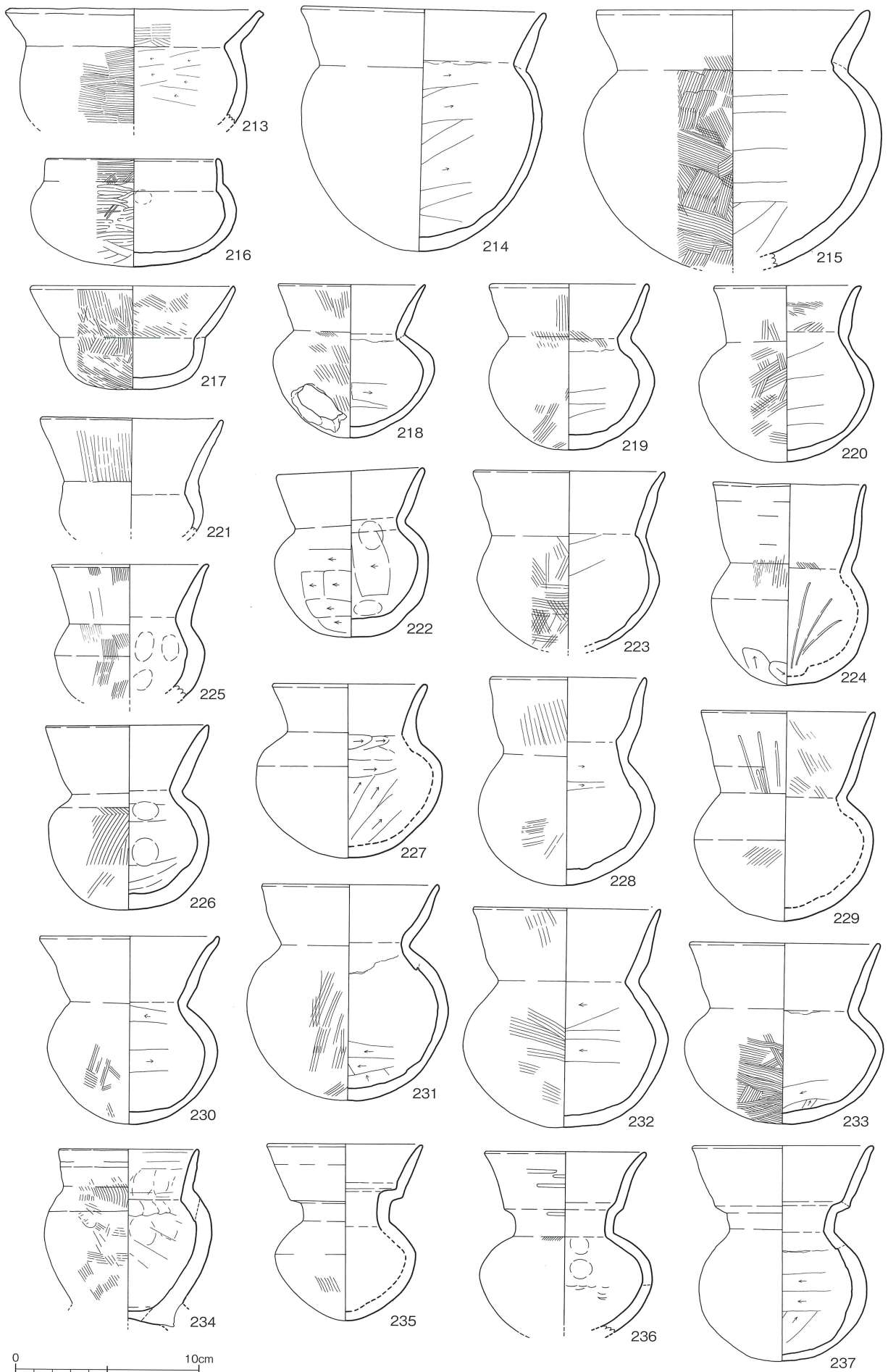
第19図 溝状遺構出土遺物実測図15 (1/3)



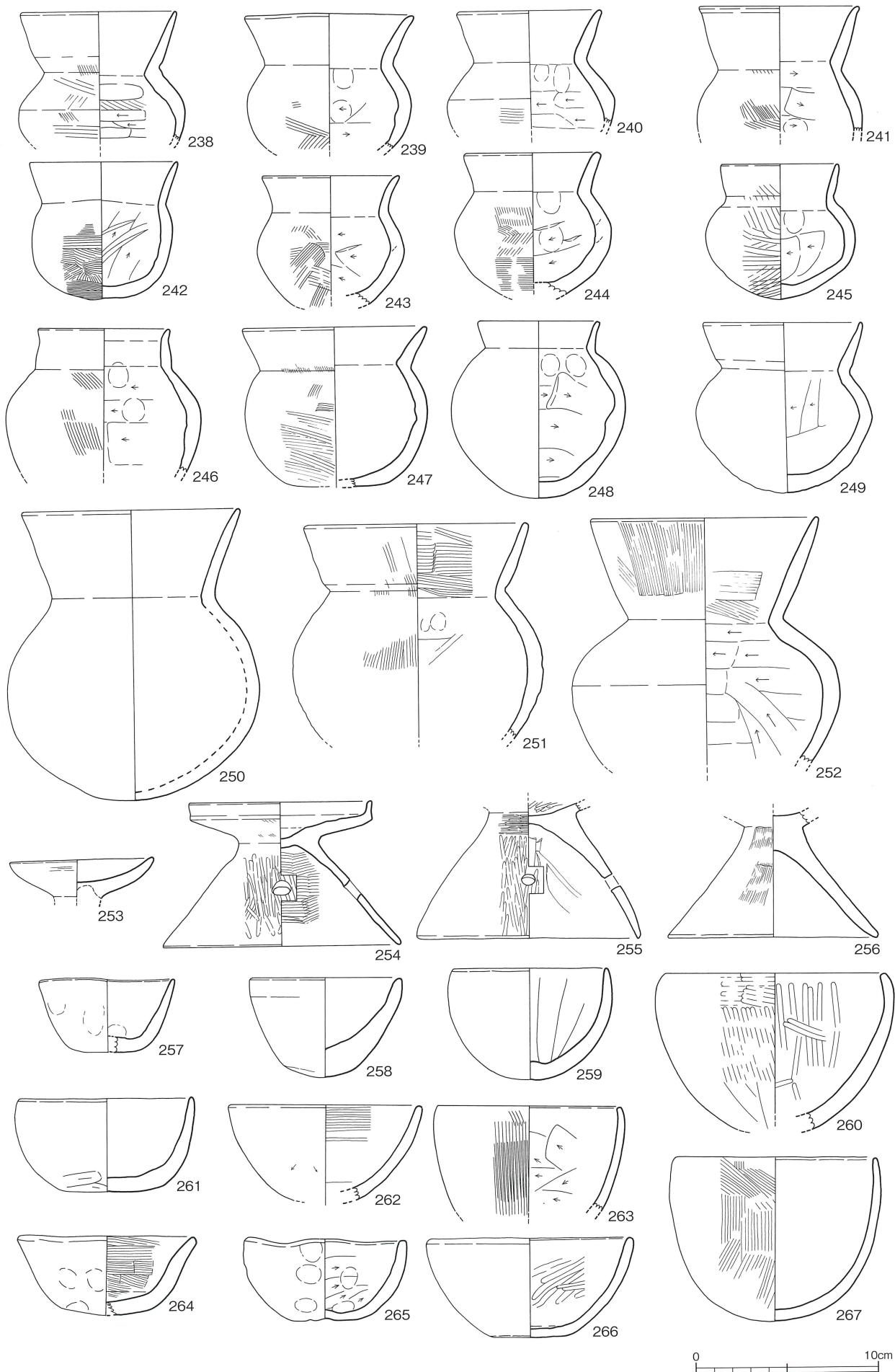
第20図 溝状遺構出土遺物実測図16 (1/3)



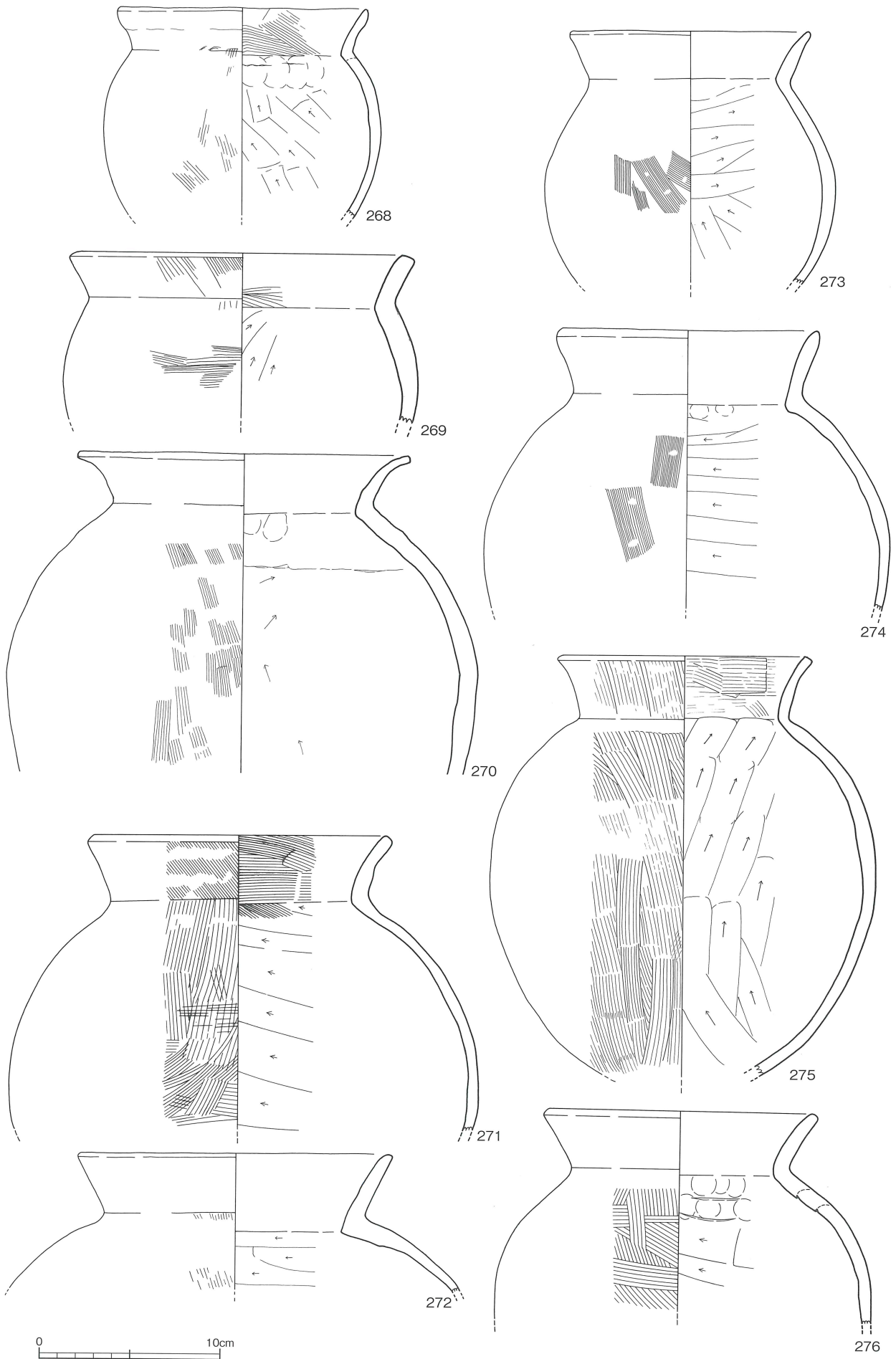
第21圖 溝状遺構出土遺物実測図17 (1/3)



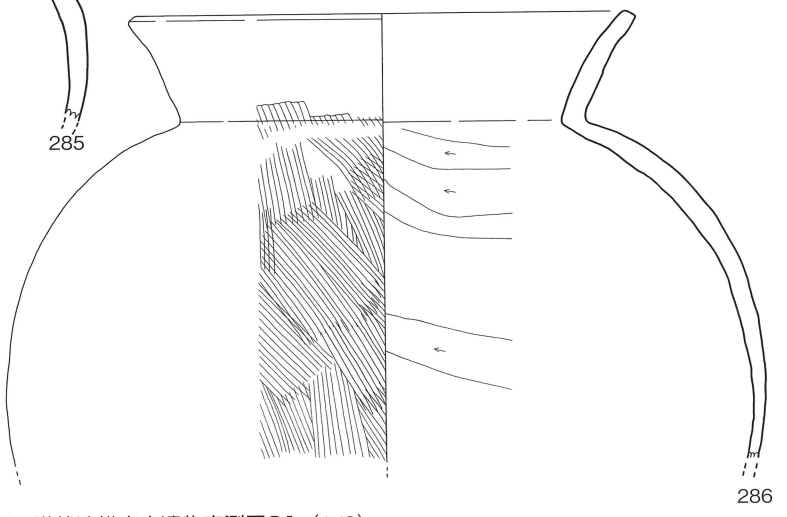
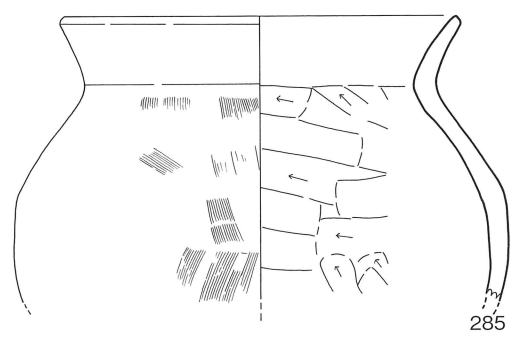
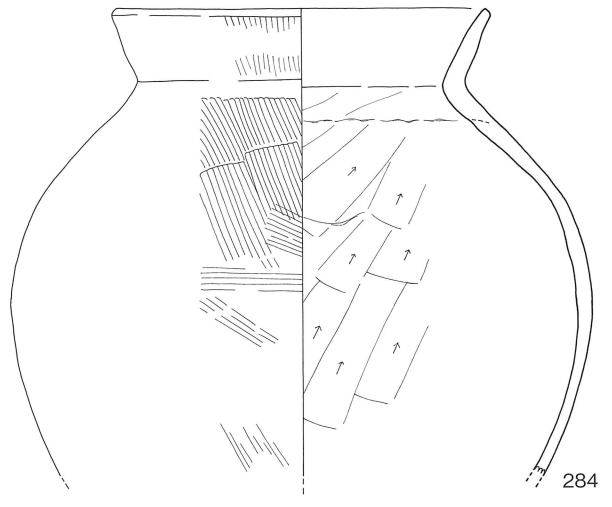
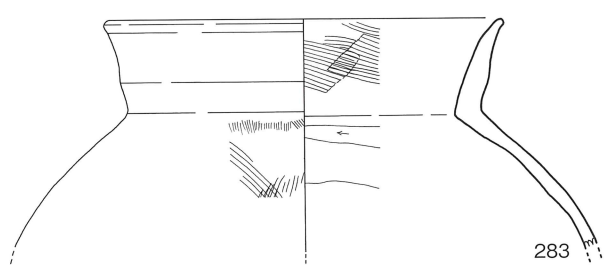
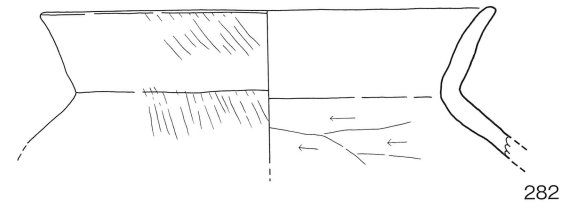
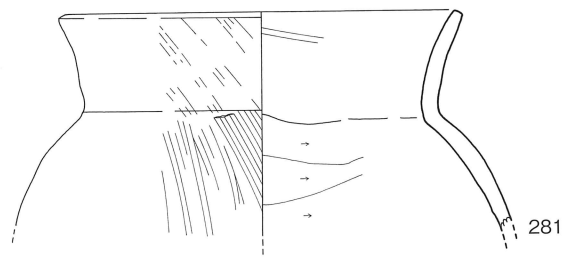
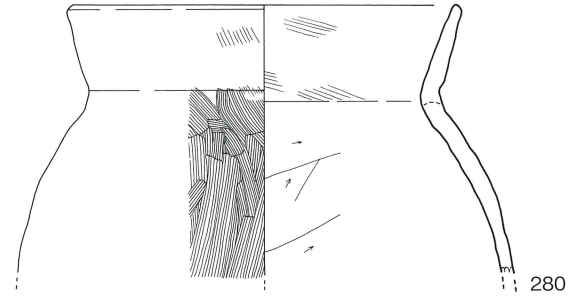
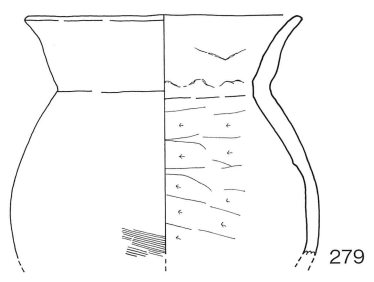
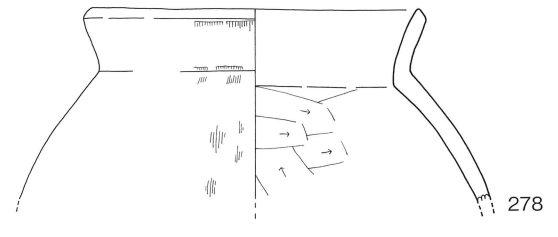
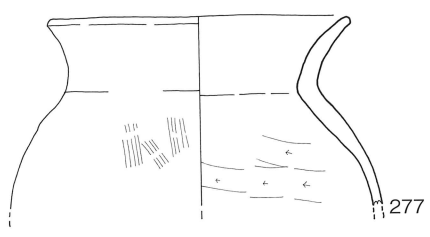
第22図 溝状遺構出土遺物実測図18 (1/3)



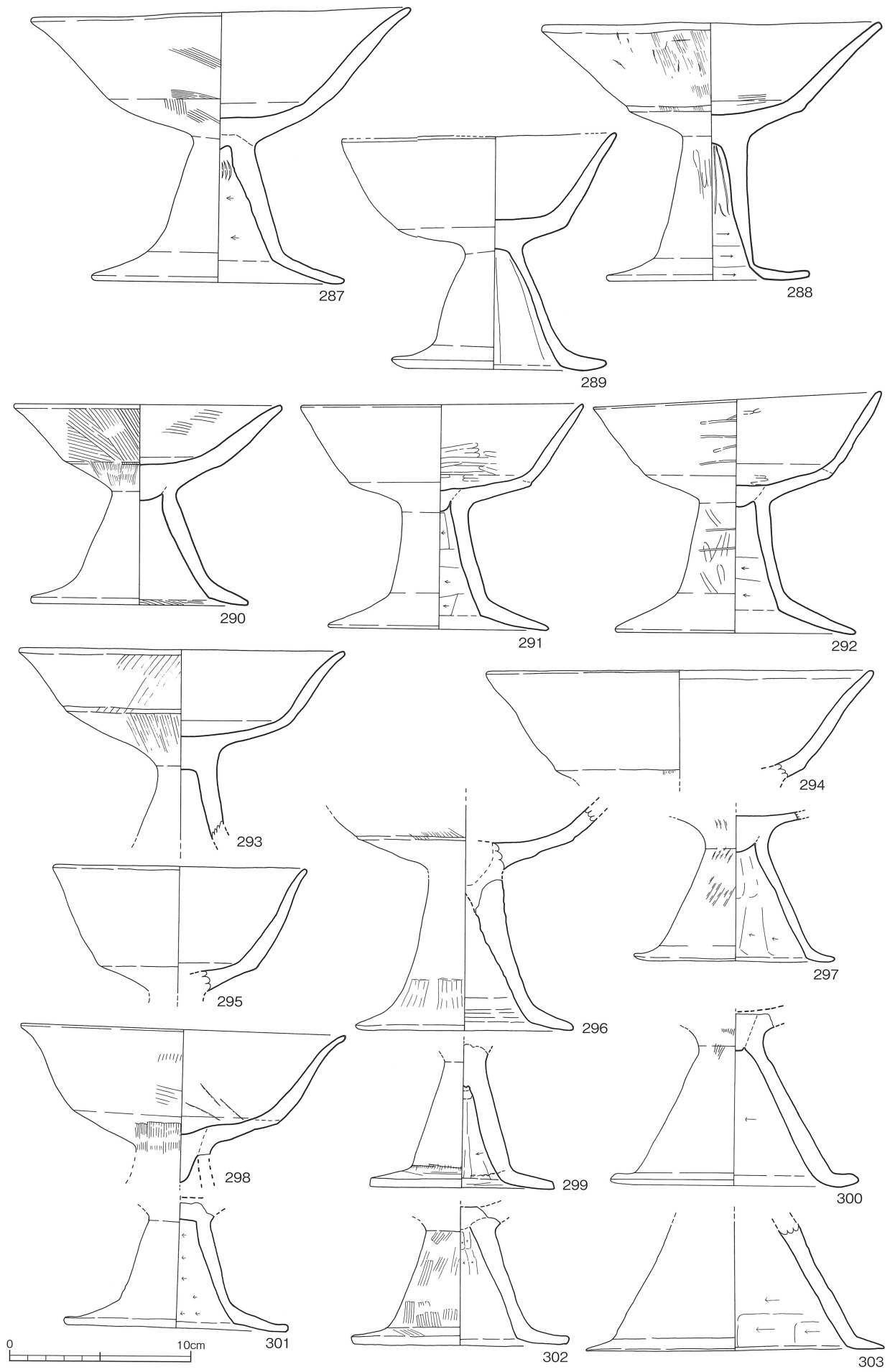
第23図 溝状遺構出土遺物実測図19 (1/3)



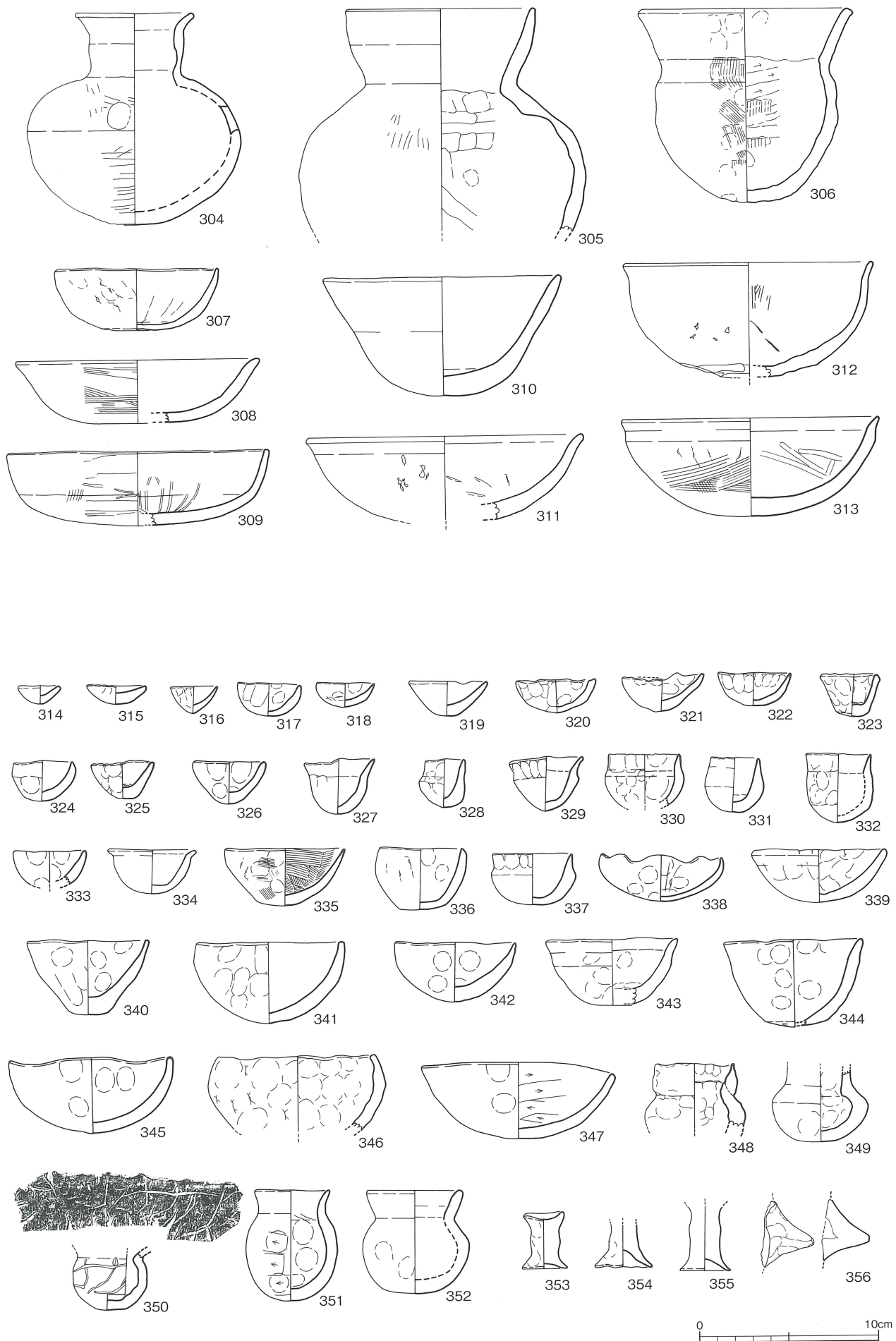
第24図 溝状遺構出土遺物実測図20 (1/3)



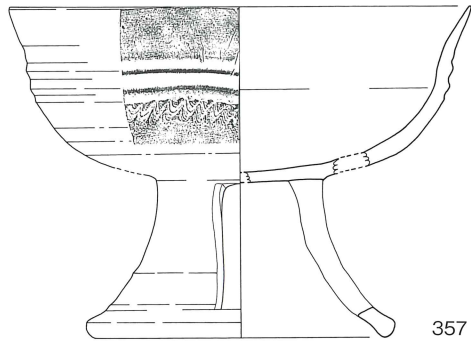
第25図 溝状遺構出土遺物実測図21 (1/3)



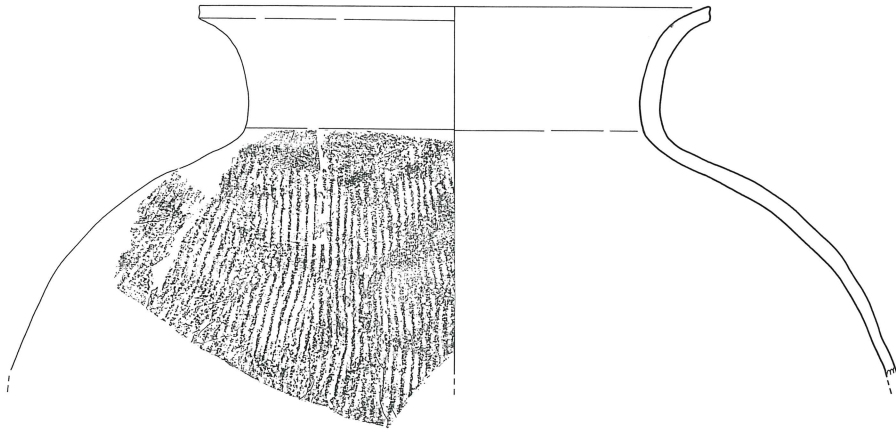
第26図 溝状遺構出土遺物実測図22 (1/3)



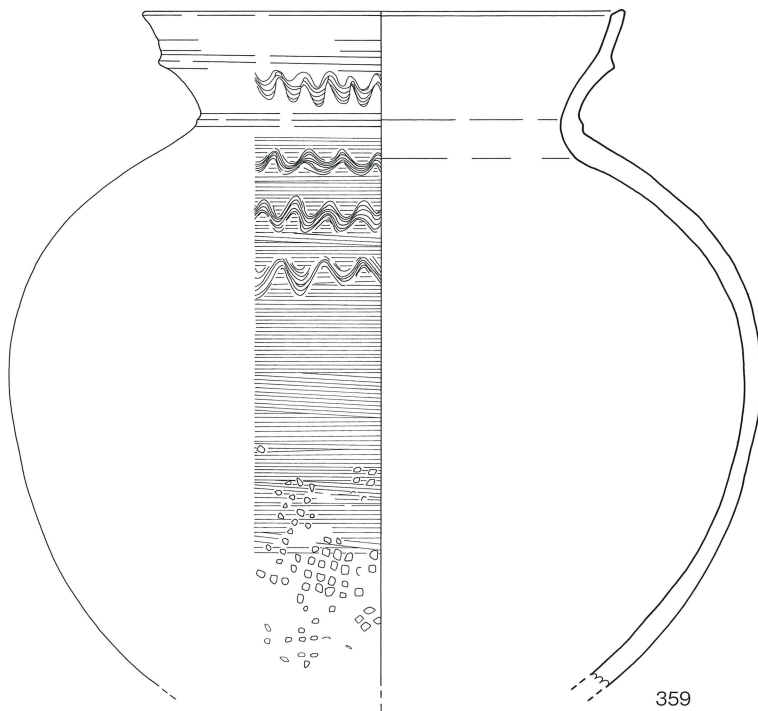
第27图 清状遺構出土遺物実測図23 (1/3)



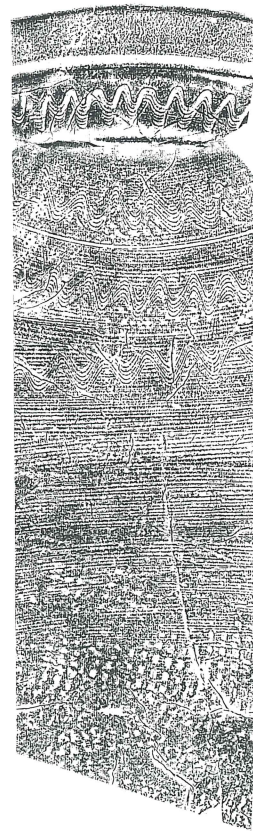
357



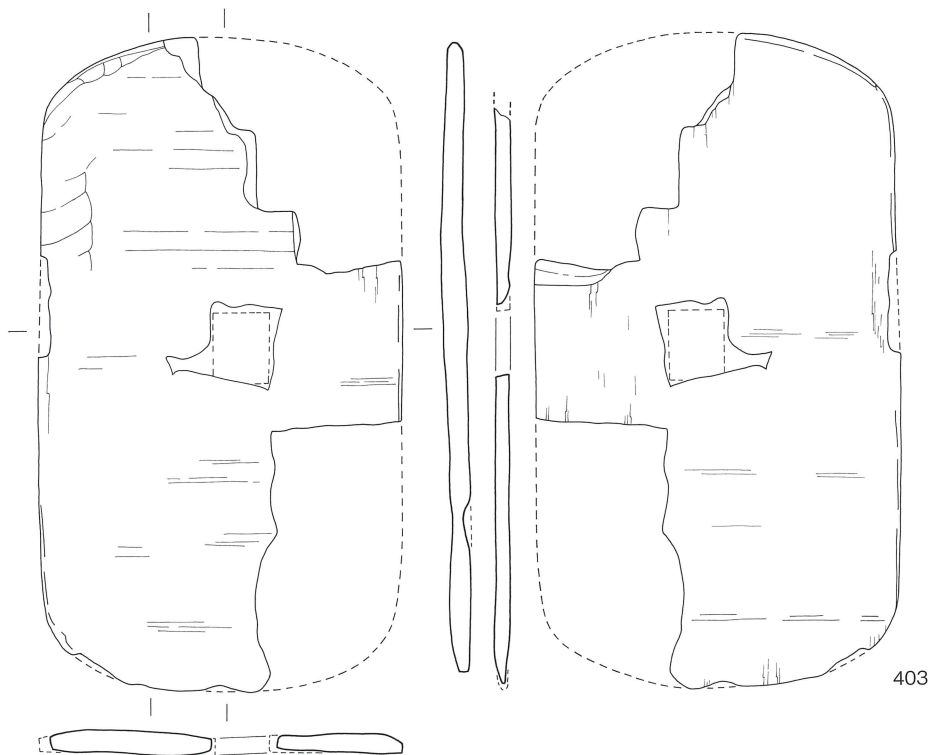
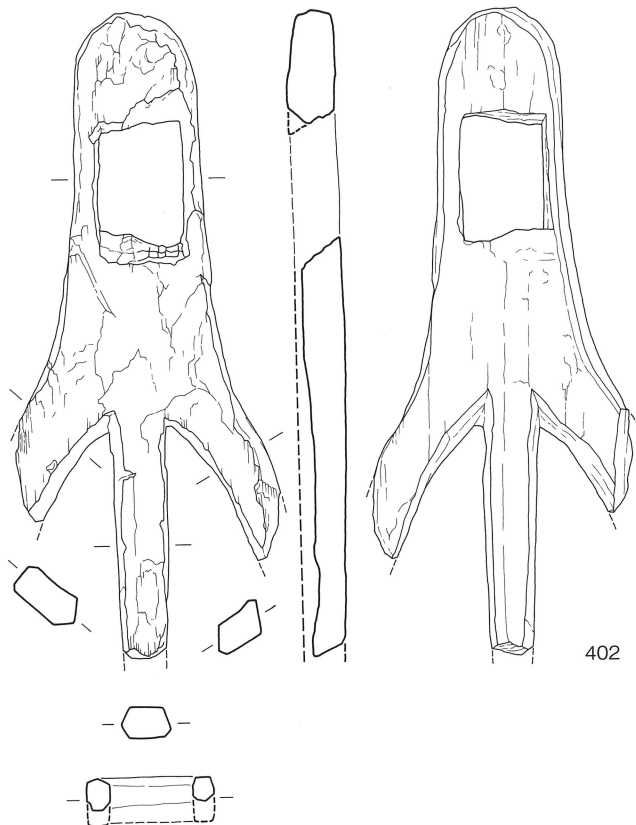
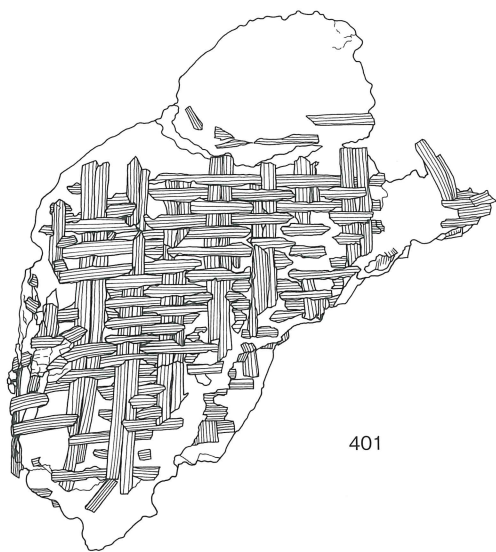
358



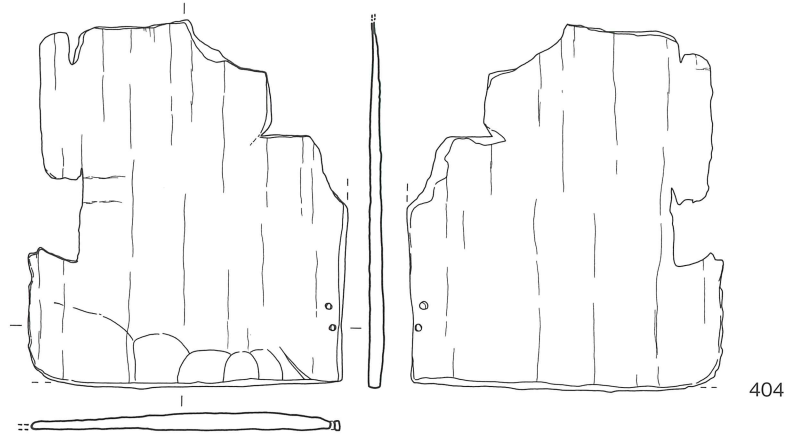
359



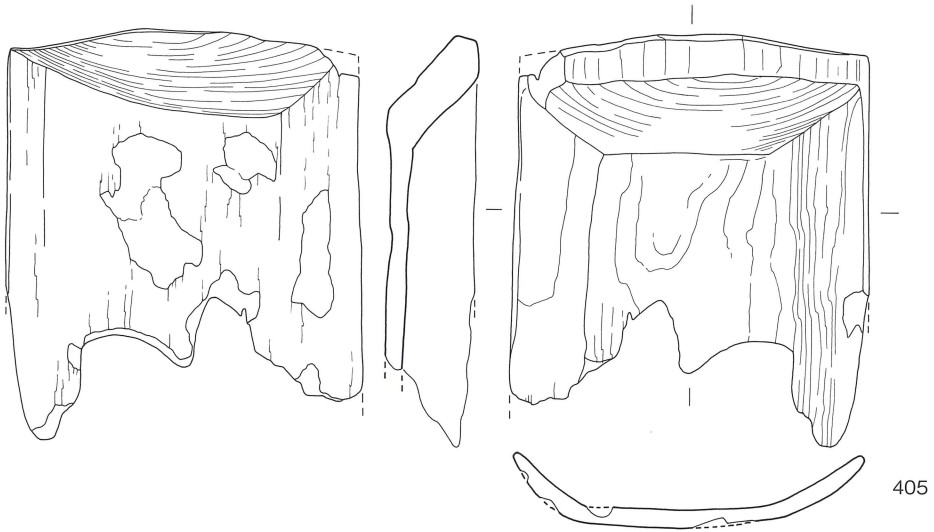
第28図 溝状遺構出土遺物実測図24 (1/3)



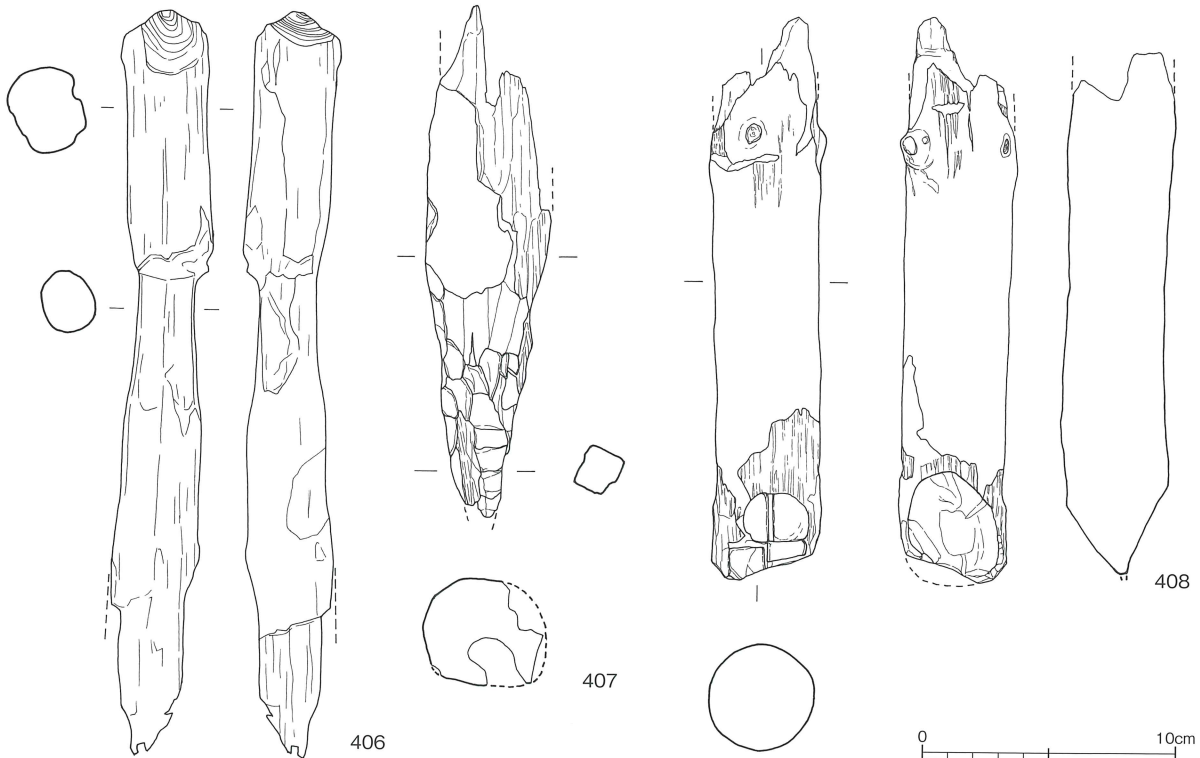
第29図 溝状遺構出土遺物実測図25 (1/3)



404



405



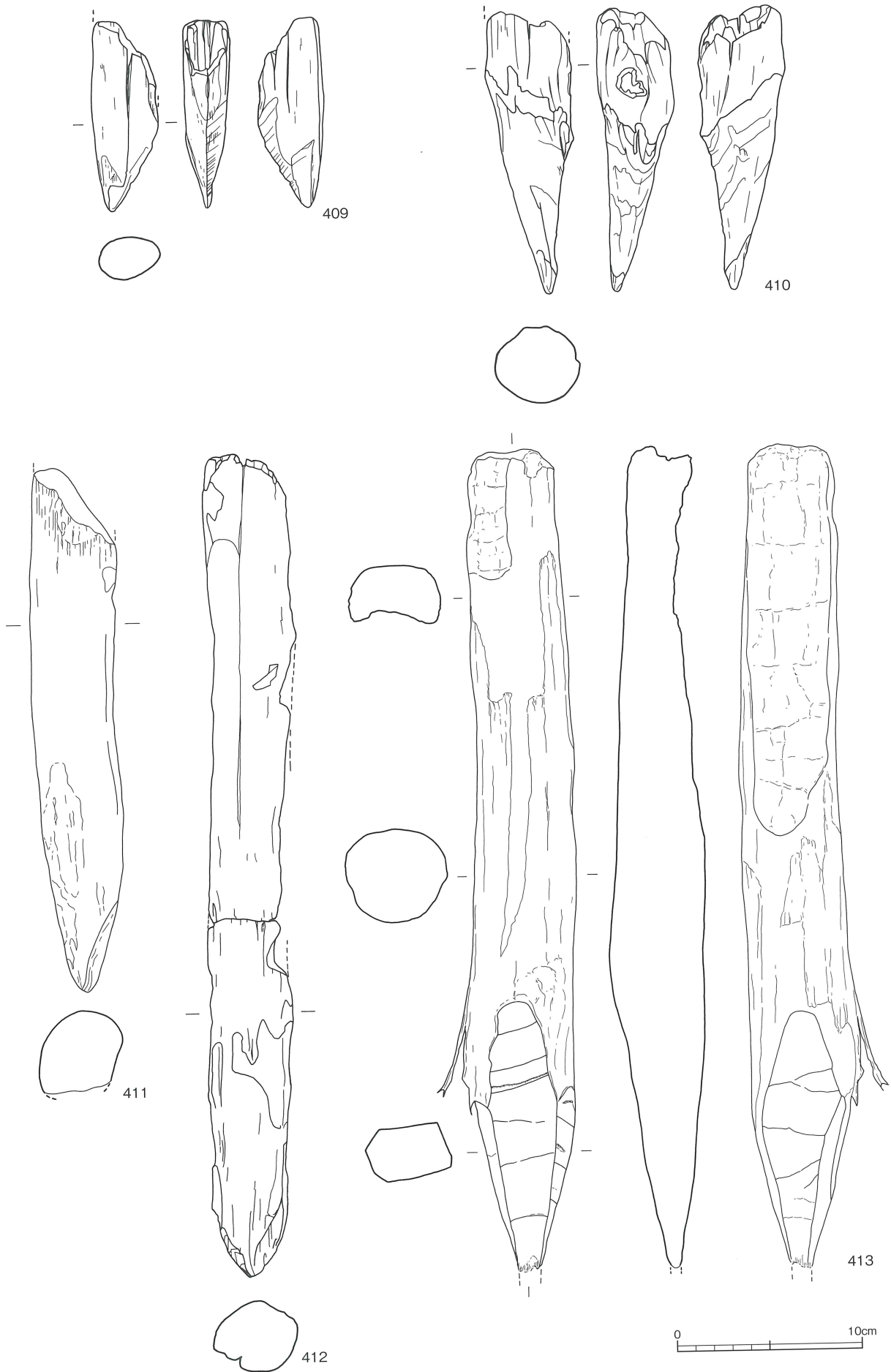
406

407

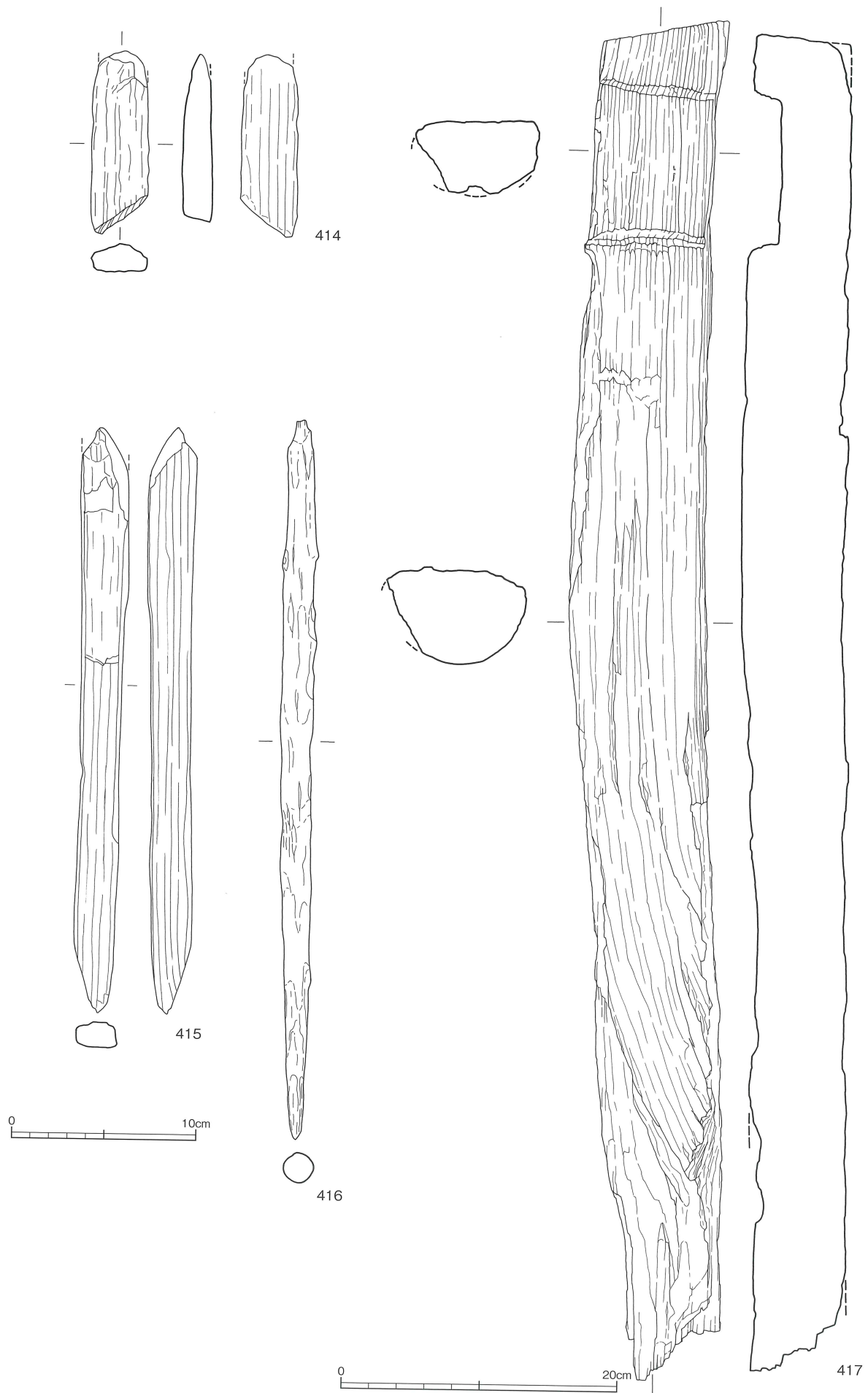
408

0 10cm

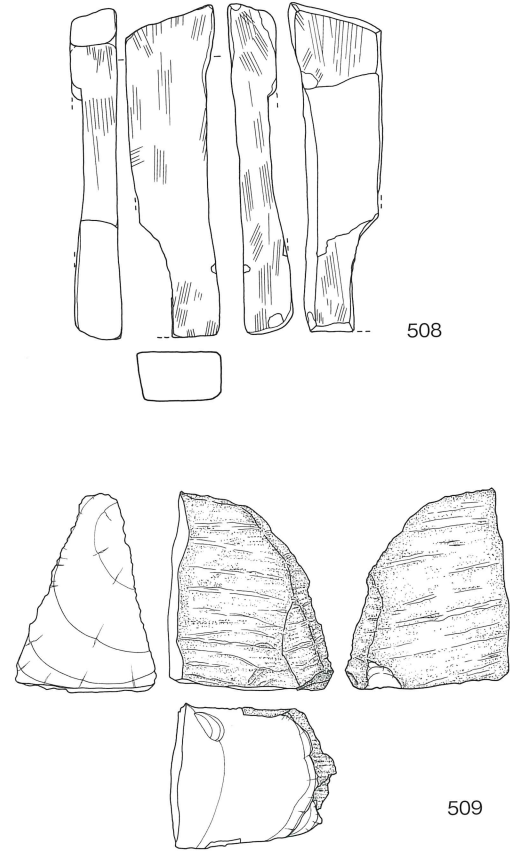
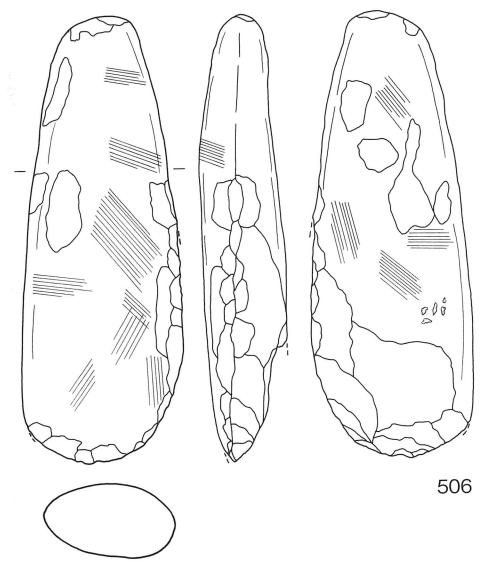
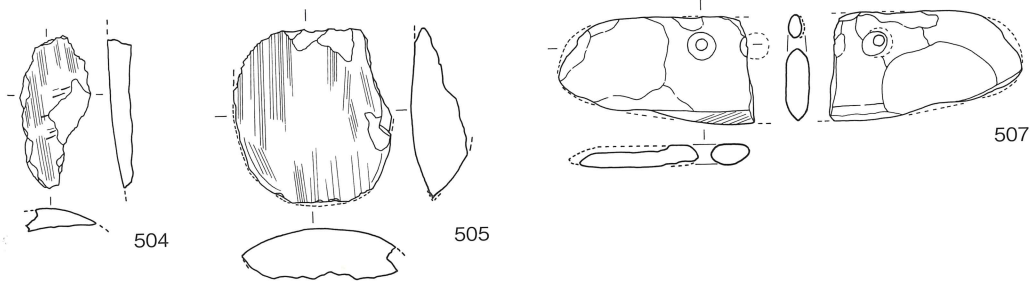
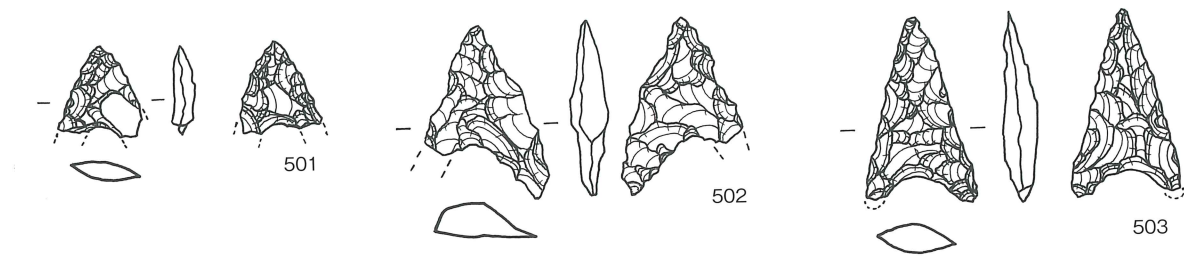
第30図 溝状遺構出土遺物実測図26 (1/3)



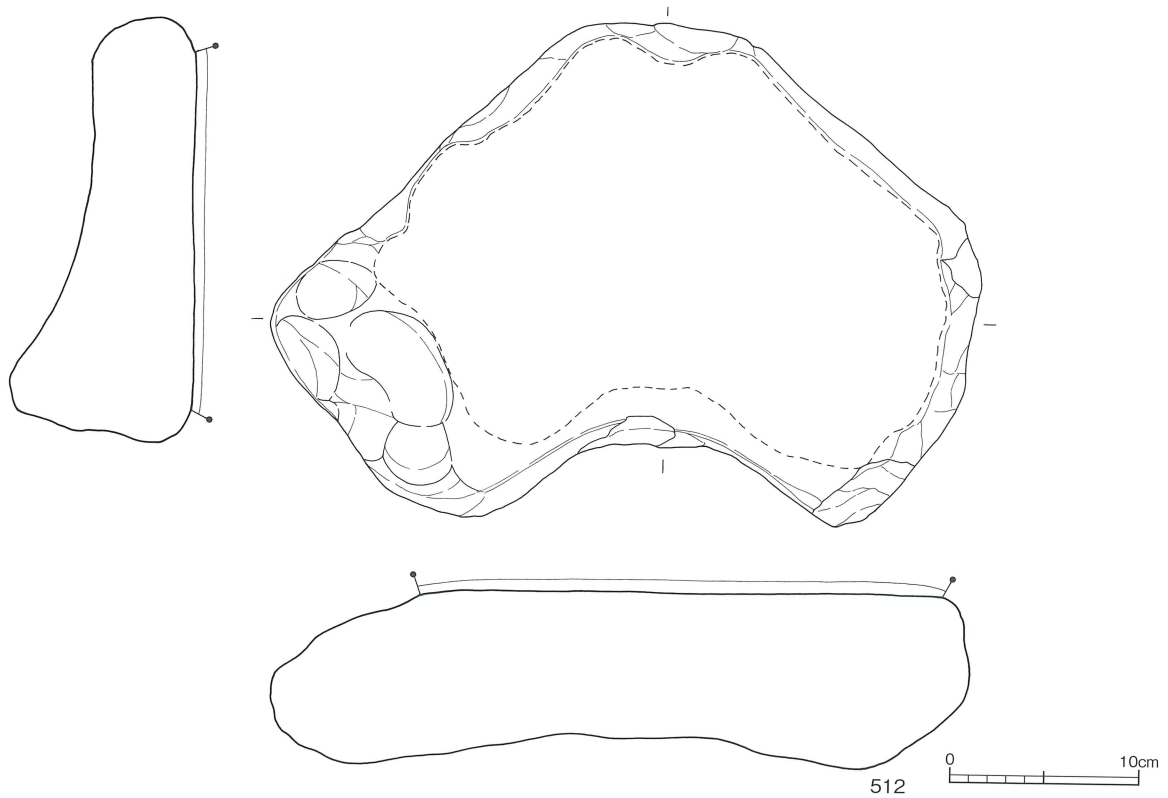
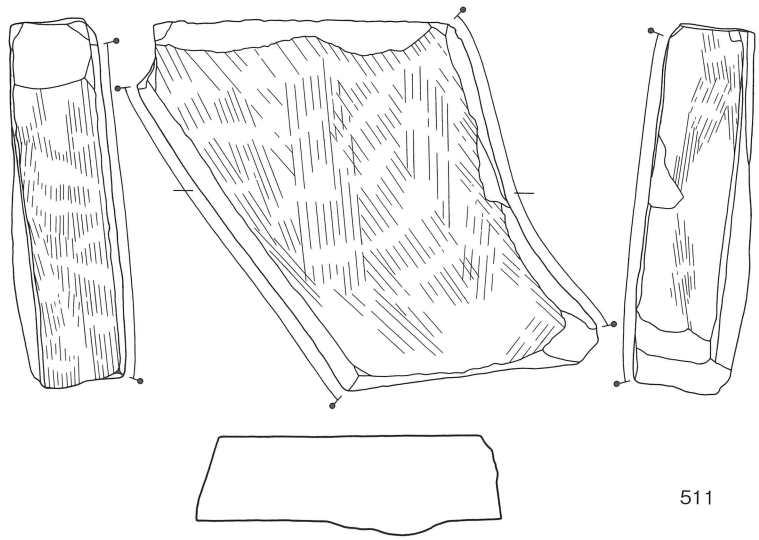
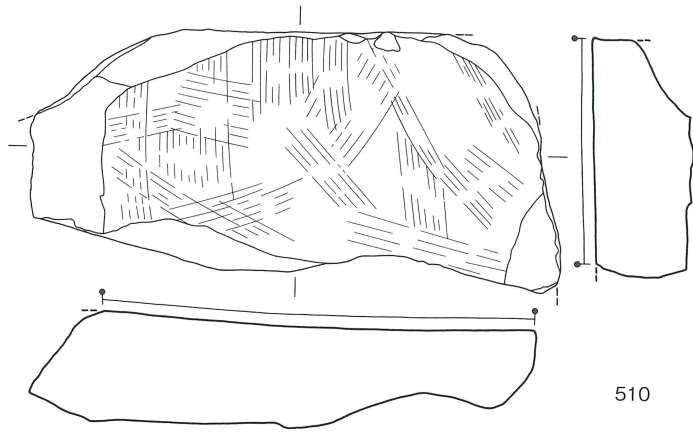
第31图 溝状遺構出土遺物実測図27 (1/3)



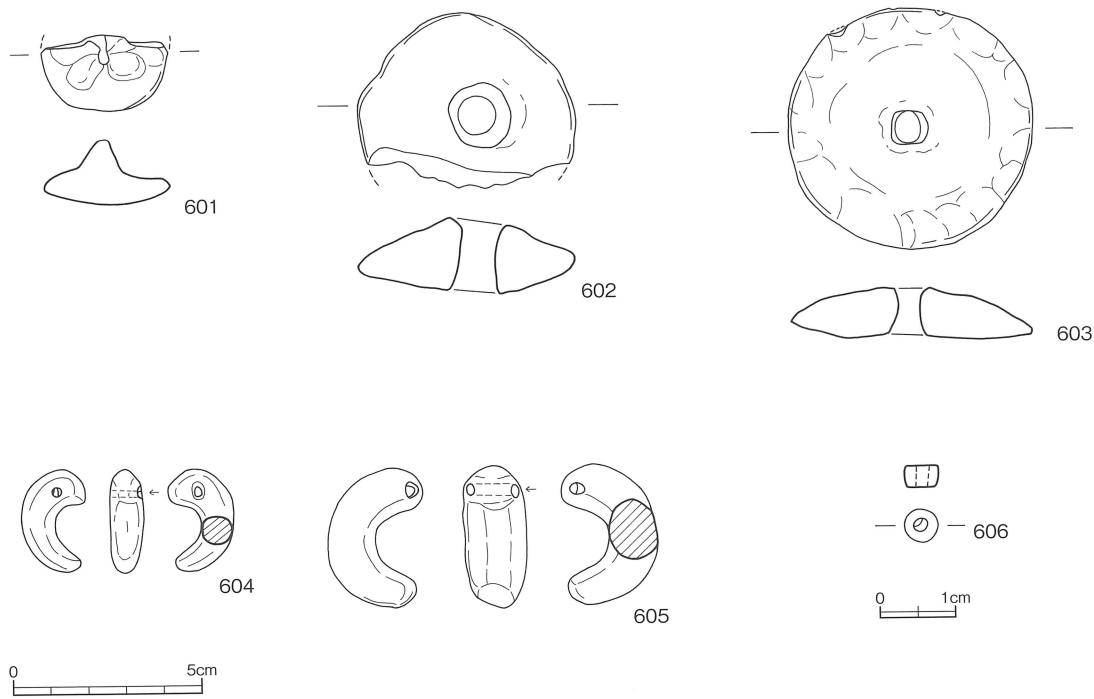
第32図 溝状遺構出土遺物実測図28 (1/3・1/4)



第33図 溝状遺構出土遺物実測図29 (原寸・1/3)



第34図 溝状遺構出土遺物実測図30 (1/4)



第35図 溝状遺構出土遺物実測図31 (原寸・1/2)

高坏(第20・21図) 高坏は多く出土しているが、いずれも坏部と脚部を故意に分離した状況で出土している。

坏部はやや大きく外に開く口縁部で、坏底部で屈曲する。坏底部は内面が低平なもの(179など)と、やや深く丸みをもつもの(188・189など)の2種類が存在する。

脚部は脚柱部が筒状に近いもの(179など)と、ハ状に開くもの(189など)が存在する。口径13.7~24.8cm、底部径10.4~14.8cm、器高11.5~18.0cmである。

鉢(第21・22図) 鉢はやや短く外に開く口縁部から球形に近い胴部へと続く。外面はハケとナデ調整。胴部内面はケズリ調整が多い。前段階の鉢1類を踏襲している。

小形壺(第22・23図) 小形壺は完形或いはほぼ完形品が多く出土している。また、口縁部と胴部を分離して廃棄している個体も多い。小形壺も器形によって5器種に分類できる。

1類は216でやや内傾ぎみに短く直立する口縁部から偏球形に張り出す胴部に続いている。内外面とも丁寧な調整(ハケ目・ミガキ)を施している。(復元)口径9.4cm、器高5.9cmである。

2類は217~233で、小形丸底壺の一群である。口縁部はナデ調整が主であり、胴部外面はハケ目後ナデ調整が主であるが一部ミガキあるいはヘラ削り痕が見られる。胴部内面には指による成形が見られる。口径7.9~10.8cm、器高5.7~12.0cmである。

3類は234で小形短頸壺に脚を付けたものであるが、脚は剥離している。外面はハケ目後ナデ調整、胴部内面は指による成形が見られる。口径7.4cmである。

4類は235~237の3点である。この土器は二重口縁壺を小形化したものである。口径は8.4~9.8cm、器高9.7~11.8cmである。外面はナデ調整で、236は胴部に弱いミガキが見られる。胴部内面には指による成形が見られる。

5類は238~252で形態は2類に近いが、口縁部の伸びが短いのが特徴である。外面はナデ調整が多く、胴部内面には指による成形が見られる。口径は7.0~12.6cm、器高7.4~15.9cmである。

器台(第23図) 253~256の4個体である。口縁部が緩く外へ開くもの(253)と、短く直立する(254)が見られる。脚部はハ字状に開く。253は口径7.9cmでナデ調整である。254は口径10.0cm、器高7.9cm、脚部外面にヘラミガキを施している。255は脚部にヘラミガキを施し、やや内湾している。

碗(第23図) 157~167である。丸底、又は不安定な平底をなし、体部から口縁部はやや丸みを持つ。外面はハケ目後ナデ調整を施すものが主であるが、一部にヘラ削りやミガキを施している個体がある。内面はナデ調整を施しているが、263・265は削りを施し、260・266にはミガキを施している。口径7.3~12.0cm、器高4.0~9.0cmである。

古墳時代前期末～古墳時代中期前半(第24～27図)

甕(第24・25図) 268～286で、いずれも破片であり、口縁から底部まで残る個体はない。土器の形態は、前段階の系譜を引くが口縁部の開きや頸部の締まりがやや弱くなり、胴部は球形化が進んでいる。外面はナデ及びハケ目調整を施している。胴部内面はほとんどの個体がヘラ削りを施している。口径は復元も含めて10.6～20.0cmである。

高坏(第26図) 287～303で、坏部の底部付近の屈曲が弱くなり、丸みを帯びるものも出現する。脚部は端部が低く平となる。完形あるいは完形に近い個体は287～292で、外面は坏・脚部ともナデ調整で、288・292の脚部はナデ調整の以前にミガキを施している。内面は坏部がナデ調整で、脚部はヘラ削りである。

壺(第27図) 304・305の2点である。304は球形の胴部に直立する口縁部を持つ直口壺で、胴部中央付近に径1.5cmほどの穿孔を穿っている。口径は6.4cm、器高は11.9cmである。305は口縁部がやや外に開く直口壺で、(復元)口径10.2cmである。

鉢(第27図) 306で、口縁部は短く外に開く特徴を持つ。口縁部はナデ仕上げ、胴部は外面がハケ目後ナデ調整、内面がヘラ削り後ナデ調整を施している。(復元)口径は11.4cm、器高10.8cmである。

碗(第27図) 307～313で、丸底の底部でそこからやや外に開く口縁部に続く形態である。また、口縁部を短く反転させている個体(311～313)はやや新しくなると考える。307の口縁部にはススが付着している。309・312・313の内面はミガキが施されている。口径は9.0～15.3cm、器高は3.5～6.7cmである。

ミニチュア土器・手づくね土器(第27図) 314～352は皿や鉢などのミニチュア土器・手づくね土器である。350の胴部には文様状の線刻が施されている。353～355は器台のミニチュアで、353は完形で、器高は3.1cmである。356は断面が三角をなす把手である。

須恵器(第28図) 志津里遺跡から出土した須恵器は357～359の3点である。時期は古墳時代前期末～中期前半頃と思われる。357は高坏で坏部中央に櫛描の波状文を施している。脚部には4箇所に通孔がある。(復元)口径18.2cm、底径12.2cm、器高13.1cmである。358は甕の口縁～胴部の一部で口縁部はかなり歪んでいる。359は壺で、底部を欠く。頸部に1条、肩部に3条の櫛描波状文が施されている。口径は18.8cmである。

木製品(第29～32図) 401は木製の編み籃である。幅5～6mm前後の木を薄く裂いたものを縦2枚、横1枚を1組として編み込んでいる。残りは良くないため全様は不明である。402は三つ又鋏である。先端を欠いているが、比較的残りは良い。現存で長さ25.6cm、最大幅10.3cm、厚さ1.9cmである。中央部分のほぞ孔は縦4.5cm前後、横3.5cm前後である。403は鋏で2/3程が残存している。長さ25.8cm、幅14.4cm、厚み1.0cmである。404は用途不明の木製品である。上部が欠損しているため大きさは不明であるが、幅12.5cm、厚み0.7cmで、端部に径3mm位の孔2個を穿っている。405は皿状の木製品である。一部欠損しているため全体の大きさは不明であるが、幅は14.0cm、厚さは0.7cmである。内部は年輪に沿って削っていて容器としての木製品と考える。406は杵で、残存長28.0cm、厚さは3.4cmである。407～413は杭である。414～416は用途不明の木製品である。417は建築部材と思われる、部材の一部に長さ10.5cm、深さ2.0cmの切り込みが見られる。

石製品(第33図) 501～503は石鏃で姫島産黒曜石を使用している。504～506は磨製石斧の破片で蛇紋岩製である。507は石包丁、508・510・511は砥石、512はすり石である。

土製品・玉類(第34図) 601は土製の模造鏡の破片である。長さ3.3cm、厚さ1.7cmである。602・603は土製の紡錘車である。603は裏面が扁平であり、造りが丁寧である。604・605は勾玉である。604は蛇紋岩製で長さ2.7cm、幅0.8cmである。605は土製の勾玉で長さ3.2cm、幅1.3cmである。606はガラス製小玉で色調は青緑色、径0.5cmである。

第4章 理化学的分析

志津里遺跡出土植物遺体の放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

志津里遺跡では、弥生時代終末～古墳時代前期頃と考えられる溝状遺構や古墳時代前期の石棺墓等が検出されている。今回の分析調査では、S-1遺構内から出土した植物遺体を対象として、遺構の構築年代に関する情報を得ることを目的として、放射性炭素年代測定を実施する。

1. 試料

試料は、S-1遺構から出土した植物遺体3点(資料番号11～13)である。試料番号11・12は種実遺体、試料番号13は木材からなる。

2. 分析方法

試料に付着している土壌や根など目的物と異なる年代を持つものをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HC1により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HC1によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma; 68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.00(Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期5730±40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。

暦年較正は、測定誤差 σ 、2 σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2 σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、2 σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

3. 結果

放射性炭素年代測定および暦年較正結果を表1、図1に示す。同位体効果による補正を行った測定結果は、試料番号11が1,700±20BP、試料番号12が1,740±20BP、試料番号13が1,810±20BPを示す。また、測定誤差を2 σ として計算させた確率1位の暦年較正結果は、試料番号11がcal AD 315～406、試料番号12がcal AD 241～359、試料番号13がcal AD 131～256である。

測定を行った植物遺体については、由来を明らかにするために種類同定を行った。試料番号11はモモの核、試料番号12はトチノキの種子、試料番号13はマタタビ属の木材に同定された。なお、マタタビ属

4. 考察

S-1遺構から出土した植物遺体の補正年代値と暦年（ 2σ 確率1位）は、試料番号11のモモ核が $1,700 \pm 20\text{BP}$ （暦年cal AD 315-406）、試料番号12のトチノキの種子が $1,740 \pm 20\text{BP}$ （cal AD 265-381）、試料番号13のマタタビ属の木材が $1,810 \pm 20\text{BP}$ （cal AD 131-256）を示した。

モモとトチノキの年代値は、誤差範囲内で一致している。暦年較正結果もほぼ同時期の年代を示しており、4世紀頃の年代が推定される。これに対して、マタタビ属の当年枝は、補正年代値・暦年較正年代共にモモ・トチノキよりもやや古い年代を示しており、2～3世紀頃の年代が推定される。この年代差については、各植物遺体の出土状況を踏まえた評価が必要である。

なお、北部九州の事例では、那珂君休遺跡(福岡県福岡市)から出土した布留 I～0式土器付着物で、今回の結果に近い測定値が得られている(西本,2006)。

引用文献

西本豊弘(編),2006,弥生時代の新年代.新弥生時代のはじまり第1巻,雄山閣,143p.

第5章 まとめ

志津里遺跡は、太田川上流域の低丘陵に囲まれた平坦地で新たに確認された遺跡である。

当地域一帯は昭和40年代に圃場整備を終えており、区画された水田が整然と並んでいる。今回調査を行った地点は、北側の水田とは約1m程度の段差を持つ低い位置にある水田である。

調査では、弥生時代終末～古墳時代中期頃までの土器を多量に含んだ溝状遺構1条が検出されている。この溝は幅5～7m、深さ1.0～1.2mで、断面逆台形となり、溝状の様相を呈している。溝の北西側は当調査区より一段高い水田へと延びていることから、溝状遺構の上流域は残りが良いと思われる。南東側は住宅地へと延びている。

溝内の土層の堆積状況は、大きく3層群に分層される。上層群は黒褐色系の粘質土で、土器を多量に含む層群である。中層は砂層を多く含む層群で、弥生時代終末期～古墳時代初頭の土器を中心に含んでいる。下層群は砂層及び地山土の崩落土の堆積である。中層及び下層群からは水流の痕跡が伺えた。また、中層と下層の間には掘り直しがあったと思われる。この溝状遺構は、弥生時代終末以前には北西から南東方向に水が流れていた幅5m前後の水路であり、少なくとも弥生時代終末頃に掘り直しを行っている。当時は周辺に水田が広がっていたと考えられ、三つ又鍬や杭などの農具などが出土している。その後、この溝状遺構は水路としての機能はなくなり、土器等の廃棄、或いは祭祀の場所として使用されたと考えられる。

出土遺物は弥生土器や土師器が中心で、溝状遺構の全域から出土している。出土土器の年代は弥生時代終末～古墳時代初頭頃と、古墳時代前期中頃～中期前半頃に大きく2時期に別けられる。土器の大半は打ち欠いた状態で出土している。壺では44の胴部最大径75cm前後の大型で胴部はほぼ完形に復元できる個体が1点ある。しかし口縁部は故意に打ち欠いていて、調査区内からは出土していない。高坏は、坏部と脚部を故意に分離したような状態で廃棄している。このうち190・194・197には丹塗りが施されている。小形丸底壺は、多くの個体で底部や口縁部を打ち欠いている。また、218や304のように胴部中央付近に穿孔状の打ち欠き痕を持つ個体が数点みられる。

さらにこの遺構内からは多量のミニチュア土器が出土している。皿や鉢などの製品で図示している個体以外にも多量の破片が出土している。須恵器の出土は3点だけで、高坏・壺・甕がそれぞれ1点出土している。特に359の壺は底部を故意に切り離したような様相がうかがえる。

このような土器の廃棄の状況や出土遺物の量、出土状況からみて、今回検出した溝状遺構では、何らかの祭祀の後、土器の大量投棄が行われていたと考えられる。調査範囲内の溝状遺構の長さは約18mで、全域からほぼ万遍なく土器が出土している事からかなり大がかりな祭祀が周辺で行われていたと考えてもよいのではないだろうか。

当遺跡周辺には原口遺跡、平井台古墳や八幡中学校遺跡など、古墳や石棺墓など古墳時代の遺構が多く確認されている。しかし、古墳時代の遺跡以外には、八幡中学校遺跡の縄文土器出土よりほかになく、さらに集落跡の事例はまだ報告されていない。しかし今回の発掘調査でおそらく太田川や当遺跡周辺には弥生時代から古墳時代の集落跡が広範囲に展開していたと考えられる。

今回の調査では、低丘陵に囲まれた平坦地のほぼ中央で遺跡が確認された。当地域は、今まで圃場整備以外に大きな開発がなく、遺跡の存在が知られていなかった地域であったが、今回の調査を契機に圃場整備の終了した地域でも一部に遺跡が存在することがわかった。住居跡の検出はなかったが、住居跡の存在をうかがわせる遺構の検出により、当地域における集落の様相などは今後の調査を待って検討する必要がある。本遺跡の北～東側に展開する丘陵裾部一帯に当該期の集落が点在する可能性が高く、弥生時代後期終末から古墳時代中期にかけて当地域一帯の開発の進展が考えられよう。

遺物計測表

表1 遺物観察表(1)

挿図 番号	器種	法量(cm)※()は復元径					外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	胎土 (◎:多い、○:含む、△:わずか)						備考
		口径	頸部	胴部	底部	器高					角閃石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その他	
1	甕	23.0		23.8	2.6	27.6	ハケナデ	淡褐色	ハケ後ナデ、底部ナデ	淡褐色	◎	◎	○		◎	黒色 粒子	内外面黒斑あり
2	甕	19.0					口縁部横ナデ 胴部縦方向のハケ目	にぶい黄褐色	口縁部横ナデ 胴部斜め方向のハケ目	褐色	◎	◎		◎	◎		外面2次加熱、スス付着
3	甕	(21.5)	(17.7)				頸部横ナデ 胴部ハケ目	にぶい黄橙 色	口縁部横ナデ 胴部縦方向のハケ目	にぶい黄橙 色	◎	◎					
4	甕	(21.2)	(17.5)				ハケ目後ナデ	にぶい黄褐色	ハケ目後ナデ	にぶい黄褐色	◎	◎		◎	◎		外面スス付着
5	甕	(26.2)					口縁部横ナデ 胴部ハケ目	暗黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	暗黄褐色	○	○		○			外面スス付着
6	甕	(14.0)					口縁部横ナデ 胴部タタキ一部縦ハケ目	暗褐色 暗灰色	口縁部横ナデ 胴部ハケ目	暗灰色	◎	◎					内外面黒斑あり
7	甕	(16.0)					口唇部横ナデ 口縁部縦ハケ目 胴部縦ハケ目	淡黄褐色 暗褐色	口縁部横ハケ目 胴部斜めハケ目	淡褐色	◎	◎					
8	甕	(18.6)	(13.3)				口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	明褐色	口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	明褐色	◎	◎		◎	◎		
9	甕	(18.0)					口縁部縦ハケ目 胴部縦ハケ目	淡橙褐色 黒色	斜めハケ目	淡橙褐色 橙褐色 暗褐色	◎	◎					内外面黒斑あり
10	甕	(20.6)	(17.4)				口縁部縦方向のハケ後ナデ 胴部縦方向のハケ目	暗黄褐色	口縁部横ハケ後ナデ 胴部横方向のハケ目	暗黄褐色	◎	◎		○	○		
11	甕	(16.0)	(13.3)				ハケ目後ヨコナデ	暗灰色	口縁部横方向のハケ目 指押さえ、ハケ後ナデ	暗灰色	◎	◎			◎		外面黒斑あり
12	甕	(18.8)					口唇部横ナデ 口縁部縦ハケ目 胴部縦・斜めハケ目	淡黄褐色 暗褐色	口縁部横ハケ目 胴部斜めハケ目	淡橙褐色	◎	◎					
13	甕	(17.3)	(16.3)	(18.2)			口縁部横ナデ 胴部斜め方向のハケ後ナデ	明茶褐色	口縁部横ナデ 胴部斜め方向のハケ後ナデ	明茶褐色	◎	◎		○	○		
14	甕	(11.5)					縦方向のハケ目	暗褐色	横方向のハケ目	暗褐色	○	◎		○			外面黒斑あり
15	甕	(12.0)		(13.0)			口縁部ヨコナデ 胴部ハケ目	暗灰色	口縁部横ナデ 胴部ハケ目	暗灰色	◎	◎					外面黒斑あり
16	甕	14.0	10.5				横方向のナデ	黒色	斜め方向のハケ目	灰白色	◎	◎			○		外面スス付着
17	甕	13.4					口縁部横ナデ 胴部縦方向のハケ後ナデ	暗茶褐色	口縁部横ナデ 胴部斜め方向のハケ目	淡茶褐色	◎	◎			◎		外面スス付着
18	甕	(13.0)		(14.0)			口縁部横ナデ 胴部ハケ目	にぶい橙褐色	口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	淡褐色	◎	◎					
19	甕	(16.0)					口唇部横ナデ 口縁部横ナデ後縦ハケ目 胴部縦ハケ目	にぶい橙褐色 暗褐色 黒色	口縁部斜めハケ目	暗褐色 黒色	◎	◎					内外面黒斑あり
20	甕	(17.2)	(12.7)	(21.8)			口縁部ナデ 胴部平行タタキ後ナデ	暗褐色	口縁部ナデ 頸部指圧痕 胴部ヘラ削り後ナデ	暗褐色	◎	◎		◎			
21	甕	(19.4)		(24.0)			口縁部横ナデ 胴部平行タタキ	黒色	口縁部横ナデ 胴部上半縦ハケ目 胴部下半削り後ナデ	黒褐色	◎	◎		○	○		スス付着 搬入土器か?
22	甕	(24.4)	(23.4)	(26.6)			口縁部横ナデ 胴部平行タタキ	淡茶褐色	口縁部横ナデ 胴部タタキ後ナデ	淡茶褐色	○	○		○			外面黒斑あり
23	甕	15.8	12.7				口縁部横方向のナデ 胴部タタキ後斜め方向のハケ 目	にぶい黄褐色	口縁部横方向のナデ 胴部ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎			○		2次被熱あり
24	甕	(14.1)	(13.5)	(18.6)	2.5	22.0	口縁部横ナデ 胴部上半縦ハケ目 胴部中央タタキ整形 胴部下半ヘラ削り	暗茶褐色	口縁部横ナデ 胴部上半ヘラ削り 胴部下半斜め方向のハケ目 胴部下半ヘラ削り	暗茶褐色	○	○		○	○		外面黒斑あり
25	甕	(16.2)	(15.2)	(18.4)			口唇部面取り 口縁部縦ハケ後ナデ 胴部平行タタキ後縦ハケ	淡褐色	口縁部ナデ 胴部ヘラ状工具ナデ	淡褐色	◎	◎			◎		外面黒斑あり

表2 遺物観察表(2)

挿図 番号	器種	法量(cm)※()は復元径					外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	胎土 (◎:多い、○:含む、△:わずか)						備考	
		口径	頸部	胴部	底部	器高					角閃 石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その他		
26	甕	(16.0)					口縁部横ナデ 胴部タキ後一部縦ハケ	橙褐色 淡褐色 暗褐色	口縁部横ナデ 胴部ハケ目	橙褐色 淡褐色 暗褐色 黒色	◎	◎						外面黒斑あり
27	甕	(19.8)					口縁部横ナデ 頸部～胴部上部ハケ後ナデ 胴部タキ後ハケ目	にぶい黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ハケ目	にぶい黄褐色	○	○						外面胴部にスス付着
28	甕	(15.0)	(13.4)	(15.9)			口縁部横ナデ 胴部一部平行タキ 縦方向のハケ後ナデ	黄灰褐色	口縁部横ナデ 頸部指圧後斜め方向のハケ目 胴部斜め方向のヘラ削り後ナデ	黄灰褐色	◎	◎				○		
29	甕	19.4	14.6				口縁部横方向のナデ 胴部タキ	黒色	口縁部横方向のナデ 胴部ヘラ削り	淡黄色	◎		○			○		搬入土器
30	甕	(13.6)		(19.9)			口縁部横ナデ 胴部不定方向のハケ目	黄褐色	口縁部横ナデ 胴部上半ハケ目 胴部下半ヘラ削り	黄褐色	○	○						外面黒斑あり
31	甕	(16.6)					口縁部横ナデ 頸部下粗いナデ 胴部縦ハケ目	暗褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	暗褐色	◎	◎		○	◎			外面スス付着
32	甕	(20.2)					口唇部横ナデ 口縁部ハケ後ナデ 胴部横ハケ目	にぶい黄褐色	口縁部ハケ後ナデ 頸部指圧痕 胴部ヘラ削り	にぶい黄褐色	○	○	○					外面スス付着
33	甕				3.4		タキ後ナデ	浅黄色	ハケ後ナデ	浅黄色	◎	◎				◎		2次被熱、黒変あり
34	甕				3.5		胴部タキ後粗い縦ハケ 底部ナデ	暗褐色 暗灰色	胴部斜めハケ	暗褐色	◎	◎						外面黒斑あり
35	甕	22.2			4.5		縦方向のハケ後ナデ	暗褐色 淡赤褐色	斜め方向のハケ目	暗褐色 淡赤褐色	◎	◎				◎		内外面スス付着
36	甕				2.1		胴部ハケ目 底部ナデ	淡茶褐色	タテ方向の削り	淡茶褐色	◎	◎		○	○			
37	壺	(14.0)					ナデ調整	にぶい橙色	ナデ調整	にぶい橙色	○	◎		○				
38	壺	(14.0)					口縁部横ナデ 口縁下部縦ハケ後ナデ	淡橙色	口縁部横ナデ 口縁下部横方向のハケ目	淡橙色	◎	◎		◎				
39	壺	(16.0)					口縁部横ナデ 頸部縦ハケ	黄橙褐色	口縁部横ナデ 頸部横ハケ	黄橙褐色	○	○	○					外面黒斑あり 搬入土器?
40	壺	18.6	16.2				口唇部横ナデ 口縁部ハケ後横ナデ 肩部ハケ目	にぶい黄褐色	口縁部ハケ目 肩部ナデ	淡黄褐色	◎	◎				◎		外面2次加熱、スス付着
41	壺	24.7	16.5				口縁部横方向ナデ後縦ハケ 頸部斜め方向のハケ目 胴部縦方向のハケ目	淡黄色	口縁部横方向ナデ 頸部斜め方向のハケ目 胴部斜め方向のハケ目	褐色	◎	◎			○			刻み目突帯2条
42	壺	(18.6)					ヨコナデ	黄褐色	口縁上部横ナデ 口縁下部横方向のハケ目	黄褐色	◎	○		○	◎			内外ともに黒斑あり
43	壺						口縁部横ナデ 頸部斜め方向のハケ目	淡褐色	口縁部横ナデ 頸部斜め方向のハケ後ナデ	明褐色	○	○	○					搬入土器?
44	壺		28.5	74.5			頸部横ナデ 胴部ハケ後ナデ 胴部下部平行タキ後ナデ	淡褐色	頸部横ハケ後ナデ 胴部ハケ後ナデ	淡褐色	◎	◎			○			刻み目突帯(後付け)
45	壺	(9.9)	(8.9)				口縁部横ナデ 胴部ハケ目ナデ	にぶい黄褐色	口縁部ハケ後ナデ 胴部ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎		◎	◎			
46	壺	(11.2)	(10.2)				口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	黒褐色	口縁部横ハケ後ナデ 胴部横ハケ後ナデ	暗褐色	◎	◎				◎		
47	壺	(12.2)	(11.0)	(27.6)			口縁部横ナデ 胴部縦ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部横ナデ 胴部上半指押さえ後ナデ 胴部下半削り後ナデ	淡褐色	◎	◎						
48	壺	(11.2)					口縁部横ナデ 胴部縦ハケ目	黄橙褐色	口縁部横ハケ目 胴部横ハケ後ナデ	黄橙褐色	○	○						
49	壺	(13.0)	(13.2)				口縁部横ナデ 頸部ハケ目 胴部ナデ	暗褐色	口縁部ハケ目 頸部ヘラ削り後ナデ 胴部ヘラ削り	暗褐色	◎	◎		○	○			
50	壺	14.0	14.6	(24.8)			口縁部縦ハケ後ナデ 胴部上半平行タキ後縦ハケ 胴部下半削り後ナデ	橙褐色	口縁部横ハケ後ナデ 胴部上半ハケ後ナデ 胴部下半ハケ後ミガキ	橙褐色	◎	◎	○		○			口縁部に打ち欠きあり

表3 遺物観察表(3)

挿図 番号	器種	法量(cm)※()は復元径					外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	胎土 (◎:多い、○:含む、△:わずか)						備考
		口径	頸部	胴部	底部	器高					角閃石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その他	
51	壺						削り後ナデ	橙褐色	削り後ミガキ	橙褐色	◎	◎	○		○		50と同一個体
52	壺	14.4	12.8				口縁部横方向のナデ 胴部ハケ目	にぶい褐色	口縁部横方向のナデ 胴部ヘラ削り	にぶい褐色	◎	◎	○	◎	◎		
53	壺	(16.6)					口縁部横方向のナデ 胴部縦方向のハケ目	黄褐色 暗褐色	口縁部横方向のナデ 胴部横・斜め方向のハケ目	黄褐色 暗褐色	◎	◎			◎		外面黒斑あり
54	壺		(12.4)	23.7	5.0		頸部縦ハケ目 胴部上半タタキ 胴部下半ハケ目	明黄褐色	頸部ナデ 胴部不定方向ハケ目	明黄褐色	○	○			○		
55	高杯	20.4					横ナデ後ヘラミガキ	淡褐色	削り後横ナデ後ヘラミガキ	淡褐色	◎	◎		◎			
56	高杯	(19.8)					口縁部横方向のナデ 胴部ハケ目	淡褐色	横方向のナデ	淡褐色	○	◎	○				外面黒斑あり 内面スス付着
57	高杯				20.3		縦方向のヘラミガキ	淡茶褐色	指圧後ナデ、絞り痕、 横方向のハケ	淡茶褐色	◎	◎			○		胴部に穿孔4箇所あり
58	高杯				19.0		縦方向のミガキ	明黄褐色	粗いハケ後ミガキ	明黄褐色	○	○			○		胴部に穿孔4箇所あり 外面スス付着
59	高杯				15.0		縦方向のヘラミガキ	淡褐色	指圧後ナデ、絞り痕、 横方向のハケ目	淡褐色	◎	◎	△	○			胴部に穿孔4箇所あり
60	高杯		3.6		(12.8)		縦方向のミガキ	淡褐色	指圧痕あり、ナデ調整	淡褐色	◎	◎	○		○		分割成形
61	高杯				(16.0)		縦方向のヘラミガキ	暗茶褐色	ナデ、指圧	暗茶褐色	◎	◎		○			外面黒斑あり 胴部に穿孔3箇所あり
62	器台	(13.4)		6.4			口縁部横ナデ 胴部縦方向のナデ	淡褐色	口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ、絞り痕	橙褐色	◎	◎			○		
63	鉢	8.4			4.8		口縁部横ナデ 胴部縦方向のナデ	暗褐色	口縁部横ナデ 胴部ナデ	黄褐色	○	◎			◎		
64	鉢	(8.8)			5.5		口縁部ナデ 胴部横ナデ 胴部下半～底部指押さえ後ナデ	暗灰色	口縁部ハケ後横ナデ 胴部指ナデ	淡褐色	◎	◎			◎		内外面黒斑あり
65	鉢	10.2			5.0		口縁部横ナデ 胴部工具によるナデ	淡黄褐色	口縁部横ナデ 胴部指押さえによるナデ	淡黄褐色	◎	◎		◎			
66	鉢	(9.8)		(4.5)	5.2		口縁部横ナデ 胴部削り後指ナデ 底部無調整	淡褐色 暗褐色 暗灰色	口縁部横ナデ 胴部工具痕後指ナデ	淡褐色 暗褐色 暗灰色	◎	◎			◎		内外面黒斑あり
67	鉢	12.5			8.2		口縁部指調整後斜めナデ 胴部縦ハケ後ナデ	黄褐色	口縁部指調整後斜めナデ 胴部工具によるナデ	黄褐色	○	◎			◎		外面底部黒斑あり
68	鉢	13.1			8.5		口縁部横ハケ目 胴部ヘラズリ後縦ハケ目 底部不定方向のハケ目	にぶい橙褐色 淡褐色 暗灰色	口縁部横ハケ 胴部丁寧なナデ、指圧痕	にぶい橙褐色 淡褐色 暗灰色	◎	◎			◎		内外面黒斑あり
69	鉢	9.7			3.5 ～ 4.5	5.2	胴部ハケによる粗いナデ 底部粗いナデ	暗褐色	口縁部ナデ 胴部横ハケ目後ナデ	暗褐色	○	◎					
70	鉢	(10.0)			(3.6)	5.9	体部指ナデ 底部無調整	淡褐色 黒色	不定方向のハケ	淡褐色	◎	◎			◎		外面黒斑あり
71	鉢	12.2			7.8		口縁部横ナデ 胴部上部指によるナデ 胴部下部平行タタキ	暗茶褐色	口縁部横ナデ 胴部工具によるナデ	暗茶褐色	◎	◎			◎		外面黒斑あり 内部に鉄分付着
72	鉢	(10.6)			9.2		口唇部ナデ 胴部縦ハケ後ナデ	橙褐色	横ハケ後ミガキ	橙褐色	◎	◎	○	◎			外面黒斑あり
73	鉢	15.8			13.1		口唇部ナデ 胴部ハケ後ナデ	茶褐色	口縁部横ナデ 胴部横方向のハケ 底部指押さえ後ナデ	茶褐色	◎	◎	○		◎		
74	鉢	(10.2)			5.1		口唇部横ナデ 胴部削り後ナデ	淡褐色	胴部ハケ後ナデ	淡褐色	◎	◎	○				
75	鉢	12.0			6.5		口縁部横ナデ 胴部ナデ後縦方向のミガキ	淡黄褐色	口縁部横ナデ 胴部横ハケ後ミガキ	淡黄褐色	◎	◎		◎			

表4 遺物観察表(4)

挿図 番号	器種	法量(cm)※()は復元径					外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	胎土 (◎:多い、○:含む、△:わずか)						備考	
		口径	頸部	胴部	底部	器高					角四 石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その他		
76	鉢	15.0					口唇部横ナデ 体部削り後ナデ	淡橙褐色 淡褐色	ハケ後縦方向のミガキ	橙褐色 淡褐色 暗褐色 黒色	◎	◎						内面黒斑あり
77	鉢	12.7				6.4	口縁端部横ナデ 胴部削り後ナデ、指圧痕あり	暗茶褐色	口縁端部横ナデ 胴部工具によるナデ	暗茶褐色	◎	◎			○			外面スス付着 内面コゲ付着
78	鉢	(14.4)					口唇部横ナデ 口縁部横ハケ目 胴部横ハケ目	にぶい橙褐色 淡褐色 暗灰色	口縁部横ハケ目 胴部横ナデ一部工具痕	にぶい橙褐色 淡褐色 暗灰色	◎	◎						
79	鉢	(16.9)	(14.0)				口縁部横ナデ 胴部斜め方向のハケ目	褐灰色 暗灰色	口縁部横ナデ 胴部横方向のハケ目	褐灰色 暗灰色	◎	◎			◎			外面黒斑あり
80	鉢	(12.6)					口縁部横ナデ 胴部ナデ	黄褐色	口縁部横ハケ目後横ナデ 胴部刷毛によるナデ	黄褐色	◎	◎						
81	鉢	(15.6)		(15.0)			口縁部横ナデ 胴部横・斜めハケ目	淡橙褐色	口縁部横ハケ目 胴部横方向のナデ、ハケ目	淡橙褐色	◎	◎						
82	鉢	(24.6)	(20.6)				口縁部横ナデ 胴部ナデ	茶褐色	口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	茶褐色	◎	◎			○			
83	鉢	(19.6)		19.4		15.8	口縁部横ナデ 胴部縦・斜め方向のハケ目	淡黄橙色	口縁部横ナデ 胴部縦・斜め方向のハケ目	淡黄橙色	◎	◎		◎	◎			内外面黒斑あり
84	脚付鉢	12.3			6.2	8.5	口唇部横ナデ 体部ハケ目 脚部横ナデ	淡褐色 にぶい黄褐色	体部ハケ後ナデ、一部工具痕 脚部ナデ、一部工具痕	淡褐色 橙褐色 淡橙褐色 灰色	◎	◎			◎			内外面黒斑あり
85	脚付鉢	(14.2)				11.6	口縁部ヨコナデ 胴部～脚部ハケ後横ナデ	暗灰色	口縁部ハケ後横ナデ 胴部指ナデ	暗灰色	○	○	○					外面黒斑あり
86	碗	(14.0)					口唇部ナデ 体部ヘラ削り	淡黄橙褐色	横方向のハケ目	淡黄橙褐色	○	○	○					
87	碗	(15.4)				5.2	口縁部ケズリ後ヨコナデ 胴部削り後ナデ	暗褐色	削り後ヘラミガキ	暗褐色	◎	◎	○					外面口縁部にスス付着 口縁部打ち欠き
88	碗	(11.6)					横方向のミガキ	淡黄色	ヘラミガキ	淡黄色	○	○			○			
89	碗	(14.2)				5.2	口縁部ナデ 底部ヘラ削り	明黄橙色	体部横方向のハケ目 底部ヘラミガキ	明黄橙色	○	○			○			外面黒斑あり
90	碗	20.4				6.0	口縁端部横ナデ 胴部ヘラ削り後ナデ	橙褐色	口縁端部横ナデ 胴部斜め・縦方向のハケ目	橙褐色	◎	◎	○					外面底部に黒斑あり
91	甌						ヘラケズリ	浅黄色	剥離のため不明	浅黄色	◎	◎						
92	甌						縦方向のハケ目	暗灰色 浅黄色	指圧痕	暗灰色 浅黄色	◎	◎						外面黒斑あり
93	甌	(16.6)				9.1	口縁部横ナデ 体部縦方向のハケ目	淡褐色 灰色 黒色	口縁部横ナデ 体部ヘラ削り	淡褐色 にぶい橙褐色	◎	◎			◎			外面黒斑あり
94	甌	15.7		23.0		29.4	口縁部縦ハケ後横ナデ 胴部ハケ後ナデ	黄褐色	口縁部横ハケ後横ナデ 胴部ヘラ削り	淡褐色	◎	◎	○	◎				外面胴部に黒斑あり
95	甌	(15.4)	(12.6)	(23.6)	4.0	26.6	口縁部斜めハケ目 胴部不定方向のハケ目	黄橙褐色	口縁部斜めハケ目 胴部ヘラ削り	黄橙褐色	○				○			外面スス付着
96	甌	16.0		23.6			口縁部横ナデ 胴部縦方向のハケ後ナデ	黄橙褐色	口縁部横ナデ 胴部上半斜めヘラ削り 胴部下半縦ヘラ削り	黄橙褐色	○	○						搬入土器
97	甌	(18.8)	(15.2)				口唇部面取り 口縁部縦ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部横ハケ後ナデ 頸部削り後ナデ	淡褐色	◎	◎			○			外面スス付着 2次被熱
98	甌	15.6					口唇部横ナデ 口縁部縦ハケ後ナデ 胴部斜めハケ目	にぶい黄褐色	口縁部横ハケ目 胴部ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	○		○	◎			外面2次加熱、スス付着
99	甌	(14.8)	(12.7)				口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	暗灰色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	灰黄色	◎	◎						外面スス付着
100	甌	(16.0)					口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	淡黄橙色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	淡黄橙色	○	○	○					外面スス付着

表5 遺物観察表(5)

挿図 番号	器種	法量(cm)※()は復元径					外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	胎土 (◎:多い、○:含む、△:わずか)						備考
		口径	頸部	胴部	底部	器高					角閃石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その他	
101	甕	(18.6)	(15.6)				口縁部横ナデ 胴部縦ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部ハケ後ナデ 胴部削り後ナデ	淡褐色	◎	◎		○	○		外面黒斑あり
102	甕	(14.2)					口縁部横ナデ 胴部ハケ目	淡黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	淡黄褐色	○	○			○		外面スス付着
103	甕	16.6	13.8				口縁部ハケ後横ナデ 胴部縦ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部ハケ後横ナデ 胴部上半指押さえ後ナデ 胴部下半ケズリ後ナデ	淡褐色	◎	◎					外面:黒斑あり 口縁部に打ち欠きあり
104	甕	(17.5)	(14.7)				ハケ目後ナデ	暗灰色	口縁部ナデ 胴部ヘラ削り	灰黄色	◎	◎					外面スス付着
105	甕	(17.0)					口縁部横ナデ 胴部ハケ目	黄橙褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	黄橙褐色	○	○			○		外面スス付着
106	甕	18.0					口唇部横ナデ 口縁部ハケ後ナデ 胴部ハケ後ナデ	にぶい黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	浅黄褐色	◎	◎		◎			内面口縁〜胴部鉄分付着
107	甕	(17.4)	(13.5)				口縁部横ナデ 胴部縦ハケ後ナデ	にぶい褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	にぶい褐色	◎	◎		◎	◎		外面黒斑あり
108	甕	(17.8)	(14.4)	(24.0)			口縁部横ナデ 胴部縦ハケ後ナデ	黒褐色	口縁部ハケ後横ナデ 胴部削り後ナデ	淡褐色	◎	◎			◎		外面スス付着
109	甕	(11.2)	(9.8)				横ナデ	灰黄色	口縁部ナデ 胴部ヘラ削り	灰黄色	◎	◎					外面スス付着
110	甕	17.2	12.8				口縁部横方向のナデ 胴部斜め方向のハケ目	淡黄色 灰色	口縁部横方向のナデ 胴部ヘラ削り	灰白色	◎	○			○		外面黒斑あり
111	甕	(15.7)	(12.4)				横方向のナデ	にぶい黄褐色	口縁部横方向のナデ 胴部ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎		◎	◎		
112	甕	(17.0)	(13.2)				口縁部横ナデ 胴部縦ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部横ナデ 胴部削り後ナデ、接合痕	淡褐色	◎	◎			○		
113	甕	(17.6)					口縁部横ナデ 胴部縦ハケ後ナデ	黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ	灰黄褐色	◎	◎					
114	甕	(16.8)	(13.7)				口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	明褐色	口縁部ハケ後ナデ 胴部ヘラ削り	明褐色	◎	◎		◎	◎		外面スス付着
115	甕	(16.0)	(12.0)				口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	にぶい黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ	にぶい黄褐色	◎	◎		◎	◎		外面スス付着
116	甕	(13.0)		(17.6)			口縁部横ナデ 胴部ハケ後ミガキ	淡褐色 灰色 淡橙褐色 黒色	口縁部:ヨコナデ 胴部削り一部ナデ	橙褐色 淡褐色 暗褐色	◎	◎					外面黒斑あり 搬入土器
117	甕	(13.9)					口縁部横ナデ 胴部ハケ目	黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	黄褐色	○	○			○		外面スス付着
118	甕	17.2					口縁部横ナデ 胴部ハケ目	にぶい黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎		◎	◎		外面スス付着
119	甕	17.7					口縁部横ナデ、指圧痕あり 胴部縦・斜めハケ目	暗灰黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	暗灰黄褐色	◎	◎				硬石	外面黒斑あり 内面口縁部に黒斑あり
120	甕	18.4	16.4				口縁部横ナデ 胴部縦方向のハケ後横ナデ	淡褐色 暗褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	淡褐色	◎	◎		○			口縁部にスス付着
121	甕	(18.8)	(16.0)	(21.8)			ハケ後ナデ	橙色	口縁部ハケ目後ナデ 胴部ヘラ削り	橙色	◎	◎		◎	◎		外面黒斑あり
122	甕	(13.7)	(10.7)	(14.2)			口縁部横ナデ 胴部斜め方向のハケ目	暗褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	暗褐色	◎	◎			○		外面にスス付着 口縁部に歪みあり
123	甕	14.0					口縁部横ナデ 胴部ハケ目	にぶい橙色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	浅黄色	◎	◎		○	◎		外面2次加熱、スス付着 搬入土器か?
124	甕	(15.0)					口縁部横ナデ 胴部斜め・横方向のハケ目	淡茶褐色	口縁部横方向のハケ後ナデ 胴部ヘラ削り	淡茶褐色	○	◎		○			外面スス付着 口唇部は面とり
125	甕	14.9					横方向のナデ	にぶい褐色	口縁部横方向のナデ 胴部ヘラ削り	にぶい褐色	◎	◎					外面にスス付着 搬入土器

表6 遺物観察表(6)

挿図 番号	器種	法量(cm)※()は復元径					外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	胎土 (◎:多い、○:含む、△:わずか)						備考	
		口径	頸部	胴部	底部	器高					角閃石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その他		
126	甕	(13.5)					口縁部横ナデ 胴部ハケ目	淡黄橙褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	淡黄橙褐色	◎	◎						外面スス付着 搬入土器?
127	甕	(15.6)					口縁部横ナデ 胴部縦方向のハケ目	淡黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	淡黄褐色	◎	◎		○	◎			外面スス付着 内面黒斑あり
128	甕	(15.6)	(12.2)				口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部横ナデ 胴部削り後ナデ	淡褐色	◎	◎			○			外面スス付着、2次被熱
129	甕	(19.9)					口縁部横ナデ 胴部ハケ目	灰褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	灰褐色	○	○			○			
130	甕	17.4		13.0			口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	にぶい黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎		◎	◎			外面2次加熱、スス付着 搬入土器か?
131	甕	(13.0)	(10.8)				口縁部縦ハケ後ナデ 胴部縦ハケ後ナデ	黒褐色 茶褐色	口縁部横ナデ 胴部指削り後ナデ	茶褐色	◎	◎			◎			2次被熱
132	甕	(14.7)	(11.8)				口縁部横ナデ 胴部縦・斜め方向のハケ後ナ デ	淡褐色	口縁部一部横ハケ後ナデ 頸部付近指圧痕 胴部横方向のヘラ削り	淡褐色	◎	◎		○	○			外面黒斑あり
133	甕	(15.2)	(12.0)				口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部横ナデ 胴部削り後ナデ	淡褐色	◎	◎			○			外面黒斑あり
134	甕	14.9	12.1				口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	にぶい褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	にぶい褐色	◎	◎		◎	◎			外面スス付着
135	甕	15.0		15.6			口唇部横ナデ 口縁部ハケ目 胴部ハケ目	にぶい黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	にぶい褐色	◎	◎			◎			外面2次加熱、黒変
136	甕	(15.0)	(12.7)				ハケ後ナデ	灰褐色	口縁部ハケ後ナデ 胴部ヘラ削り	灰褐色	◎	◎			◎			外面黒斑あり
137	甕	17.8					口縁部横ナデ 胴部ハケ目	にぶい黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	にぶい赤褐色	◎	◎		◎	◎			外面スス付着 内面黒変あり
138	甕	(19.8)	(17.0)				口唇部横ナデ 口縁部ハケ目 胴部ハケ目	にぶい黄褐色	口縁部横ナデ 頸部指圧痕 胴部ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎		○	○			
139	甕	(18.0)	(13.6)				口唇部面取り 口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	茶褐色	口縁部横ナデ 頸部下粗いナデ 胴部削り後ナデ	茶褐色	◎	◎			○			
140	甕	17.4		18.0			口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	にぶい黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎		○				
141	甕	(16.7)	(15.6)				口縁部横ナデ 胴部縦方向のハケ目	暗灰色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	灰黄色	◎	◎						
142	甕	(18.0)					口縁部横ナデ 胴部ハケ目	黄橙褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	黄橙褐色	○	○						外面スス付着
143	甕	(22.4)	(17.0)				ヨコナデ	にぶい褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	にぶい褐色	◎	◎		◎	◎			外面スス付着
144	甕	9.8		10.4			口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	にぶい褐色	◎	◎		◎	◎			
145	甕	9.4	9.0				口唇部横ナデ 口縁部斜めハケ目 胴部ハケ目	淡黄色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	黄灰色	◎	◎		◎				
146	甕	14.6	12.0				横方向のナデ	淡黄色	口縁部横方向のナデ 胴部工具によるナデ	淡黄色 褐灰色	◎	○			○			外面スス付着
147	甕	(13.6)	(10.4)				横方向のナデ	黒色	口縁部横ナデ 頸部指押さえ後ナデ 胴部削り後ナデ	淡褐色	◎	◎	○					外面黒斑あり、スス付着
148	甕	10.0					口縁部横ナデ 胴部縦ハケ目	にぶい橙褐色 暗褐色 黒色	口縁部横ナデ 胴部削り	にぶい橙褐色 暗褐色	◎	◎						外面黒斑あり
149	甕	(14.6)					口縁部横ナデ 胴部縦ハケ目	淡橙褐色 淡褐色 暗褐色	口縁部横ナデ 胴部削り	にぶい橙褐色 淡褐色 暗褐色	◎	◎						外面剥離が激しい
150	甕	(14.0)	(12.2)				口縁部横ナデ 胴部縦方向のハケ後横ナデ	にぶい黄橙 色 暗灰色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎	◎					外面黒斑あり

表7 遺物観察表(7)

押図 番号	器種	法量(cm)※()は復元径					外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	胎土 (◎:多い、○:含む、△:わずか)						備考
		口径	頸部	胴部	底部	器高					角閃石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その他	
151	甕	13.7	11.4	16.7			口縁部横ナデ 胴部縦ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部横ナデ 胴部削り後ナデ	淡褐色	◎	◎		○	◎		外面スス付着
152	壺	(17.2)					口縁上部斜めハケ後ヘラミガキ 口縁下部横ナデ	黄褐色	口縁上部斜めハケ目 口縁下部横ナデ	黄褐色	◎	◎		◎	◎		
153	壺	(18.4)					口縁部縦ハケ後縦のミガキ後 横ナデ	赤褐色	横方向のハケ後ヘラミガキ	浅黄褐色	○	○	○				外面黒斑あり
154	壺	(20.0)					口縁上部横方向のハケ目 口縁下部縦のハケ後横ナデ	暗灰黄褐色	口縁部横方向のハケ目	暗灰黄褐色	◎	◎			◎		外面スス付着 口唇部は面とり
155	壺	15.4		(24.8)			口唇部横ナデ 口縁部ハケ後ナデ 胴部斜めハケ目	橙褐色 にぶい橙褐色	口縁部ハケ後ナデ 頸部指圧痕 胴部削り	橙褐色	◎	◎		◎	◎		内外面黒斑あり
156	壺	(33.4)					縦方向のハケ目	浅黄褐色	横方向のハケ目	浅黄褐色	◎	◎		◎	◎		刻目突帯
157	壺	7.4					口唇部横ナデ 口縁部ハケ後ナデ 胴部ハケ後ナデ	にぶい橙褐色 淡橙褐色 灰白色	口縁部横ナデ一部斜めハケ目 胴部ナデ	にぶい橙褐色 淡橙褐色 暗褐色	◎	◎			◎		頸部貼付突帯
158	壺	11.6	9.8				口縁部横ナデ 胴部ナデ	にぶい黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎		◎	◎		
159	壺	(14.3)					口縁部横ナデ 胴部ナデ	黄褐色	口縁部横ナデ 胴部指圧痕	黄褐色	○	○			○		
160	壺	16.2					口縁部縦ハケ後横ナデ 胴部ハケ目後ナデ	暗褐色	口縁部横ハケ後横ナデ 胴部ヘラ削り	暗褐色	◎	◎		○	◎		内外面多少黒斑あり
161	壺	(15.8)					口縁部斜めハケ後ナデ 胴部斜めハケ目	淡黄褐色	口縁部ハケ後横ナデ	淡黄褐色	○	○			○		外面スス付着
162	壺	23.3					口縁部横ナデ	黄褐色	口縁部荒い斜めハケ後横ナデ	黄褐色	○	○			○		
163	壺	(12.4)					縦ハケ後横ナデ	淡褐色	横ハケ後横ナデ	淡褐色	○	◎					
164	壺	16.2					工具による横ナデ	淡茶褐色	工具による横ナデ	淡茶褐色	◎	○		○			外面薄い黒斑あり
165	壺	(16.7)	(12.0)				横方向のナデ	にぶい橙色	横方向のナデ	にぶい橙色	◎	◎		◎			
166	壺	(17.5)					口縁部横ナデ	淡褐色	口縁部横ナデ 下方にハケ目	淡褐色	◎	◎		○			
167	壺	16.4					横ナデ	橙褐色 暗褐色	口縁部 頸部削り	にぶい橙褐色 暗褐色	◎	◎					内外面黒斑あり
168	壺	(19.5)					口縁部横ナデ 頸部縦ハケ 肩部縦ハケ	黄褐色	口縁・頸部ナメハケ 胴部ヘラ削り	黄褐色	○	○	○		○		搬入土器?
169	壺	(10.4)					口縁部横ナデ 頸部斜めハケ目	淡橙褐色 淡褐色 暗褐色	口縁部横ハケ目 頸部不定方向のハケ後ナデ	淡橙褐色 橙褐色 暗褐色	◎	◎					
170	壺	(15.8) (21.2)					口唇部面取り 口縁部方向のミガキ後ナデ 頸部横ナデ	淡灰褐色	口縁部方向のミガキ後ナデ 頸部横ナデ	淡褐色	◎	◎		○	○		
171	壺	19.8					口縁上部横ナデ、一部ヘラミ ガキ 口縁下部斜めハケ後ナデ	暗灰褐色	口縁上部横ハケ後ナデ、指に よる削り 口縁下部横ハケ後ナデ	暗灰褐色	◎	◎		◎			内外面黒斑あり
172	壺	(22.0)	(13.6)				横方向のナデ	にぶい黄褐色	口縁部横方向のナデ 頸部ハケ目 胴部ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎		◎	◎		外面黒斑あり 貼付突帯
173	壺	(20.2)					口縁上部横ナデ 口縁下部ハケ目	にぶい黄褐色	口縁上部ハケ後ナデ 口縁下部横ハケ目	にぶい黄褐色	○	○					外面口縁にスス付着
174	壺	(20.4)					ハケ目後ナデ	にぶい褐色	横方向のナデ	にぶい褐色	◎			◎	◎		
175	壺	23.0	17.5				口縁部・頸部横方向のナデ	淡黄色	口縁部横方向のナデ 頸部横・斜め方向のハケ目	褐色	◎	○		△	○		外面黒斑あり

表8 遺物観察表(8)

挿図 番号	器種	法量(cm)※()は復元径					外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	胎土 (◎:多い, ○:含む, △:わずか)						備考
		口径	頸部	胴部	底部	器高					角閃石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その他	
176	壺	(23.7)	(18.2)				横方向のナデ	にぶい褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	にぶい褐色	◎	◎			◎		
177	壺	11.9	11.0				横方向のナデ	黒色	横方向のナデ	灰褐色	◎	○			○		外面黒斑あり
178	壺	(12.4)					各方向のハケ後横ナデ	暗褐色	口縁部横ナデ、ヘラ痕	暗褐色	○	◎					内面黒斑あり
179	高杯	15.3			12.0	11.5	坏部ヘラ削り後ヘラミガキ 脚部ナデ後ヘラミガキ 底部削り後ヘラミガキ	橙黄褐色	坏部ヘラ削り後ヘラミガキ 脚部ヘラミガキ 底部削り後ヘラミガキ	橙黄褐色	◎	◎					
180	高杯	17.4					ハケ後横ナデ	淡褐色 黒色	横ナデ	淡橙褐色	◎	◎			◎		外面黒斑あり 剥離が激しい
181	高杯	(18.3)	3.7				口縁部ハケ後横ナデ 坏胴部ハケ目	にぶい黄褐色	横方向のハケ	にぶい黄褐色	◎	◎					円盤充填
182	高杯	(17.4)					口縁部横ナデ、一部ハケ目	淡橙褐色	口縁部横ナデ、一部ハケ目	淡橙褐色 黒色	◎	◎			◎		内面黒斑あり
183	高杯	18.5					口縁部横・斜め方向のナデ	淡黄色	横方向のナデ・斜め方向のハケ目	淡黄色	◎	◎					
184	高杯	(17.8)					縦・斜めハケ後横ナデ	暗褐色	上部 横ナデ 中央 横方向のハケ目 下部 縦方向のヘラミガキ	暗褐色	◎	◎			◎	◎	内外面黒斑あり
185	高杯	17.8	4.4				坏上部横ナデ 坏下部ハケ後ナデ 脚部ハケ後ミガキ	にぶい橙色	坏部ナデ 脚部ヘラ削り	にぶい橙色	◎	◎			◎	○	坏部接合面打ち割り
186	高杯	18.5					坏上部斜めハケ後横ナデ 坏下部縦ハケ後横ナデ 脚部縦方向のハケ目	暗黄褐色	坏上部横方向のハケ目 坏下部剥離のため不明 脚部ヘラ削り	暗黄褐色	◎	◎					内外面黒斑あり 円盤充填
187	高杯	(19.4)					斜めハケ後横ナデ 一部ヘラミガキ	黄褐色	各方向のハケ後横ナデ	黄褐色	◎	◎			○		内外面黒斑あり
188	高杯	18.0	3.6		12.8	13.8	坏部ハケ後ナデ 脚部ミガキ	にぶい黄褐色	坏部ナデ 脚部ヘラ削り後ナデ	にぶい黄褐色	◎	◎			○		円盤充填
189	高杯	20.4	3.9		14.3	18.0	杯部斜めハケ 脚部ヘラ削り後ミガキ 脚底部横ナデ	黄褐色	杯部:ハケ後ヘラ削り 脚部ヘラ削り	黄褐色	○	○			○		外面底部に黒斑あり
190	高杯	(21.8)					口縁部斜め・横ハケ後ナデ 口縁部下部斜めハケ後ナデ	暗赤褐色	口縁部横方向のハケ目 坏底部ヘラミガキ	暗赤褐色	◎	◎					丹塗り
191	高杯	17.4					坏上部横ナデ 坏下部ミガキ	にぶい橙色	坏内ミガキ	にぶい褐色	◎	◎			◎	◎	内外面2次被熱 一部黒変
192	高杯	21.0			14.8		杯部タテ方向のハケ目 脚部ヘラミガキ 底部横方向のナデ	にぶい褐色	杯部ヨコ方向のナデ 脚部ヘラケズリ	にぶい褐色	◎	◎			○		
193	高杯	(13.7)					横方向のナデ	黄橙褐色	坏上部横ナデ 坏下部ヘラミガキ	黄橙褐色	○	○					接合部欠損
194	高杯	(17.3)	3.7				口縁部ハケ後横ナデ 坏胴部ハケ目	浅黄色	横方向のハケ後ナデ	浅黄色	◎	◎					丹塗り 円盤充填
195	高杯	(15.8)					口縁部上部ハケ後ナデ 口縁部下部ハケ目	暗黄褐色	ナデ後ヘラミガキ	暗黄褐色	○	◎					内外面黒斑あり
196	高杯	20.5					横・斜め方向のハケ目	淡黄色	縦・斜め方向のハケ目	淡黄色 灰色	◎	○			○		内面黒斑あり
197	高杯	(24.8)					口唇部横ナデ 坏部横方向のハケ目	にぶい黄褐色	横方向のハケ目	灰赤色	○	○			○		内面赤色顔料の痕跡
198	高杯				11.4		横ナデ	にぶい黄褐色	ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎			◎	◎	外面黒斑あり
199	高杯				(12.0)		横ナデ	明褐灰色	削り	明褐灰色	○	○			○		
200	高杯				9.8		ヘラミガキ	にぶい黄褐色	ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎			◎	◎	外面黒斑あり

表9 遺物観察表(9)

挿図 番号	器種	法量(cm)※()は復元径					外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	胎土 (◎:多い、○:含む、△:わずか)						備考
		口径	頸部	胴部	底部	器高					角閃石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その他	
201	高杯				11.4		脚部ナデ	明赤褐色	ナデ 絞り痕	明赤褐色	◎	◎			◎		
202	高杯				12.2		ハケ目後ナデ	灰黄褐色	ヘラ削り	灰黄褐色	◎	◎			◎		外面スス附着
203	高杯				(12.2)		ヘラによるナデ	にぶい黄褐色	ヘラ削り後一部ナデ	にぶい黄褐色	◎	◎		○	○		内面黒斑あり
204	高杯				(10.4)		脚部ミガキ	にぶい褐色	ヘラ削り	にぶい褐色	◎	◎		◎	◎		
205	高杯		4.4		14.8		脚部斜めハケ後ナデ消し	浅黄褐色	脚部ヘラ削り	にぶい黄褐色		○		○	◎		外面黒変あり 内面赤変あり 円盤充填
206	高杯		3.6		12.7		脚部ヘラミガキ後ナデ 底部横ナデ	淡褐色	脚部横方向の削り 底部ナデ	淡褐色	◎	◎			◎		外面黒斑あり 底部打ち欠き
207	高杯				13.2		脚部ヘラミガキ 脚底部ハケ後ナデ	橙色	脚部ヘラミガキ 脚底部ハケ後ナデ	橙色	◎	◎			◎		
208	鉢	13.6					口縁部横ナデ 胴部斜めハケ目	にぶい褐色	口縁部横ハケ目 胴部ナデ	にぶい黄褐色	◎	◎			○		外面2次加熱・スス附着
209	鉢	15.1	13.7				口縁部横方向のナデ 胴部工具によるナデ	黒色	口縁・胴部横方向のナデ	淡黄色 灰色	◎	◎			○		
210	鉢	13.0		12.4			口縁部斜めハケ目 胴部縦・斜めハケ目 底部ナデ	にぶい橙褐色 淡橙褐色 黒色	口縁部横ハケ目 胴部ヘラ削り	淡褐色 暗褐色 灰色	◎	◎			◎		外面スス附着
211	鉢	(14.0)					口縁部横ナデ 胴部縦ハケ目	淡黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	淡黄褐色	○	○	○				
212	鉢	(11.6)		12.0		12.9	口縁部横ナデ 胴部縦・斜めハケ目	暗褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	暗褐色	◎	◎			○		
213	鉢	13.8					口縁部横ナデ 胴部横ハケ目	灰黄褐色	口縁部ハケ目 胴部ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎			◎		
214	鉢	13.4		(13.2)		13.2	口縁部横ナデ 胴部2次被熱により不明	赤褐色	口縁部横ナデ 胴部削り後ナデ	淡褐色	◎	◎	○		○		外面スス附着、一部赤変
215	鉢	(14.8)	(12.6)	16.2			口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	灰褐色 黒褐色	口縁部横ナデ 胴部指による成形	灰褐色 黒褐色	◎	◎			◎		外面スス附着 内面黒変
216	壺	(9.4)		(11.2)		(5.9)	口縁部横ナデ後斜めハケ目 タテ方向のハケ目後ヨコミガキ 後工具ナデ	淡黄褐色	口縁部横ナデ 頸部指圧痕 胴部不定方向のナデ	淡黄褐色	○	○			○		
217	壺	(10.8)	(8.0)			5.7	口縁部横ナデ 胴部ミガキ 底部ヘラ削り後ナデ	にぶい黄褐色	口縁部ハケ目 胴部ナデ	にぶい黄褐色	◎	◎					外面黒斑あり
218	壺	8.0	6.0	8.7		8.4	口縁部斜めハケ後ナデ 胴部斜めハケ後ナデ	淡褐色	口縁部横ナデ 胴部削り後ナデ、指による成形	淡褐色	◎	◎			○		口縁部・胴部打ち欠き
219	壺	(8.6)	6.7	9.0		9.1	ハケ後ナデ	淡褐色 暗褐色	口縁部横ナデ 頸部付近ハケ後ナデ 胴部指による成形	淡褐色 暗褐色	◎	◎	○	○	○		外面黒斑あり 胴部に打ち欠き(貫通して いない)
220	壺	8.0	6.7	9.5		9.7	口縁部ハケ後横ナデ 胴部ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部ハケ後横ナデ 胴部指による成形	淡褐色	◎	◎			○		内外面黒斑あり 口縁部打ち欠きらしき跡
221	壺	10.0	7.4	7.8			口縁部横ナデ 口縁部縦ハケ目 胴部削り後ナデ	にぶい橙色	口縁部横ナデ 胴部工具によるナデ	にぶい橙色	◎	◎			◎	◎	
222	壺	(7.9)		9.4		9.3	口縁部横ナデ 胴部横方向のヘラ削り	橙褐色 暗褐色	口縁部横ナデ 胴部横方向のヘラ削り一部ナ デ	橙褐色 暗褐色	◎	◎			◎		内外面黒斑あり
223	壺	(10.4)	8.4	10.0			口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部横ナデ 胴部指による成形	淡褐色	◎	◎			○		外面黒斑あり
224	壺	9.0				11.0	口縁部削り後横ナデ ヘラズリ、ナデ、タテハケ	褐色	口縁部ハケ後横ナデ 胴部工具によるナデ	暗褐色	◎	◎	○		○		
225	壺	(8.4)					口縁部縦ハケ後横ナデ 胴部縦方向のハケ目	淡灰黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ナデ、指圧痕あり	淡灰黄褐色	◎	◎			◎		外面黒斑あり

表10 遺物観察表(10)

挿図 番号	器種	法量(cm)※()は復元径					外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	胎土 (◎:多い、○:含む、△:わずか)						備考
		口径	頸部	胴部	底部	器高					角閃石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その他	
226	壺	(8.8)				10.1	口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	淡黄褐色 灰色	口縁部横ナデ 胴部指による成形	淡黄褐色 灰色 橙褐色	◎	◎			◎		内外面黒斑あり
227	壺	8.3				9.5	横ナデ	茶褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	茶褐色	◎	◎		◎	◎		
228	壺	8.6	6.8	9.6		11.4	口縁部縦ハケ後横ナデ 頸部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部横ナデ 頸部削り後ナデ 胴部指による成形	淡褐色	◎	◎		○			外面黒斑あり 胴部打ち欠き(貫通してい ない)
229	壺	9.5				11.5	口縁部削り後ナデ後縦ヘラミ ガキ 胴部斜めハケ後ナデ	淡黄褐色	口縁部ナデ後斜めハケ 胴部ナデ	淡黄褐色	◎	◎			◎		外面口縁部に黒斑あり
230	壺	9.8	6.4	9.3		10.3	口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部横ナデ 胴部指による成形	淡褐色	◎	◎					外面黒斑あり 胴部打ち欠き(貫通してい ない)
231	壺	(9.6)	7.0	10.9		11.9	口縁部横ナデ 頸部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	淡褐色 橙褐色	口縁部横ナデ 胴部上半指による成形 胴部下半削り	淡褐色 橙褐色	◎	◎			○		外面スス付着、赤変 跡
232	壺	(10.2)	7.7	11.1		12.0	口縁部ハケ後横ナデ 胴部ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部横ナデ 胴部ケズリ後ナデ 底部指による成形	淡褐色	◎	◎			○		口縁部打ち欠きらしき
233	壺	(10.4)	8.0	10.9		9.9	口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	暗褐色 黒褐色	口縁部横ナデ 胴部上半指による成形 胴部下半削り後ナデ	暗褐色 黒褐色	◎	◎	○		○		内外面黒斑あり
234	壺	(7.4)	(7.0)				口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	にぶい黄褐色	口縁部横ナデ 胴部指による成形	にぶい黄褐色	○	○					脚付き スス付着
235	壺	8.4				9.7	口縁部ナデ 胴部縦ハケ後ナデ	淡茶褐色	口縁部ナデ 胴部工具によるナデ	淡茶褐色	◎	◎			○		外面黒斑あり
236	壺	8.6		9.4			口縁部横ミガキ 胴部横方向の弱いミガキ	淡褐色 橙褐色	口縁部横ナデ 胴部指による成形	淡褐色	○	○		○			
237	壺	9.8	5.7	9.1		11.8	口縁・頸部横ナデ 胴部工具ナデ	茶褐色	口縁・頸部横ナデ 胴部上半指による成形 胴部下半削り後ナデ	茶褐色	◎	◎	○	○	◎		
238	壺	8.5					口縁部横ナデ 胴部縦・横ハケ	淡茶褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り後ナデ	淡茶褐色	◎	◎		○			外面黒斑あり
239	壺	(9.2)		(9.0)			口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	淡橙褐色 淡褐色	口縁部横ナデ 胴部指削り後ナデ	淡橙褐色 淡褐色	◎	◎		○			
240	壺	(12.6)					口縁部横ナデ 胴部ナデ	黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り、指圧痕あり	黄褐色	◎	◎					
241	壺	(8.8)		(9.0)			口縁部横ナデ 胴部斜めハケ後ナデ	にぶい橙褐色 淡黄褐色 暗褐色	口縁部横ナデ 胴部指削り後ナデ	にぶい橙褐色 淡黄褐色 暗褐色	◎	◎			◎		
242	壺	(8.0)		7.7		7.6	口縁部横ナデ 胴部不定方向のハケ目	淡黄褐色 灰色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	淡黄褐色 灰色	◎	◎			◎		内外面黒斑あり
243	壺	(7.4)		(8.1)			口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	淡褐色 暗褐色 暗灰色	口縁部横ナデ 胴部指削り後ナデ	淡褐色 暗褐色 暗灰色	◎	◎			◎		
244	壺	(7.2)		(8.6)			口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	淡黄褐色 暗褐色 暗灰色	口縁部横ナデ 胴部指削り後ナデ	暗褐色	◎	◎					
245	壺	(6.4)		8.2		7.4	口縁部横ナデ 胴部斜めハケ目	暗褐色 にぶい橙褐色 暗灰色	口縁部横ナデ 胴部指削り後ナデ	暗褐色 にぶい橙褐色 暗灰色	◎	◎			◎		内外面黒斑あり
246	壺	(7.0)		(10.6)		7.9	口縁部横ナデ 胴部斜めハケ後ナデ	にぶい橙褐色	口縁部横ナデ 胴部指削り後ナデ	淡褐色	◎	◎			◎		
247	壺	(10.0)				8.7	口縁部縦ハケ後横ナデ 胴部ハケ目	黄褐色	口縁部横ナデ 胴部指削り後ナデ	黄褐色	◎	◎					外面スス付着 内面黒斑あり
248	壺	(6.4)		(9.6)		9.7	口縁部横ナデ 胴部ナデ、一部布目痕	黒色 灰色	口縁部横ナデ 胴部指削り後ナデ	淡橙褐色 暗褐色	◎	◎			◎		外面スス付着
249	壺	8.8	7.1	9.7		9.4	口縁部横ナデ 胴部ヘラ状工具ナデ	淡褐色	口縁部横ナデ 胴部指による成形 底部削り後ナデ	淡褐色	◎	◎	○		◎		外面黒斑あり 口縁部打ち欠きらしき跡
250	壺	(12.0)	8.9		3.8	15.9	口縁部丁寧なナデ 胴部工具ナデ後ナデ	淡黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り後ナデ	淡黄褐色	○	○			○		外面黒斑あり

表11 遺物観察表(11)

挿図 番号	器種	法量(cm)※()は復元径					外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	胎土 (◎:多い, ○:含む, △:わずか)						備考
		口径	頸部	胴部	底部	器高					角閃石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その他	
251	壺	(12.4)	(9.6)	(13.8)			口縁部縦ハケ後ナデ 胴部上半縦ハケ後ナデ 胴部下半2次被熱による剥離	黒褐色 灰褐色	口縁部横ハケ後ナデ 胴部上半指調整後ナデ 胴部下半削り後ナデ	灰褐色	◎	◎		○	○		外面スス付着、2次被熱
252	壺	(12.2)					口縁部縦ハケ後横ナデ 胴部ナデ	淡褐色	口縁部横ハケ後横ナデ 胴部ヘラ削り	淡褐色	◎	◎					内外面黒斑あり
253	器台	7.9					一部横方向のハケ後ナデ	灰褐色	ナデ	暗灰褐色	◎	◎			○		円盤充填か?
254	器台	10.0	4.4		(13.0)	7.9	口縁部横ナデ 受け部ハケ後横ナデ 脚部縦ハケ後ミガキ	淡褐色	受け部ナデ 脚部横ハケ後ナデ	淡褐色	◎	◎	○		○		穿孔3箇所
255	器台					12.2	ヘラミガキ	にぶい黄褐色	工具ナデ、ヘラミガキ	にぶい黄褐色	◎	◎		◎	◎		穿孔3箇所
256	器台		3.2			11.5	脚上部斜め方向のハケ目 脚下部横方向のナデ	にぶい橙色	横方向のナデ	にぶい橙色	◎	○					
257	碗	(7.3)			(3.0)	4.0	指によるナデ 指圧痕有り	暗灰色	指によるナデ 指圧痕有り	暗灰色	○	○					内外面黒斑あり
258	碗	(8.2)				5.5	口縁部ナデ 胴部ナデ	淡褐色 黄褐色	口縁部ナデ 胴部不定方向のナデ	淡褐色 黄褐色	◎	◎			○		外面底部に黒斑あり
259	碗	(8.5)				6.1	ケズリ後ナデ	暗褐色	工具によるナデ	暗褐色	◎	◎			◎		外面黒斑あり
260	碗	12.0					口縁部横ナデ 胴部削り後ミガキ	橙褐色 暗灰色 灰色	口縁部横ナデ 胴部ミガキ	橙褐色 暗灰色 灰色	◎	◎					内外に黒斑あり
261	碗	9.5			5.5	5.1	口縁部横ナデ 胴部削り後ナデ 底部ヘラケズリ	暗褐色	口縁部横ナデ 胴部ハケ状工具によるナデ 底部指ナデ	暗褐色	◎	◎			◎		外面黒斑あり
262	碗	(10.3)					口縁部横ナデ 胴部不定方向のヘラナデ	明黄褐色	口縁部横ナデ 胴部横ハケ後ナデ	明黄褐色	○		○				外面黒斑あり
263	碗	(10.0)					口縁部横ナデ 胴部縦ハケ	にぶい橙褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	にぶい橙褐色	◎	◎			◎		
264	碗	(9.4)				4.4	口縁部横ナデ 胴部指によるナデ、指圧痕あり	暗褐色	横方向のハケ目	暗褐色	○	○					外面黒斑あり
265	碗	8.7				4.4	指ナデ	にぶい橙褐色 にぶい黄褐色	指削り	にぶい橙褐色 にぶい黄褐色	◎	◎			◎		底部に至み
266	碗	(10.6)			(4.3)	5.5	摩滅により不明	にぶい黄褐色	ヘラミガキ	にぶい黄褐色	○	○					内面スス付着
267	碗	(11.0)				9.0	口縁部斜め方向のハケ目 体部縦方向のハケ目	にぶい橙色	丁寧なナデ	にぶい橙色	◎			○	◎	金雲母	内外面黒斑あり
268	甗	(13.8)	(12.1)	(14.6)			口縁部指ナデ 胴部ハケ目後ナデ	にぶい黄褐色	口縁部ハケ目 頸部付近指圧痕 胴部ヘラ削り	褐色	◎	◎			◎		外面黒斑あり
269	甗	(17.5)					口唇部横ナデ 口縁部ハケ後ナデ 胴部ナデ及びハケ目	明褐色	口縁部ハケ後ナデ 胴部ヘラ削り	明褐色	○	○					
270	甗	18.0			26.0		口縁部横ナデ 胴部縦ハケ後ナデ	明褐色	口縁部横ナデ 頸部付近指圧痕 胴部ヘラ削り	灰白色	◎	◎		○	◎		外面次加熱、スス付着
271	甗	16.2			(26.1)		口唇部横ナデ 口縁部斜めハケ目 胴部縦・斜めハケ目	にぶい橙褐色 暗褐色	口縁部横・斜めハケ目 頸部斜めハケ後削り 胴部削り	橙褐色 暗褐色	◎	◎			◎		内外に黒斑あり
272	甗	(17.4)	(13.4)				口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	にぶい黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎	◎	◎	◎		
273	甗	(13.2)	(11.0)	(16.0)			口縁部横ナデ 胴部不定方向のハケ後ナデ	黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	黄褐色	◎	◎		◎	◎		外面スス付着
274	甗	14.4	(12.6)	(22.3)			口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	明褐色	口縁部横ナデ 胴部ヘラ削り	明褐色	◎	◎		◎	◎		外面黒斑あり、スス付着
275	甗	13.2			21.2		口縁部横ナデ 口縁部縦ハケ後横ナデ 胴部縦・斜め方向のハケ目	暗褐色	口縁部横方向のハケ目 胴部ヘラ削り	暗褐色	◎	◎					内外面スス付着

表12 遺物観察表(12)

挿図 番号	器種	法量(cm)※()は復元径					外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	胎土 (◎:多い、○:含む、△:わずか)						備考
		口径	頸部	胴部	底部	器高					角閃石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その他	
276	甕	14.5		(20.7)			口縁部横ナデ 胸部不定方向のハケ目	淡褐色 黒色 暗灰色	口縁部横ナデ 頸部指圧痕 胸部ヘラ削り	淡褐色 黒色暗灰色 暗褐色	◎	◎			◎		内外面黒斑あり
277	甕	11.8					口縁部横ナデ 胸部不定方向のハケ後ナデ	にぶい黄褐色	口縁部横ナデ 胸部ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎			◎		2次被熱、黒変
278	甕	(13.6)	(12.4)				ハケ後ナデ	黄褐色	口縁部横ナデ 胸部ヘラ削り	褐色	◎	◎					外面黒斑あり
279	甕	10.6		12.2			口縁部横ナデ 胸部ハケ後ナデ	にぶい黄褐色	口縁部横ナデ 胸部ヘラ削り	にぶい黄褐色	◎	◎		◎	◎		外面2次加熱、スス附着
280	甕	(15.6)	(13.0)	(16.6)			口縁部ハケ後ナデ 胸部縦ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部斜めハケ後横ナデ 胸部削り後ナデ	淡褐色	◎	◎			○		外面スス附着、2次被熱
281	甕	15.4					口縁部ハケ後横ナデ 胸部ナメハケ目	黄褐色	口縁部ハケ後横ナデ 胸部ヘラ削り	黄褐色	◎	◎			◎		外面スス附着
282	甕	18.0	15.2				斜め方向のハケ目	灰褐色	口縁部横方向のナデ 胸部ヘラ削り	灰褐色	◎	◎			○		外面スス附着
283	甕	(15.8)	(14.0)				口縁部横ナデ 胸部ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部横コハケ後ナデ 胸部削り後ナデ	淡褐色	◎	◎			○		外面スス附着、2次被熱 口縁部に打ち欠き
284	甕	(15.0)	(13.0)	(23.0)			ハケ後ナデ	黄褐色	口縁部横ナデ 胸部ヘラ削り	黄褐色	◎				◎		外面スス附着
285	甕	(15.6)					口縁部横ナデ 胸部縦・斜め方向のハケ目	淡黄褐色	口縁部横ナデ 胸部ヘラ削り	淡黄褐色	○	◎					
286	甕	(20.0)	(16.0)	(30.0)			口縁部横ナデ 胸部ハケ後ナデ	淡褐色	口縁部横ナデ 胸部削り後ナデ	淡褐色	◎	◎	○		○		外面スス附着 2次被熱
287	高杯	20.5			13.6	15.3	杯部ハケ後ナデ 脚部丁寧ナデ	橙褐色 暗褐色	杯部横ナデ 脚部削り	淡黄褐色 暗褐色	◎	◎		○	○		
288	高杯	18.4			14.1	11.1	口縁部縦ハケ後横ナデ 脚部ヘラミガキ後ナデ	黄褐色	口縁部ハケ後ナデ 脚部ヘラ削り、絞り痕あり	黄褐色	◎	◎	○	◎	◎		
289	高杯	14.9			9.5	13.5	杯部横ナデ 脚部ナデ	橙色	杯部横ナデ 脚部ヘラ削り	橙色	◎	◎		◎	◎		外面黒斑あり
290	高杯	14.7			12.0	11.0	杯部斜めハケ後横ナデ 脚部ナデ	暗褐色	杯部横ハケナデ 脚部:ケズリ後ナデ	暗褐色	◎	◎					脚部、杯部内面に黒斑あり
291	高杯	15.6			12.0	12.5	口縁部削り後ナデ 杯底部ナデ 脚部横ナデ	淡褐色	口縁部削り後ナデ 杯底部ミガキ後ナデ 脚部削り後ナデ	淡褐色	◎	◎	○	○	◎		
292	高杯	15.7			13.3	13.2	杯部ナデ後ミガキ 脚部ミガキ後ナデ	淡褐色	杯部ミガキ後ナデ 脚部ヘラ削り	淡褐色	◎	◎	○		○		外面脚部に黒斑あり 円盤充填
293	高杯	18.0					杯部縦ハケ後ナデ 脚部横ナデ	暗褐色	杯部口縁横ナデ 杯部底部ヘラミガキ 脚部ナデ	暗褐色	◎	◎					口縁部内外に黒斑あり
294	高杯	21.2					二次焼成により不明	茶褐色	横方向のナデ	茶褐色	◎	◎		△			外面2次被熱
295	高杯	13.8					横方向のナデ	にぶい黄褐色	横方向のナデ	にぶい黄褐色	◎	◎			○		外面黒斑あり
296	高杯				12.0		杯部横方向のナデ 脚部ナデ及びハケ目	淡黄色	杯部ナデ 脚部横方向のナデ	淡黄色	◎	○			△		杯部内面に黒斑あり
297	高杯				11.0		脚部ハケ目 脚底部横ナデ	にぶい黄褐色	脚部ヘラ削り 脚底部横ナデ	にぶい黄褐色	◎	◎		◎	◎		円盤充填
298	高杯	17.8					ハケ後ナデ	淡褐色	ハケ後ナデ	淡褐色	◎	◎			○		外面黒斑あり 円盤充填
299	高杯						縦方向のハケ後横ナデ	淡茶褐色	縦方向のハケ後横ナデ	淡茶褐色	◎	◎			○		
300	高杯				13.6		接合部縦タテ目 脚部ナデ	にぶい橙色	ヘラ削り後一部ナデ	にぶい橙色	◎	◎		◎	◎		外面黒斑あり

表13 遺物観察表(13)

挿図 番号	器種	法量(cm)※()は復元径					外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	胎土 (◎:多い、○:含む、△:わずか)						備考	
		口径	頸部	胴部	底部	器高					角閃石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その他		
301	高杯		3.4		12.2		脚部ナデ	浅黄橙色	ヘラ削り	にぶい黄橙色	◎	◎		◎				
302	高杯		3.8		11.6		脚部斜めハケ目		ヘラ削り		◎	◎		○	◎			円盤充填
303	高杯				16.4		横方向のナデ	淡橙色	ヘラ削り後ナデ	淡橙色	◎	○						
304	壺	6.4	5.4	11.9		11.9	口縁～頸部横ナデ 胴部ハケ目	にぶい黄橙色	口縁～頸部横ナデ 胴部ヘラ削り後ナデ	にぶい黄橙色	◎	◎		○	○			外面:黒斑あり、胴部打ち 欠き
305	壺	(10.2)	(8.4)	(16.0)			口縁～頸部横ナデ 胴部ハケ目後ナデ	にぶい黄橙色	口縁～頸部横ナデ 胴部ヘラ削り後ナデ	にぶい黄橙色	○	○		○	○			外面:黒斑あり
306	鉢	(11.4)		10.2		10.8	口縁部指圧後ナデ 胴部ハケ後ナデ、指圧痕有り	淡黄茶色 明褐色	口縁部指圧後ナデ 胴部削り後ナデ	淡黄茶色 明褐色	○	○			○			内面:黒斑あり、炭化物 付着
307	碗	(9.0)			(4.1)	3.5	指による成形 指圧痕有り	にぶい黄橙色	指による成形 指圧痕有り	にぶい黄橙色	○	○						内外面スス付着
308	碗	(13.4)				3.5	口縁部横ハケ後ナデ 底部ナデ	淡黄色	ナデ調整	淡黄色	◎	◎			◎			
309	碗	(14.4)				4.2	ハケ調整後ミガキ後ナデ	暗灰色	ハケ調整後ミガキ後ナデ	褐灰色	○	○						スス付着
310	碗	13.4				6.7	口縁部横ナデ 胴部ナデ	淡褐色 暗褐色	口縁部横ナデ 胴部ナデ	暗褐色	◎	◎		○				外面黒斑あり
311	碗	(15.3)					口縁部横ナデ 胴部下半ナデ	黒褐色	口縁部横ナデ 胴部ナデ	黒褐色 黒色	◎	◎			○			内面黒斑あり
312	碗						口縁部横ナデ 胴部ナデ 底部ヘラ削り	灰黄褐色	口縁部横ナデ 胴部ナデ後ミガキ	灰黄褐色	◎	◎			○			
313	碗	(14.2)				5.5	口縁部横ナデ 胴部ハケ後ナデ	橙色 淡黄橙色	口縁部横ナデ 胴部ナデ後ミガキ	橙色 淡黄橙色	◎	◎		◎	◎			
314	ミニチュア 土器	2.3				1.0	指による成形	淡黄色	指による成形	淡黄色	◎	◎		○				
315	ミニチュア 土器	3.4				1.1	指による成形 指圧痕有り	茶褐色	指による成形	茶褐色	○	○						
316	ミニチュア 土器	1.7				1.6	指による成形 指圧痕有り	褐色	指による成形	褐色		○						
317	ミニチュア 土器	3.5				1.9	指による成形 指圧痕有り	暗灰黄褐色	指による成形 指圧痕有り	暗灰黄褐色	○	◎			○			外面黒斑あり
318	ミニチュア 土器	3.3				1.3	指による成形 指圧痕有り	黒褐色	指による成形 指圧痕有り	黒褐色		◎	○					
319	ミニチュア 土器	4.4				1.9	指による成形	暗褐色	指による成形	暗褐色		○			◎			
320	ミニチュア 土器	4.6				1.9	指による成形 指圧痕有り	灰黄色	指による成形 指圧痕有り	にぶい黄橙色	◎				◎			外面2次加熱、スス付着
321	ミニチュア 土器	4.6				2.2	指による成形 指圧痕有り	黄褐色	指による成形 指圧痕有り	黄褐色	◎	○						外面底部に黒斑あり
322	ミニチュア 土器	4.1				1.9	指による成形 指圧痕有り	暗褐色	指による成形 指圧痕有り	暗褐色		◎		○				
323	ミニチュア 土器	3.1			1.0	2.5	指による成形 指圧痕有り	にぶい黄橙色	指による成形 指圧痕有り	にぶい黄橙色	○	○						
324	ミニチュア 土器	3.3				2.3	指による成形 指圧痕有り	淡褐色	指による成形	淡褐色	◎	◎						
325	ミニチュア 土器	3.4			1.2	2.2	指による成形 指圧痕有り	にぶい赤褐色	指による成形 指圧痕有り	にぶい赤褐色	○	○						

表14 遺物観察表(14)

挿図 番号	器種	法量(cm)※()は復元径					外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	胎土 (◎:多い、○:含む、△:わずか)						備考
		口径	頸部	胴部	底部	器高					角閃石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その他	
326	ミニチュア 土器	(4.0)				2.4	指による成形 指圧痕有り	にぶい橙褐色 暗褐色 黒色	指による成形 指圧痕有り	にぶい橙褐色	◎	◎		◎	◎		外面黒斑あり
327	ミニチュア 土器	3.9				3.2	指による成形 指圧痕有り	暗茶褐色	指による成形 指圧痕有り	暗茶褐色	○	◎		○	◎		
328	ミニチュア 土器	2.3				2.7	指による成形 指圧痕有り	暗褐色	指による成形 指圧痕有り	暗褐色	◎	◎			○		外面黒斑あり
329	ミニチュア 土器	4.0				3.1	指による成形 指圧痕有り	茶褐色	工具による横ナデ	茶褐色	◎	○					外面の半分が黒斑
330	ミニチュア 土器	(3.8)		(4.5)		(2.9)	指による成形 指圧痕有り	暗灰色	指による成形 指圧痕有り	浅黄色	○	○			○		一部スス附着
331	ミニチュア 土器	(2.6)				3.1	指による成形	淡褐色	指による成形	淡褐色	○	○					
332	ミニチュア 土器	(3.5)				3.9	指による成形 指圧痕有り	灰黄褐色	指による成形 指圧痕有り	灰黄褐色	○	◎		○			外面黒斑あり
333	ミニチュア 土器	(4.0)					指による成形 指圧痕有り	暗灰色 黒色	指による成形 指圧痕有り	暗灰色 黒色	◎	◎			◎		内外面黒斑あり
334	ミニチュア 土器	(5.0)				(2.4)	指による成形	暗灰色	指による成形 指圧痕有り	暗灰色	◎				◎		
335	ミニチュア 土器	6.8				3.2	指による成形、指圧痕有り ハケ後ナデ	暗褐色	指による成形 ハケ目調整	暗褐色	◎	◎		○	○		
336	ミニチュア 土器	4.5				3.5	指による成形 指圧痕有り	暗褐色	指による成形 ナデ調整	暗褐色	◎	◎					
337	ミニチュア 土器	(4.4)				2.4	指による成形 指圧痕有り	灰黄褐色	指による成形 指圧痕有り	灰黄褐色	◎	○					
338	ミニチュア 土器	(6.6)				2.6	指による成形 指圧痕有り	黄褐色 淡褐色	指による成形 指圧痕有り	橙褐色 淡褐色	◎	◎			◎		
339	ミニチュア 土器	(7.2)				3.0	指による成形 指圧痕有り	にぶい黄褐色	指による成形 指圧痕有り	にぶい黄褐色	○	○	○				スス附着
340	ミニチュア 土器	(6.6)				4.2	指による成形 指圧痕有り	暗褐色	指による成形 指圧痕有り	暗褐色		◎					
341	ミニチュア 土器	8.3				4.6	指による成形 指圧痕有り	暗褐色	指によるナデ成形	暗褐色	◎	◎	○		◎		
342	ミニチュア 土器	6.6				3.4	指による成形 指圧痕有り	淡褐色 灰色	指による成形 指圧痕有り	淡褐色 灰色	◎	◎			◎		内外面黒斑あり
343	ミニチュア 土器	(7.3)			(2.0)		指による成形 指圧痕有り	灰黄褐色	指による成形 指圧痕有り	灰黄褐色	◎	◎					
344	ミニチュア 土器	7.6			3.6	4.9	指による成形 指圧痕有り 底部へラ条工具痕あり	淡褐色 暗灰色	指による成形 指圧痕有り	淡褐色 暗褐色	○	○			○		内外面黒斑あり
345	ミニチュア 土器	9.0				4.2	指による成形 指圧痕有り	にぶい橙褐色 淡褐色 黒色暗灰色 暗褐色	指による成形 指圧痕有り ハケ後ナデ	暗褐色	◎	◎			◎		
346	ミニチュア 土器	8.8					指による成形 指圧痕有り	にぶい黄褐色	指による成形 指圧痕有り	にぶい黄褐色	○			○	○		口縁～胴部赤変
347	ミニチュア 土器	10.7				4.3	指による成形 指圧痕有り	暗褐色 灰色	指による成形(削り) 指圧痕有り	暗褐色 灰色	◎	◎			◎		内外面黒斑あり
348	ミニチュア 土器	(4.3)	(4.3)				指による成形 指圧痕有り	茶褐色	指による成形 指圧痕有り	茶褐色	○	○			○		
349	ミニチュア 土器		3.8	5.4	1.7		指による成形 指圧痕有り	浅黄色	指による成形 指圧痕有り	暗灰色	◎	◎					外面斑あり
350	ミニチュア 土器		3.7	4.1			指による成形	にぶい黄褐色	指による成形	にぶい黄褐色	◎	◎		○	○		内外面黒斑あり

表15 遺物観察表(15)

挿図 番号	器種	法量(cm)※()は復元径					外面の文様・調整	外面色調	内面の文様・調整	内面色調	胎土 (◎:多い、○:含む、△:わずか)						備考
		口径	頸部	胴部	底部	器高					角閃石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その他	
351	ミニチュア 土器	(4.1)		(5.1)		6.2	指による成形 指圧痕有り 削り後ナデ	淡褐色 灰色	指による成形 指圧痕有り	淡褐色 灰色	◎	◎			◎		内外面黒斑あり
352	ミニチュア 土器	(5.2)				5.8	指による成形 指圧痕有り	淡黄褐色	指による成形	淡黄褐色	◎	◎		◎			外面黒斑あり
353	ミニチュア 土器	2.3			2.5	3.1	ナデ、指圧痕	淡黄色	ナデ	淡黄色	○						
354	ミニチュア 土器				(3.2)		ナデ、指圧痕	黒灰色	ナデ	黒灰色	○				○		
355	ミニチュア 土器				(2.8)		ナデ	淡黄色	ナデ	淡黄色	○						
356	甌						指押さえ後ナデ	暗灰色			◎	◎					
357	須恵器 高杯	(18.2)	(6.5)		(12.2)	13.1	坏部中央に楕形波状文 坏底部回転へら削り 回転横ナデ	暗灰色	坏部ナデ 脚部回転横ナデ	暗灰色							脚部に透し4箇所 自然釉
358	須恵器 甕	20.2	16.5				口縁部横方向のナデ タタキ痕	灰色	口縁部横方向のナデ 胴部当て具後ナデ消し	灰色					○		口縁にゆがみあり
359	須恵器 壺	18.8	14.9				口縁部クロコナデ カキ目6条の櫛描文 約4cm×3cmの長方形工具に よるタタキ後ナデ消し	淡灰色	クロコナデ	淡灰色	○				○		外面の口縁～肩部にか けて自然釉 底部の切り離し?

表16 木製品計測表

挿図 番号	器種	法量※()は復元径			文様・調整	備考
		縦 (cm)	横 (cm)	厚さ(cm)		
401	網籃	15.9 (現状)	18.1 (現状)			縦方向は2本の組み合わせ 横方向は1本
402	三つ又鋏	25.6 (現状)	10.3 (現状)	1.9		
403	鋏	25.8	14.4	1.0		
404	木製品	14.5 (現状)	12.5	0.7		ほぞ穴2あり
405	木製品皿	14.0 (現状)	13.2	0.7		
406	杵	28.0 (現状)	3.1	3.4		
407	杭	20.3 (現状)	4.7 (現状)	4.2 (現状)		表面剥離、焼け跡あり
408	杭	22.3 (現状)	4.1	4.2		焼け跡あり
409	杭	10.2 (現状)	3.4 (現状)	2.2 (現状)		腐食?により空洞
410	杭	15.2 (現状)	4.6 (現状)	4 (現状)		腐食?により空洞
411	杭	28.5 (現状)	4.5	4.5		
412	杭	44.2 (現状)	4.4 (現状)	3.8 (現状)		先端部が焼けている
413	杭	44.5 (現状)	5.5	5.0		炭化している箇所あり
414	木製品	9.9 (現状)	3.1	1.5		
415	杭	31.9 (現状)	2.3	1.4		
416	箬状木製品	39.2 (現状)	1.6	1.6		
417	木製品	97.7 (現状)	11.2 (現状)	8.0		

表17 石製品計測表

挿図 番号	器種	法量※()は復元径				材質	備考
		縦 (cm)	横 (cm)	厚さ(cm)	重さ (g)		
501	石鏃	1.2	1.2	0.2	0.3	姫路産黒曜石	
502	石鏃	2.3	1.6	0.5	1.0	姫路産黒曜石	
503	石鏃	2.5	1.5	0.4	1.1	姫路産黒曜石	
504	磨製石斧	6.0	2.9	0.9	17.8	蛇紋岩	
505	磨製石斧	6.8	6.3	2.4	120.8	蛇紋岩	
506	磨製石斧	17.6	6.4	3.3	540.6	蛇紋岩	
507	石包丁	4.2	7.8	1.0	28.6		
508	砥石	13.0	3.6	1.9	81.1		金属刃先らしき痕跡あり
509	原石	7.9	6.5	5.6	314.5	サヌカイト	
510	砥石	13.6	28.2	5.8	3kg		
511	砥石	24.6	19.5	5.9	2kg		
512	すり石	37.3	21.2	9.7	13kg		

表18 土製品・玉類計測表

挿図 番号	器種	法量※()は復元径					調整	色調	胎土						備考	
		縦 (cm)	横 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	孔径 (cm)			角閃 石	長石	石英	赤色 粒子	白色 粒子	その 他		
601	模造鏡		3.3	1.7	ナデ、 指圧	暗褐色	ナデ	暗褐色	○							
602	土製紡錘車	4.5	5.7	1.9	40.2		ナデ	明褐色	○					◎		
603	土製紡錘車	6.4	6.4	1.3	44.4		ナデ・指圧	明褐色	◎	○				◎		表面にスス附着 裏面から穴を開けている
604	勾玉	2.7	0.8		4.6	0.3		灰色								
605	土製勾玉	3.2	1.3		10.9	0.4		褐灰色	◎			○	○			
606	小玉	0.3	0.5		0.1	0.2		青緑色								